

平成27年度 第1回宇都宮市生涯学習センター運営審議会

日 時：平成27年7月23日（木）
午前9時30分～

場 所：人材かがやきセンター研修室
（中央生涯学習センター）

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料1
- 4 生涯学習センター運営審議会について・・・・・・・・ 資料2
- 5 正副委員長選出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料3
- 6 議 事
 - (1) 各種協議会への委員の推薦等について・・・・・・・・ 資料4
 - (2) 平成26年度生涯学習センター事業運営の評価について 資料5
 - ・宇都宮市における地域教育について 【参考1】
 - ・生涯学習センターの役割について 【参考2】
- 7 報 告
 - (1) 平成27年度生涯学習センター事業運営の考え方について 資料6
- 8 そ の 他
- 9 閉 会

宇都宮市生涯学習センター運営審議会委員名簿

資料 1

(任期：平成 27 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日)

| 区分 | No. | 氏名 | 役職名等 | 備考 |
|---------------------------------------|-----|---------------------|--|----|
| 社会教育 の関係者 (センター 一代表者) | 1 | おおや やすひろ 大矢 裕啓 | 中央地区体育協会理事 (中央生涯学習センター) | |
| | 2 | たけうち りつ 竹内 律 | 陽東地区まちづくり協議会事務局長 (東生涯学習センター) | |
| | 3 | いとう しょういち 伊藤 昭一 | 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ (東生涯学習センター) | |
| | 4 | こんどう ひでこ 近藤 英子 | 明保地区明るいまちづくり協議会事務局長 (西生涯学習センター) | |
| | 5 | いわと はじめ 岩戸 肇 | 五代若松原地区連合自治会会長 (南生涯学習センター) | |
| | 6 | おおがね いきお 大金 勇夫 | 宝木地区まちづくり協議会会長 (北生涯学習センター) | |
| | 7 | ますぶち さちこ 増渕 幸子 | 瑞穂野生涯学習センタークラブ友の会会長 (瑞穂野生涯学習センター) | |
| | 8 | いしづか まさる 石塚 勝 | 姿川地区青少年育成会会長 (姿川生涯学習センター) | |
| | 9 | たかおか たかこ 高岡 耕子 | 横川地区地域内交通運営委員会事業部長 (横川生涯学習センター) | |
| | 10 | おぎわら つねお 萩原 庸男 | 篠井地区ゆたかなまちづくり協議会生涯学習部会長 (篠井生涯学習センター) | |
| | 11 | こばやし よしたか 小林 好孝 | ライフアップセミナー in かみかわち運営委員会委員長 (上河内生涯学習センター) | |
| 社会教育 の関係者 (センター 利用団 体代表者) | 12 | はせがわ きょうこ 長谷川 京子 | 中央生涯学習センター利用団体代表 (中央生涯学習センター) | |
| | 13 | しおだ てるお 塩田 輝夫 | 北生涯学習センター利用団体代表 (北生涯学習センター) | |
| | 14 | きみじま きょうこ 君島 京子 | 河内生涯学習センター利用団体代表 (河内生涯学習センター) | |
| 学校教育 の関係者 | 15 | くりはら たけお 栗原 武夫 | 宇都宮市立宮の原小学校長 (小学校長会) | |
| | 16 | ささき たくし 佐々木 徳志 | 宇都宮市立陽東中学校長 (中学校長会) | |
| 学識経験 を有する 者 | 17 | はねいし まさし 羽石 匡志 | 宇都宮青年会議所理事 | |
| | 18 | まるやま じゅんいち 丸山 純一 | 文星芸術大学美術学部教授 | |
| 教育長が 適当と認 めた者 | 19 | うがじん みつお 宇賀神 光夫 | 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ | |
| | 20 | さいとう ただお 斎藤 忠雄 | 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ | |

宇都宮市生涯学習センター運営審議会について

1 審議会の役割について

当審議会は、社会教育法第29条に基づく公民館運営審議会として、生涯学習センター事業の企画実施等について調査審議していただく機関です。

生涯学習センターの運営等に対していただいたさまざまな助言・提言を貴重な市民の声、または新たな知見として生涯学習センターの事業運営に役立てております。

2 審議会について

(1) 委員構成

委員定数20名

【内訳】① 社会教育関係委員

| | |
|--------------------|-----|
| ア 生涯学習センター代表委員 | 11名 |
| イ 生涯学習センター利用団体代表委員 | 3名 |
| ② 学校教育関係委員 | 2名 |
| ③ 学識経験委員 | 2名 |
| ④ 公募委員 | 2名 |

(2) 任期

2年（平成27年6月1日～平成29年5月31日まで）

3 今年度の主な審議内容について

- ・平成26年度事業運営の評価について
- ・平成28年度生涯学習センター事業運営の考え方について
- ・平成28年度生涯学習センター事業計画について
- ・その他（生涯学習センターの企画・運営に関して適宜、意見聴取）

4 今年度の会議開催スケジュールと議事について

- ・第1回 平成27年7月23日（今回）
- ・第2回 平成27年10月（予定）
 - (1) 平成28年度生涯学習センター事業運営の考え方について
 - (2) 平成28年宇都宮市成人式について
 - (3) 平成27年度生涯学習センター文化祭について
- ・第3回 平成28年3月（予定）
 - (1) 平成28年度生涯学習センター事業計画について
 - (2) その他、年度内に実施した事業の報告等

正副委員長の選出について

宇都宮市生涯学習センター条例施行規則第8条の規定に基づき、委員長及び副委員長を選出するもの

委員長

副委員長

【宇都宮市生涯学習センター条例施行規則】（抜粋）

（宇都宮市生涯学習センター運営審議会の委員長及び副委員長）

第8条 宇都宮市生涯学習センター運営審議会（以下「審議会」という。）に、委員長及び副委員長を置き、委員がこれを互選する。

- 2 委員長及び副委員長の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠の委員長及び副委員長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員長は、審議会の所掌事務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（平24教委規則7・旧第9条繰上・一部改正）

関係協議会への委員の推薦等について

○ 栃木県公民館連絡協議会の役員等

- ・ 栃木県内の公立公民館で組織する会であり、公民館活動の振興発展に寄与することを目的としている。
- ・ 協議会には、総会（役員，評議員が参加），役員会（会長，副会長，理事が参加）があり，今回，評議員について1名選出依頼がきている。
- ・ また，この協議会には，館長部会，主事部会，公民館運営審議会委員部会を置くこととなっており，今回，公民館運営審議会委員部会の委員として2名の選出依頼がきている。
- ・ 栃木県公民館連絡協議会では役員の任期を1年と定めているが，生涯学習センター運営審議会からの選出に際しては当該審議会の任期と合わせて2年間継続で依頼している。

〔選出する委員〕

◇ 評議員

委員

◇ 公運審委員部会

_____ 委員

第 2 次宇都宮市地域教育推進計画（うつのみや地域教育プラン）

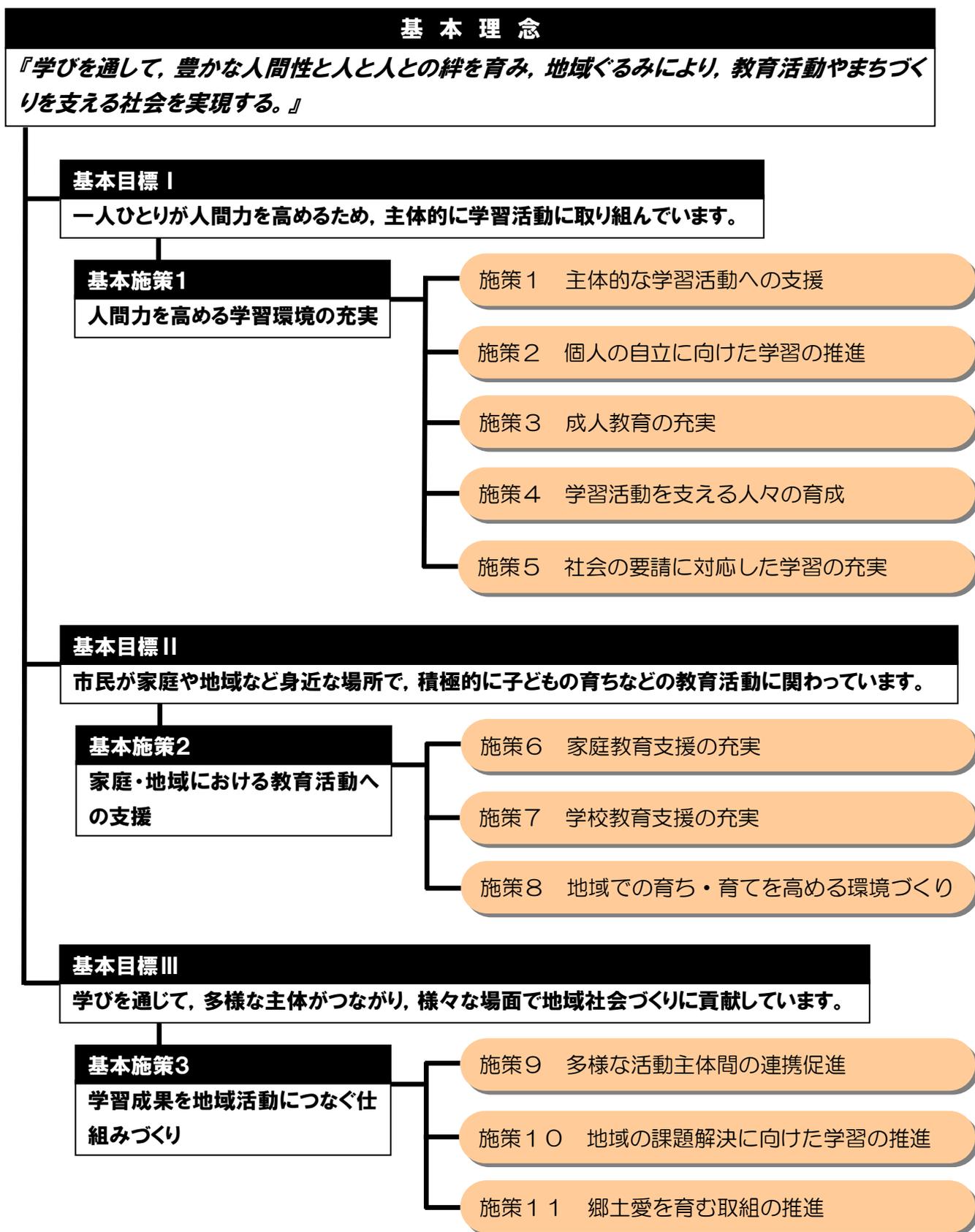
○ これまでの計画の特徴

- ・ 「第 1 次宇都宮市生涯学習推進計画」（平成 2 年度～平成 1 2 年度）
⇒ 生涯学習の基盤整備（施設整備，学習機会拡充，情報提供）
- ・ 「第 2 次宇都宮市生涯学習推進計画」（平成 1 3 年度～平成 2 2 年度）
⇒ 生涯学習の環境整備（学ぶ環境，生かす環境，つなぐネットワーク）
- ・ 「宇都宮市地域教育推進計画（第 3 次宇都宮市生涯学習推進計画）」
（平成 2 0 年度～平成 2 4 年度）
⇒ 「個人」のための学習支援から「社会」をつくる人づくりへ
（人間力の向上，家庭・地域の教育力の向上，主体的な学習活動の支援）

【第 2 次宇都宮市地域教育推進計画（うつのみや地域教育プラン）の概要】

| | |
|-------|--|
| 計画の期間 | 5 年間（平成 2 5 年度～平成 2 9 年度） |
| 基本理念 | 学びを通して，豊かな人間性と人と人の絆を育み，地域ぐるみにより，教育活動やまちづくりを支える社会を実現する。 |
| 基本目標① | 一人ひとりが人間力を高めるため，主体的に学習活動に取り組んでいます。（人づくり） 〔基本指標〕 学習活動をしている市民の割合 43.2%（H 2 3） ⇒ 48.4%（H 2 9） |
| 基本目標② | 市民が家庭や地域など身近な場所で，積極的に子どもの育ちなどの教育活動に関わっています。（絆づくり） 〔基本指標〕 放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数 14,716 人（H 2 3） ⇒ 37,438 人（H 2 9） |
| 基本目標③ | 学びを通じて，多様な主体がつながり，様々な場面で地域社会づくりに貢献しています。（地域づくり） 〔基本指標〕 地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合 56.6%（H 2 3） ⇒ 60.0%（H 2 9） |
| 基本施策 | 1 人間力を高める学習環境の充実 2 家庭・地域における教育活動への支援 3 学習成果を地域活動につなぐ仕組みづくり |

○ 計画の体系



○ 地域教育の推進について

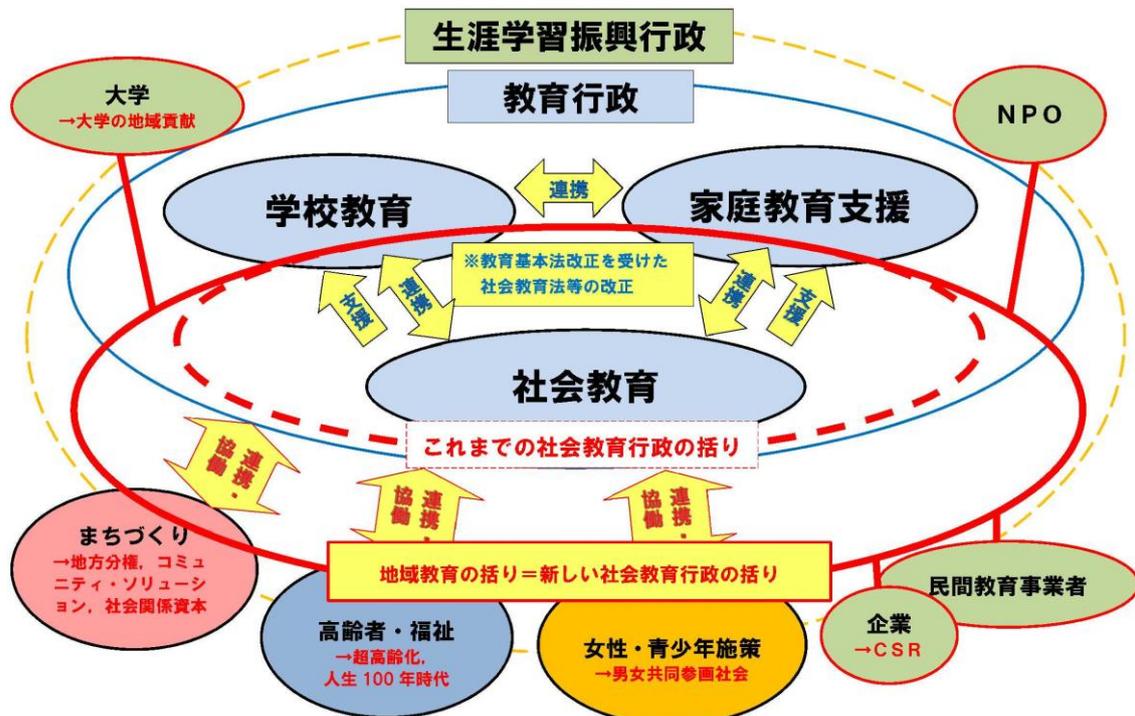
(1) 地域教育の推進

社会構造の急速な変化，低迷する経済による閉塞感や，人々の価値観やライフスタイルの急激な変化などを背景に，生涯学習へのニーズもますます多様化してきている。

一方では，退職前後の成熟期，円熟期の世代の地域におけるまちづくり活動への参加や，東日本大震災後の社会貢献意欲の高まりなど，地方分権の流れの中で地域自治を主体的に市民が支えていくための人づくりや人と人，学習と活動をつなぐ仕組みづくりが求められてきている。

国では，これまで示してきた「個人の要望と社会の要請のバランスの確保」「公共の課題に取り組む社会教育の振興」「地域社会で活躍する人材の育成」などの考えに加え，平成25年3月に中央教育審議会生涯学習分科会が公表した「議論の整理」において，現代的・社会的な課題等の学習機会の提供に当たっては，「社会教育行政」の担当部局と関係行政部局との連携・協働が重要であるとし，「社会教育行政」が取り組む範囲が拡大されたところである。

市でも，従来の「社会教育行政」の領域を越えた範囲を，「地域教育」として取り組んできたところであり，引き続きこうした流れを踏まえ，平成25年3月に策定された「第2次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき，学びを通して豊かな人間性と人と人との絆を育み，地域ぐるみにより，教育活動やまちづくりを支える社会の実現に向け，生涯学習センター等への支援や人材育成の拠点である「人材かがやきセンター」の事業の充実など，地域教育活動の促進や地域人材の育成に積極的に取り組むとともに，学習活動とその成果を地域活動につなぐ仕組みを構築し，「地域で学び，学んだ人が地域をつくる」地域教育のより一層の推進を図っていく。



【図】地域教育と新しい社会教育行政の関係

ア 地域教育推進体制の整備

(ア) 体制整備の目的

- ・ 生涯学習に関する市民の意識や活動が活発化する中、学んだ成果を発揮して、地域に貢献できるような人材を育成する。
- ・ 地域に貢献できる人材を育成していく「地域教育」(地域で学ぶ、地域で育てる、地域をつくる、地域ぐるみの教育)を着実に推進していく。

(イ) 体制整備の内容 (H22. 4~)

- ・ 18生涯学習センターの講座予算を50款で一括計上するなど、生涯学習課の本課機能の集約・強化を図り、全ての生涯学習センター(18館)を統括・支援する。
- ・ 中央、東、西、南、北の生涯学習センターを市民活動センター併設館とし、まちづくり支援担当職員(生涯学習センター職員兼務)を配置することで、人づくりとまちづくりの一体的推進を図る。
- ・ 生涯学習課内に地域に貢献できる人材の育成を目的とした地域人材育成グループを新たに設置し、指導者育成、関係職員研修、全市的・先導的事業の実施、プログラム開発、調査研究等を行う「地域教育推進センター機能」を付加する。
- ・ 全ての生涯学習センター(18館)においては、本課の方針等もふまえ、地域の実情に応じた事業展開や人づくり事業を実施する。

イ 地域かがやきプロジェクト(CKP)

- ・ 地域教育や地域の困りごとなどについて、地域住民が改めて考え、取り組みのきっかけになるような機会を創出するため、活動と学習の循環の考え方を構築し、各生涯学習センターを拠点として「地域かがやきプロジェクト」を展開している。

平成24年度…3事業、平成25年度…7事業、平成26年度…9事業
活動と学習の循環(CKPサイクル) [・・・6ページ](#)

ウ 人材かがやきセンター

(ア) 機能概要

- ・ 市民やボランティアなど多くの方が、学び、集い、情報交換や仲間づくりができる人づくりの拠点とし、「人材かがやきセンター」の『愛称』で、全市的な事業を実施している。

※ 事務室(中央生涯学習センター4階)、研修室(同5階)

- ・ 地域や家庭、学校などを場に活動している方や、これから活動したいと考えている方などに、それぞれの関心や活動レベルに合った講座や研修を体系的に実施するほか、全市的なモデル事業、高等教育機関との連携による調査研究、学習プログラムの開発・提供などを行うことにより、地域教育(家庭教育含む)の効果的な推進を図る。

(イ) 主な事業

| 機 能 | 事 業 内 容 |
|-------------------------|--|
| 地域教育のリーダーとなる指導者の養成・研修機能 | 研修事業 （関係職員や団体指導者などへの専門的研修等） ・生涯学習担当職員研修 ・社会教育主事ステップアップ研修 |
| | 人材育成事業 （地域に貢献できる人材の育成等） ・講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座 ・家庭教育サポーター養成講座 |
| 市民の地域教育活動を促進する全市的・先駆的機能 | 学習機会提供事業 （広域的事業、モデル事業、交流機会創出等） ・主催講座 ・市民大学 ・家庭教育支援講座 ・親学出前講座 ・地域教育メッセ ・地域教育出前講座 |
| | 情報提供事業 （情報提供システムの運用、周知広報等） ・生涯学習情報提供システムの運用 |
| | 学習相談事業 （学習相談窓口開設等） ・学習相談窓口開設 |
| 新たな学習プログラムの開発・調査研究機能 | 調査研究事業 （高等教育機関との共同研究等） ・生涯学習課の政策立案に係る事前調査 ・高等教育機関との共同研究 ・新たな学習プログラムの研究・開発 |

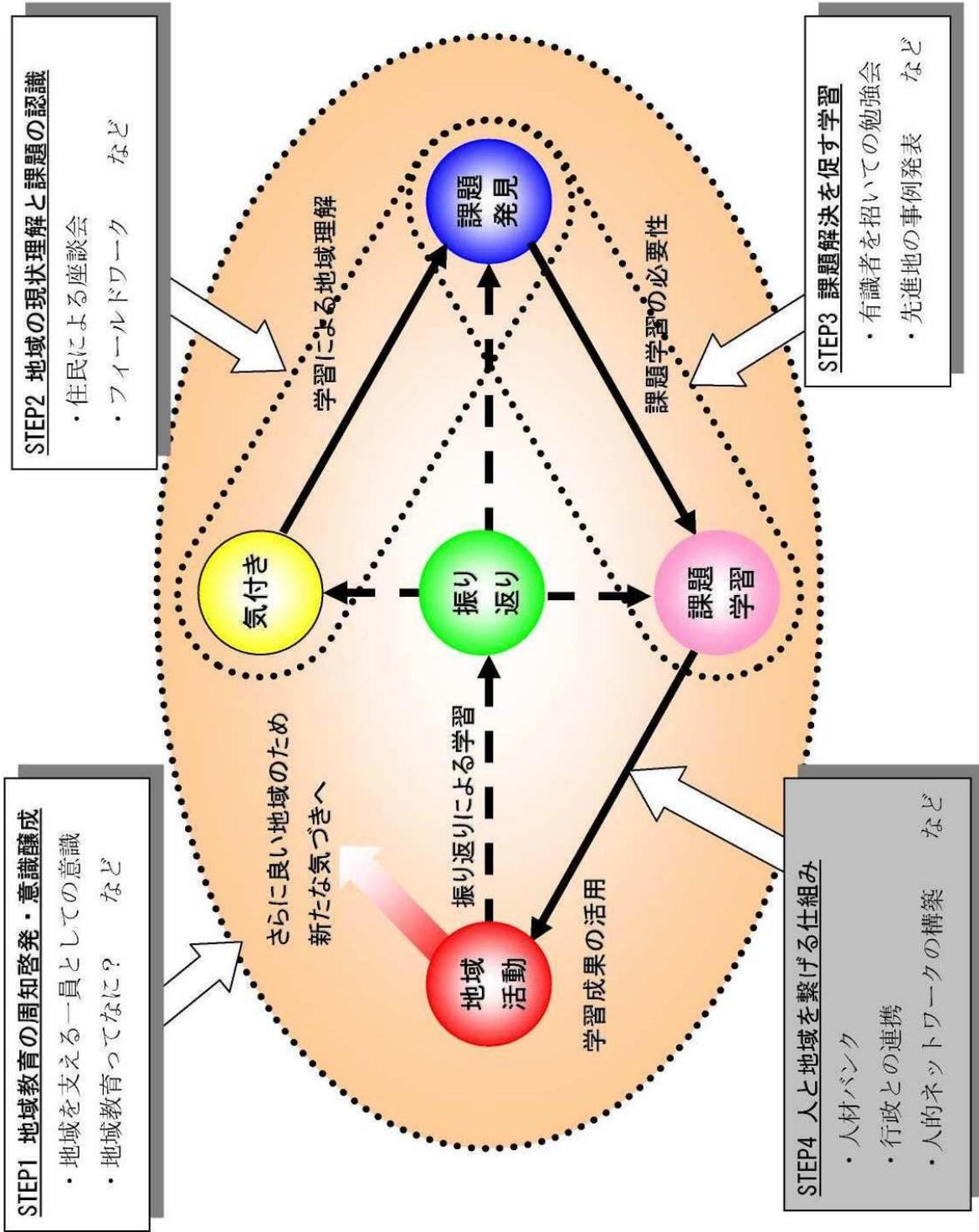
(ウ) 人材かがやきセンター事業（講座・研修）の体系区分

| 区 分 | 内 容 |
|--------|---|
| 地域教育区分 | ①社会教育（※②・③・④を除く主に成人教育及び青少年教育） ②家庭教育支援，③学校教育支援・連携，④関係職員教育 |
| 年 齢 層 | ①幼少期（～14歳），②青年期（15歳～20代），③壮年期（30～40代）， ④成熟期（50～60代），⑤円熟期（70代～） |
| 活動レベル | ①グリーティング（興味がある），②スターティング（始めたばかり）， ③ステップアップ（活動中），④リーダー養成（指導者をを目指す）， ⑤エキスパート支援（指導者） |

(エ) 事業実績等

| 年 度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|-------|------|------|------|------|------|
| 講 座 数 | 7講座 | 15講座 | 10講座 | 11講座 | 11講座 |
| 受講者数 | 172名 | 564名 | 288名 | 386名 | 623名 |

【図】 活動と学習の循環（CKPサイクル）



1 生涯学習センターの役割

市の「第5次総合計画」及び「地域教育推進計画」の方針に基づき、生涯学習を通じた人づくりを推進し社会に貢献する人材を育成するため、市民ニーズや社会的課題を的確に把握し、各種講座を企画運営し多様な学習の機会と場を提供する。さらに、学んだ人たちが習得した成果を家庭や地域において活用できるように支援することによって、人づくりや地域づくりを推進する役割を担っている。

全ての生涯学習センターにおいて、「人材かがやきセンター」、「市民大学」との各種事業が担う領域の特徴を踏まえ、個人の要望に応える事業と社会の要請に応える事業のバランスに配慮しながら多様な事業を推進するとともに、市民の生涯学習ニーズに応じた学習相談及び支援を行う。

また、自立した個人を養成するための事業や、地域の課題解決に向けた事業などに積極的に取り組み、住民の身近な地域における学習の拠点として「地域教育」の推進に向けた事業を実施する。

なお、講座等事業の実施にあたっては、開催日時や学習手法の検討、託児の充実など、引き続き受講環境を整備することにより、多くの市民が参加できるよう努めるとともに、地域の各種団体や企業などとの連携に配慮する。

※別紙資料…各種生涯学習講座が担う領域のイメージについて

(1) 生涯学習センター

ア 中央・東・西・南・北（市民活動センター併設）

平石・清原・横川・瑞穂野・城山・国本・富屋・豊郷・篠井・姿川・雀宮（地区市民センター併設）

地域の市民を対象に、運営方針に基づいた事業や、地域の実情に応じた事業、現代的課題の解決に資する事業などを実施するとともに、生涯学習に関する相談や情報の提供など、生涯学習課活動の支援などを行う。

また、市民活動センター併設館では、地域コミュニティセンターにおける活動の支援も行う。

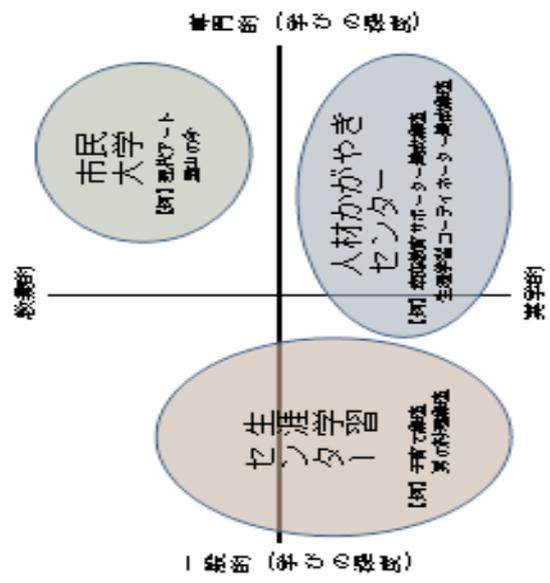
イ 上河内・河内生涯学習センター

合併地区について、その地域の市民を対象に、運営方針に基づいた事業や、地域の実情に応じた事業、現代的課題の解決に資する事業などを実施するとともに、生涯学習に関する相談や情報の提供など、生涯学習課活動の支援などを行う。

各種生涯学習課程が重点的に担う領域のイメージについて

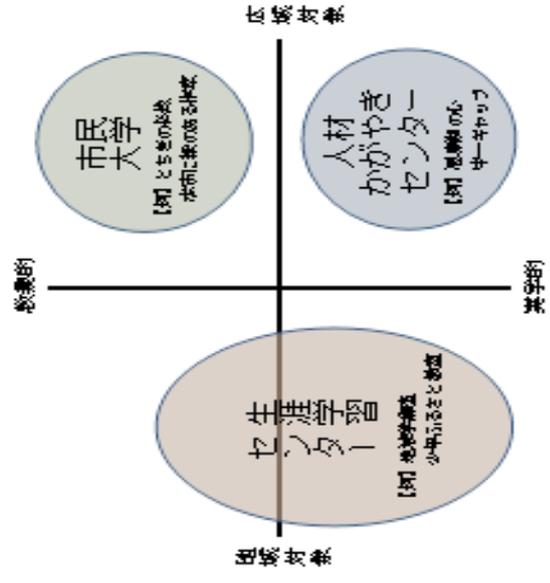
別紙資料

① 講座の内容（呼びの深さ）による区分



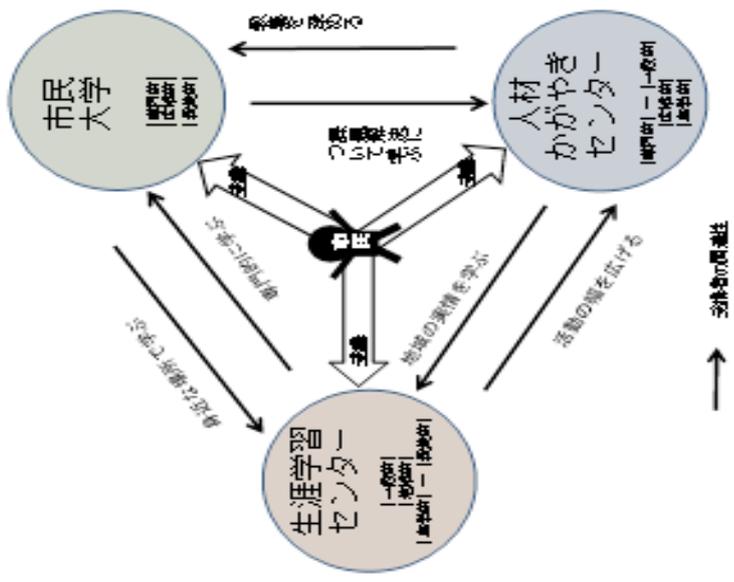
- 【生涯学習センター】
- ・「深層的」な講座を主として、「表層的」な講座まで、幅広い履修を担う。
 - ・「一時的」なレベルの履修を担う。
- 【人材かがやきセンター】
- ・主に「深層的」な講座を担う。
 - ・「一時的」な講座から「専門的」な講座まで、幅広いレベルの履修を担う。
- 【市民大学】
- ・主に「表層的」な講座の履修を担う。
 - ・「専門的」なレベルの履修を担う。

② 講座の目的（対象）による区分



- 【生涯学習センター】
- ・市民生活の場である「地域」的なテーマの講座を展開する。
- 【人材かがやきセンター】
- ・本市の地域教育推進施設であり、「広域的」なテーマの講座を展開する。
- 【市民大学】
- ・全市民を対象としており、「広域的」なテーマの講座を展開する。

③ 各種講座の関連性について

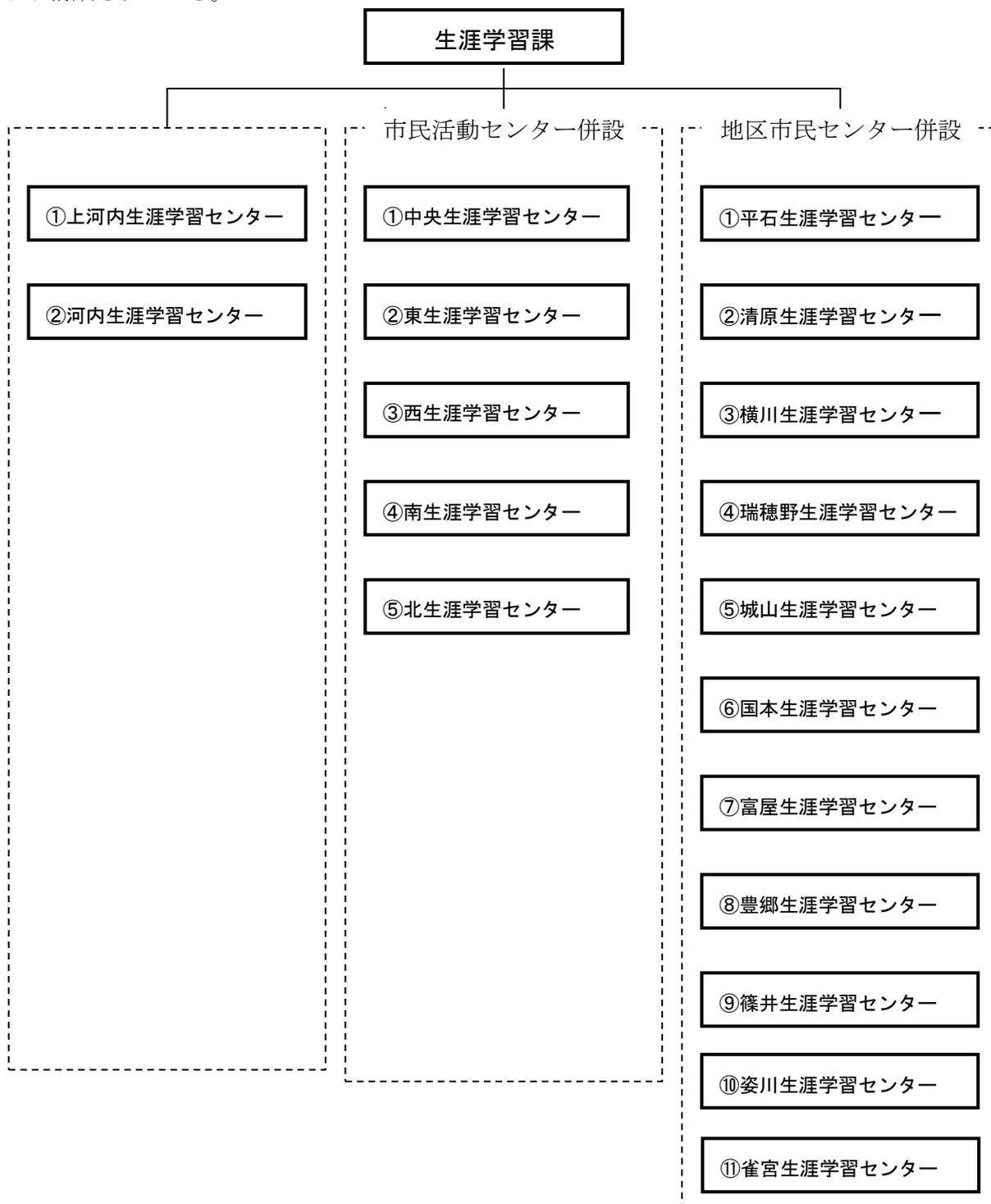


→ 各種講座の関連性

2 生涯学習センターの体制

(1) 組織体制

生涯学習センターの組織体制は、下記のとおりであり、平成22年度から中央生涯学習センターが担っていた中央館としての機能を生涯学習課の本課機能として集約・強化を図り、生涯学習課が全ての生涯学習センターを統括・支援することとしている。生涯学習センターは、教育委員会所管の生涯学習センター2か所と、市民まちづくり部所管の市民活動センター併設の生涯学習センター5か所、地区市民センター併設の生涯学習センター11か所の合計18か所により構成されている。



(2) 開館時間

| 貸 館 | 使 用 時 間 区 分 | | 休 館 日 |
|-------------|---|---------------------|-------------|
| | 午前の部 | 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0 | 12月29日～1月3日 |
| 午後の部 | 1 2 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0 | | |
| 夜間の部 | 1 7 : 3 0 ~ 2 1 : 3 0 | | |
| 図 書 室 | 月～金 | 土・日 | 休館日 |
| | 8 : 3 0 ~ 1 9 : 0 0 *カードの新規登録は、 平日8 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0のみ | 9 : 3 0 ~ 1 9 : 0 0 | 12月29日～1月3日 |

3 生涯学習センターの分担事務

(1) 生涯学習センターの事務分掌

※ 宇都宮市教育委員会の組織及び運営に関する規則

第18条 生涯学習センターは、次の各号に掲げる事務を分掌する。

- (1) 宇都宮市生涯学習センター条例(平成13年条例第47号)第4条に規定する生涯学習センターの事業に関する事。
- (2) 生涯学習センターの文書、予算、その他庶務に関する事。
- (3) 生涯学習センターの業務の進行管理に関する事。
- (4) 生涯学習の相談及び支援に関する事。

※ 宇都宮市生涯学習センター条例

第4条 センターの事業は、次のとおりとする。

- (1) 生涯学習の振興に資する事業の企画及び立案
- (2) 法第22条各号に掲げる事業
- (3) 生涯学習の振興に資する図書、資料、情報等の収集及び提供
- (4) その他市民への生涯学習の機会の提供について必要な事業

※ 社会教育法

第22条 公民館は、第20条の目的達成のために、おおむね、左の事業を行う。但し、この法律及び他の法令によって禁じられたものは、この限りでない。

- 1 定期講座を開設すること。
- 2 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等を開催すること。
- 3 図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図ること。
- 4 体育、レクリエーション等に関する集会を開催すること。
- 5 各種の団体、機関等の連絡を図ること。
- 6 その施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること。

4 生涯学習センターの沿革

- 昭和 24. 10. 17 城山公民館が設置される。(昭和29・11・1市立となる)
- 昭和 24. 12. 1 富屋公民館が設置される。(昭和29・11・1市立となる)
- 昭和 25. 1. 26 平石公民館が設置される。(昭和29・8・1市立となる)
- 昭和 25. 3. 20 豊郷公民館が設置される。(昭和29・11・1市立となる)
- 昭和 25. 7. 20 国本公民館が設置される。(昭和29・11・1市立となる)
- 昭和 26. 1. 26 篠井公民館が設置される。(昭和29・11・1市立となる)
- 昭和 26. 4. 1 瑞穂野公民館が設置される。(昭和29・10・1市立となる)
- 昭和 26. 8. 1 清原公民館が設置される。(昭和29・8・1市立となる)
- 昭和 26. 12. 1 姿川公民館が設置される。(昭和30・4・1市立となる)
- 昭和 28. 12. 1 雀宮公民館が設置される。(昭和30・4・1市立となる)
- 昭和 29. 8. 1 中央・東・築瀬・西原・戸祭・今泉・陽南・桜公民館が設置される。
- 昭和 29. 9. 25 横川公民館が設置される。
- 昭和 30. 10. 1 西・昭和・細谷・錦・峰公民館が設置される。
- 昭和 33. 2. 1 宇都宮市公民館連絡協議会が結成される。
- 昭和 44. 4. 1 中部公民館が設置される。(市立旭病院の建物を利用)
中央・東・西・築瀬・西原・昭和・桜・錦・富士見・峰・泉が丘・戸祭・
細谷・陽南公民館を分館とする。
- 昭和 46. 4. 1 南公民館が新設される。
石井分館・宮の原分館を開設
- 昭和 47. 11. 15 巡回文庫を開設，9公民館12分館を配本所とする。
- 昭和 48. 4. 1 御幸分館を開設
- 昭和 49. 4. 1 宝木分館を開設
- 昭和 51. 4. 1 城東分館・陽東分館を開設
- 昭和 53. 4. 1 東公民館が新設される。(今泉公民館廃止)
御幸が原分館を開設
- 昭和 55. 7. 2 明保分館を開設
- 昭和 56. 4. 1 市立図書館の開館に伴い，移動図書館が移管された。
- 昭和 57. 4. 1 北公民館が新設される。(細谷分館廃止)
- 昭和 58. 4. 1 陽光分館を開設
- 昭和 59. 4. 1 西公民館が新設される。(桜分館廃止)

雀宮公民館分館を開設

- 昭和 61. 10. 24 中部公民館が、10月6日新市庁舎開庁に伴い、中央1丁目1番13号、旧市役所別館南館に仮移転した。
- 昭和 62. 4. 1 旧市役所別館北館に移転、名称も『宇都宮市立中央公民館』とし、名実ともに市内にある公民館の核としての役割を担い開館した。
- 平成 元. 10. 16 地区市民センターとの施設複合化開始（雀宮公民館）
- 平成 3. 4. 1 地区市民センターとの施設複合化（篠井公民館）
- 平成 3. 4. 1 地区市民センターとの施設複合化（清原公民館）
- 平成 4. 4. 13 地区市民センターとの施設複合化（瑞穂野公民館）
- 平成 6. 4. 1 地区市民センターとの施設複合化（城山公民館）
- 平成 7. 4. 1 各分館長が専従職員（非常勤嘱託員）となる。
- 平成 7. 10. 14 西原分館の会議室（空き教室利用）の開所式
- 平成 8. 4. 1 地区市民センターとの施設複合化（豊郷公民館）
- 平成 8. 4. 1 生涯学習課より権限の一部を中央公民館に委譲
- 平成 9. 4. 1 地区市民センターとの施設複合化（富屋公民館）
- 平成 9. 10. 20 南公民館改築される。
- 平成 10. 5. 11 宝木分館の会議室（空き教室利用）の拡大
- 平成 10. 6. 1 東分館の会議室（空き教室利用）の拡大
- 平成 12. 10. 1 地区市民センターとの施設複合化（国本公民館）
- 平成 13. 1 南公民館エレベーター設置
- 平成 14. 3. 30 錦分館改築される。
- 平成 14. 4. 1 公民館条例の廃止、生涯学習センター条例制定の議決に伴い、中央・東・西・南・北公民館及び11地区公民館と共に『生涯学習センター』と名称変更。中央公民館は『中央生涯学習センター』として宇都宮市の生涯学習の中枢として開設された。また分館は『地域コミュニティセンター』となった。
- 平成 14. 6. 24 地区市民センターとの施設複合化（平石生涯学習センター）
- 平成 15. 8 中央東西南北生涯学習センター施設内全面禁煙
- 平成 15. 12. 22 地区市民センターとの施設複合化（姿川生涯学習センター）
- 平成 18. 3. 20 地区市民センターとの施設複合化（横川生涯学習センター）
- 平成 19. 3. 31 上河内町、河内町との合併に伴い、以下の施設を所管。
- ・ 上河内生涯学習センター（本館、ひばり館）
* 旧上河内町中央公民館、同ひばり館
 - ・ 河内生涯学習センター（本館、田原館）

*旧河内町中央公民館，同田原分館

- 平成 22. 4. 1 以下の施設を自治振興部に所管替。
- ・中央生涯学習センター
 - ・東生涯学習センター
 - ・西生涯学習センター
 - ・南生涯学習センター
 - ・北生涯学習センター
- 平成 26. 9. 30
- ・上河内生涯学習センターひばり館を閉館

平成26年度生涯学習センター事業運営の評価について

1 実施状況

平成26年度に各生涯学習センターで実施した生涯学習講座の状況については、講座数は137講座（前年度129講座）、実施回数は634回（前年度616回）となり、各地域の学習拠点において、継続した学習機会を提供する事ができている。また、参加者数は、延べ22,322人（前年度22,098人）と増加している。

2 事業運営の評価

(1) 重点項目「ア 人間力の向上に資する事業の充実」

【考え方】

激しく変化する社会の中で、市民一人ひとりが心豊かに生活できるよう、学ぶことの喜びや仲間づくりにつながる趣味・教養的な講座を引き続き実施するとともに、生活に役に立つ講座や青少年リーダー育成など、個人の自立を促すための講座や、国際交流、男女共同参画、人権、まちづくりなど社会の要請に対応した講座の充実を図る。

【実績・評価】

「趣味・教養的な講座内容」については、昨年度同様に多くの講座で実施しており、学びを通して人と人との絆を育むとともに、学ぶことの喜びやその意欲の向上につながる機会を提供している。また、「個人の自立を促すための講座内容」についても昨年度同様に、各地域において主体的な課題解決に向けた学習の提供ができている。

「社会の要請に対応した講座内容」については、昨年度と比較して13の増加となり、多様化・複雑化している社会的な課題に対する学習機会の提供ができている。

| | |
|------------------|--------------|
| ・趣味・教養的な講座内容 | 193（前年度：197） |
| ・個人の自立を促すための講座内容 | 87（前年度：86） |
| ・社会の要請に対応した講座内容 | 105（前年度：92） |

※ 趣味・教養的な講座内容：「文化・教養」、「趣味・生きがい」、「交流・仲間づくり」

※ 個人の自立を促すための講座内容：「生活課題」、「行政理解」、「指導者養成」

※ 「社会の要請に対応した講座内容」：「社会的課題」、「地域理解」、「学校連携」、「人権」

(2) 重点項目「イ 家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実」

【考え方】

「人づくり」の基本となる家庭と地域の教育力の向上を図るため、家庭や親の役割や責任、子どもとの関わり方などについて保護者の気づきを促す講座や子育ての知識や技術を身につけるための講座などを実施する。実施にあたっては子育て中の親の仲間づくりにつながるよう、参加交流機会の充実に努める。

また、地域ぐるみで子どもを育てる意識の醸成を図るとともに、学校や企業など、地域を構成する各主体とのより一層の連携・協力を図り、家庭と地域が抱える課題の解決に資する事業の充実に努める。

【実績・評価】

「子育て世代を対象とした事業」の事業数や参加者数がともに前年度より減少しているが、交流・仲間づくりを目的とした講座数はほぼ同数（36講座）であることから、子育ての知識を学ぶだけでなく、子育てにおいて有効な親同士の意見交換などを意識した交流の場や子育てネットワークづくりの場の提供など、参加交流機会の充実が図られている。

また、「学校や企業との連携講座」も昨年同様に開催されており、地域ぐるみで子どもを育てる意識の醸成と学校や地域団体、企業などとの連携や協力による家庭と地域が抱える課題の解決に資する事業の充実が図られている。

- ・子育て世代対象事業 38講座，209回（前年度：40講座，232回）
→うち、交流・仲間づくりを目的とした講座 35講座
- ・学校や企業との連携講座 28講座（前年度：27講座）

(3) 重点項目「ウ 学習情報拠点としての充実」

【考え方】

市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、生涯学習センターは地域の学習情報の拠点として、積極的な情報収集や提供とともに、生涯学習センターの情報共有を行い、学習相談の充実に努める。

【実績・評価】

各生涯学習センターにおいて、来館や電話による学習相談や相談者のニーズに応じた情報提供を行うなど、学習相談の充実が図られている。

| 指標 | H26 | H25 | 備考 |
|---------------------------|--------|--------|----------------------|
| 学習相談件数 | 2,209件 | 1,671件 | 「参考資料」参照 |
| 生涯学習センターへの登録件数 (団体・講師) | 2,496件 | 2,762件 | 生涯学習情報提供システム(マナビス)より |

※「宇都宮市生涯学習情報提供システム」(通称「マナビス」)をリニューアル

(4) 重点項目「エ 地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進」

【考え方】

市民の地域に根差した学習活動を推進するため、各種ボランティア等の養成を推進するなど、地域で活躍できる「人づくり」の充実を図るとともに、地域に目を向け、地域のもつ魅力や課題に気づききっかけとする「地域学講座」の実施・充実に努める。また、学んだ人材が学習成果や経験を活かせるような機会と場の提供に努める。

【実績・評価】

「地域学講座」の実施・充実を図った結果、「地域理解を目的とした講座」が前年度より増加したとともに、「指導者養成を目的とした講座」も昨年度同様に開催され、地域で活躍できる「人づくり」の充実も進んでいる。また、学んだ人材が学習成果や経験を活かせるような機会と場の拡充を図るため、「講座企画・運営ボランティアスタッフ(Vスタッフ)制度」を見直した。

- ・地域理解を目的とした講座 42講座（前年度：36講座）
- ・指導者養成を目的とした講座 14講座（前年度：13講座）

平成26年度 生涯学習センター講座内容別一覧

| 区分 | 事業数 | | 延べ参加者数 | 講座内容の種別(複数該当あり) | | | | | | | | | | |
|-----------|-------|------|---------|-----------------|---------|----------|----------|------|-------|----------|------|---------|----|-----|
| | 講座数 | 実施回数 | | 趣味・教養的 | | | 個人の自立を促す | | | 社会の要請に対応 | | | | その他 |
| | | | | 文化・教養 | 趣味・生きがい | 交流・仲間づくり | 生活課題 | 行政理解 | 指導者養成 | 社会的課題 | 地域理解 | 企業・学校連携 | 人権 | |
| 青少年対象事業 | 28講座 | 93回 | 3,423人 | 13 | 1 | 25 | 10 | 0 | 4 | 7 | 11 | 16 | 2 | 4 |
| 子育て世代対象事業 | 38講座 | 209回 | 8,220人 | 12 | 2 | 35 | 22 | 0 | 1 | 3 | 3 | 5 | 0 | 8 |
| 成人対象事業 | 71講座 | 332回 | 10,679人 | 47 | 19 | 39 | 38 | 3 | 9 | 23 | 28 | 7 | 0 | 1 |
| 総計 | 137講座 | 634回 | 22,322人 | 72 | 22 | 99 | 70 | 3 | 14 | 33 | 42 | 28 | 2 | 13 |

【参考】平成25年度 生涯学習センター講座内容別一覧

| 区分 | 事業数 | | 延べ参加者数 | 講座内容の種別(複数該当あり) | | | | | | | | | | |
|-----------|-------|------|---------|-----------------|---------|----------|------------|------|-------|----------|------|---------|----|--|
| | 講座数 | 実施回数 | | 趣味・教養的 | | | 個人の自立を促すため | | | 社会の要請に対応 | | | | |
| | | | | 文化・教養 | 趣味・生きがい | 交流・仲間づくり | 生活課題 | 行政理解 | 指導者養成 | 社会的課題 | 地域理解 | 企業・学校連携 | 人権 | |
| 青少年対象事業 | 21講座 | 73回 | 3,085人 | 10 | 1 | 21 | 9 | 0 | 1 | 3 | 9 | 14 | 1 | |
| 子育て世代対象事業 | 40講座 | 232回 | 9,401人 | 18 | 1 | 36 | 25 | 0 | 1 | 5 | 6 | 6 | 0 | |
| 成人対象事業 | 68講座 | 311回 | 9,612人 | 44 | 29 | 37 | 36 | 3 | 11 | 19 | 21 | 7 | 1 | |
| 総計 | 129講座 | 616回 | 22,098人 | 72 | 31 | 94 | 70 | 3 | 13 | 27 | 36 | 27 | 2 | |

平成26年度 生涯学習センター別講座数等一覧

| 事業名 | センター名 | 中央 | 東 | 西 | 南 | 北 | 平石 | 清原 | 横川 | 瑞穂野 | 城山 | 国本 | 富屋 | 豊郷 | 篠井 | 姿川 | 雀宮 | 上河内 | 河内 | 計 |
|-----------|--------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|--------|
| | 項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 青少年対象事業 | 講座数 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 5 | 1 | 2 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 28 |
| | 実施回数 | 6 | 2 | 6 | 2 | 2 | 2 | 9 | 2 | 12 | 3 | 0 | 9 | 6 | 7 | 5 | 7 | 3 | 10 | 93 |
| | 延べ参加者数 | 98 | 71 | 127 | 38 | 108 | 39 | 226 | 50 | 797 | 77 | 0 | 635 | 291 | 428 | 145 | 93 | 37 | 163 | 3,423 |
| 子育て世代対象事業 | 講座数 | 2 | 3 | 3 | 4 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 5 | 38 |
| | 実施回数 | 15 | 18 | 13 | 15 | 11 | 17 | 6 | 11 | 4 | 16 | 9 | 12 | 12 | 9 | 0 | 6 | 5 | 30 | 209 |
| | 延べ参加者数 | 878 | 741 | 503 | 249 | 233 | 1,238 | 182 | 398 | 176 | 763 | 275 | 228 | 531 | 122 | 0 | 255 | 151 | 1,297 | 8,220 |
| 成人対象事業 | 講座数 | 4 | 2 | 9 | 4 | 3 | 4 | 0 | 3 | 2 | 1 | 3 | 5 | 3 | 3 | 6 | 2 | 7 | 10 | 71 |
| | 実施回数 | 33 | 16 | 41 | 21 | 18 | 12 | 0 | 16 | 5 | 1 | 9 | 16 | 12 | 18 | 15 | 11 | 39 | 49 | 332 |
| | 延べ参加者数 | 1,422 | 635 | 948 | 565 | 526 | 482 | 0 | 363 | 152 | 14 | 157 | 470 | 658 | 462 | 1,015 | 433 | 707 | 1,670 | 10,679 |
| 総計 | 講座数 | 7 | 6 | 14 | 10 | 7 | 8 | 6 | 6 | 5 | 4 | 4 | 10 | 6 | 6 | 7 | 5 | 9 | 17 | 137 |
| | 実施回数 | 54 | 36 | 60 | 38 | 31 | 31 | 15 | 29 | 21 | 20 | 18 | 37 | 30 | 34 | 20 | 24 | 47 | 89 | 634 |
| | 延べ参加者数 | 2,398 | 1,447 | 1,578 | 852 | 867 | 1,759 | 408 | 811 | 1,125 | 854 | 432 | 1,333 | 1,480 | 1,012 | 1,160 | 781 | 895 | 3,130 | 22,322 |

【参考】平成25年度 生涯学習センター別講座数等一覧

| 事業名 | センター名 | 中央 | 東 | 西 | 南 | 北 | 平石 | 清原 | 横川 | 瑞穂野 | 城山 | 国本 | 富屋 | 豊郷 | 篠井 | 姿川 | 雀宮 | 上河内 | 河内 | 計 |
|-----------|--------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|--------|
| | 項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 青少年対象事業 | 講座数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 21 |
| | 実施回数 | 5 | 2 | 5 | 1 | 1 | 2 | 3 | 2 | 7 | 3 | 0 | 7 | 6 | 6 | 5 | 7 | 0 | 11 | 73 |
| | 延べ参加者数 | 69 | 79 | 93 | 26 | 63 | 51 | 41 | 57 | 672 | 64 | 0 | 567 | 190 | 581 | 193 | 119 | 0 | 220 | 3,085 |
| 子育て世代対象事業 | 講座数 | 2 | 3 | 4 | 4 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 2 | 5 | 40 |
| | 実施回数 | 14 | 18 | 13 | 18 | 7 | 45 | 6 | 10 | 4 | 16 | 7 | 14 | 12 | 9 | 0 | 6 | 9 | 24 | 232 |
| | 延べ参加者数 | 1,544 | 858 | 519 | 509 | 115 | 1,294 | 240 | 407 | 108 | 826 | 182 | 245 | 591 | 188 | 0 | 255 | 180 | 1,340 | 9,401 |
| 成人対象事業 | 講座数 | 3 | 2 | 6 | 5 | 6 | 4 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | 5 | 2 | 3 | 4 | 2 | 6 | 10 | 68 |
| | 実施回数 | 18 | 16 | 37 | 23 | 26 | 12 | 1 | 13 | 5 | 1 | 10 | 12 | 11 | 14 | 15 | 11 | 38 | 48 | 311 |
| | 延べ参加者数 | 863 | 563 | 863 | 627 | 730 | 623 | 32 | 426 | 98 | 19 | 167 | 391 | 675 | 510 | 315 | 498 | 787 | 1,425 | 9,612 |
| 総計 | 講座数 | 6 | 6 | 11 | 10 | 9 | 8 | 4 | 6 | 5 | 4 | 4 | 10 | 5 | 6 | 5 | 5 | 8 | 17 | 129 |
| | 実施回数 | 37 | 36 | 55 | 42 | 34 | 59 | 10 | 25 | 16 | 20 | 17 | 33 | 29 | 29 | 20 | 24 | 47 | 83 | 616 |
| | 延べ参加者数 | 2,476 | 1,500 | 1,475 | 1,162 | 908 | 1,968 | 313 | 890 | 878 | 909 | 349 | 1,203 | 1,456 | 1,279 | 508 | 872 | 967 | 2,985 | 22,098 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

中央生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------------------|---|---------------------------|------|----|----|----|----|---|----|---------|------|---|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 若者ナイトセミナー | ・社会生活や仕事に役立つ知識の習得 ・同世代の若者同士の情報交換や仲間づくり | 市内在住または通勤・通学する概ね18～35歳の成人 | ○ | ○ | - | ○ | - | - | 6 | 9月～10月 | 98人 | ・グループに分かれ、自分の意見を出し合う機会を設けたので、受講生同士の交流が深まり情報交換をする様子も見られた。 ・リピーターが多数見受けられたので、違った視点からの講座内容を考え、新しい受講生獲得へと繋げる。 | ・青年層に学んで欲しい関心事項や課題を明確にし、講座内容や周知方法を検討する。 | 青少年 |
| 2 | 金曜まなび塾 | ・宇都宮市の行政をはじめ、幅広い視野に立って学習することにより、市政および身近な問題への理解を深める。 ・講座受講のためにセンターに足を運ぶことにより、生涯学習の情報収集を促し、他の講座の受講やサークル活動・行事への参加へと繋げる。 | 市内在住または通勤する成人 | ○ | - | ○ | - | ○ | - | 11 | 7月～12月 | 539人 | ・受講生の平均年齢や男女比、特色について伝え資料を基に講話をして頂くようお願いしたところ受講生から「大変良かった」との声が多かったが、休憩時間中や途中で帰ってしまう受講生の姿がみられた。 | ・講座途中で帰る受講生にアンケートを記入してもらうなど課題の把握に努めるとともに、次回以降の連絡事項等の漏れがないようにする。 | 成人 |
| 3 | 市民運営講座「大谷石その文化と歴史」 | ・産業遺産としての採掘・景観・軌道鉄道、大谷寺の磨崖仏や松が峰教会等の文化財、宮沢賢治との人的交流、当時の市民生活、現在への影響(石蔵等)などについて学び、理解を深める。 | 市内在住または通勤する成人 | ○ | - | - | - | - | - | 4 | 11月～12月 | 141人 | ・企画段階から「コーディネーターとしてすべき事」等を話す機会を設けたので、自分達で役割分担等を決め取り組んでいたが、受講生のように講座中過ごしている様子もうかがえたので、講師と受講生に対する配慮を心がけていくことが必要。 | ・コーディネーターがお互いに声を掛け合いながらさらに講師や受講生に配慮できるように促していく。 | 成人 |
| 4 | 市民運営講座「ふるさと再発見2」 | 「ふるさと宇都宮」の誇るべき文化や歴史を振り返るとともに、現在の宇都宮を見つめ、市民として「誇れる街にするには」を考える。 | 市内在住または通勤の成人 | ○ | - | - | ○ | - | - | 4 | 1月～2月 | 198人 | ・事前調整では問題なかったが、ポータブルマイクが他の階と干渉し、調整が必要だった。 ・募集定員を上回る応募者があり、講師の了承を得て受講者数を急遽増やしたが、人数に見合った会場が確保できず窮屈な会場での実施となってしまった。 | ・マイクテスト等音響設備の準備は、他階の利用状況の確認も併せて行う。 ・計画した会場に適正な人数での開催とする。 | 成人 |
| 5 | 地域応援講座 | 地域の実情に沿った講座を地域コミュニティセンターで開催することで、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけづくりとする。 | 所管する8地域内の一般成人 | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | 14 | 6月～12月 | 544人 | ・共催事業の位置づけで各コミセンで実施したが、講座内容については、検討する必要がある。 | ・地域の持つ魅力や人材を探すきっかけづくりとする地域学講座を実施していきたい。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

中央生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------------|---|----------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|-----------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 6 | 子育て広場 | 子育ての学習やレクリエーションを通して、親子のふれあいを深め、また、仲間づくりや情報交換の場として親子同士の交流を育む。 | 市内在住の乳幼児とその保護者 | ○ | ○ | - | - | - | - | 10 | 5月～2月 | 374組・736人 | ・体を動かす講座が多いので、温度調節や休憩時間のとりかたなど臨機応変な対応が必要。 | ・講師との事前打ち合わせでは、内容の他にタイムスケジュールも詳細に確認する必要がある。 | 子育て |
| 7 | 親と子のワクワク体験講座 | 親が子供と一緒に体験や活動することを通して、子供の成長を感じ、理解を深めるとともに、他の親子との交流を図りながら、仲間づくりや情報交換する機会を提供する。 | 小学生の親子 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 7月～10月 | 63組・142人 | ・小学校低学年の参加が多いため、内容を難しくなり過ぎないように配慮してもいいのかなと思った。 | ・親子で協力して達成できる難易度になるよう内容を考慮する。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

東生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------------|--|-----------------------|------|----|----|----|----|---|---|--------|-----------|--|---|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 1 | 子ども国際理解サマースクール講座 | グローバル化社会における国際理解には、さまざまな背景を持つ子どもたちが、ともに生活や学習することを通し、そのための新しい関係をどのように作るのかが大切である。このような観点から、具体的実践として①自分自身を知る②相手を認める③互いにかかわる④自分自身に誇りを持つ、の視点から子どもが主体的に学習する場を提供する。 | 市内在住の小学4～6年生 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 2 | 8月 | 71人 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度の当初から、こまめに宇都宮大学と連絡を取り合い、蜜に協議を重ねてきたため、スムーズに講座を開催することができた。 ・夏場の開催であるため、引き続き受講生の体調管理には十分注意していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も宇都宮大学と早期に連絡・連携を取り合い、受講生にとってより充実した講座が提供できるように努力する。 | 青少年 | |
| 2 | 高齢者現代セミナー「東雲塾」 | 高齢者がその年齢にふさわしい社会的能力を高め、明るく健康で充実した生活を送るために、知識・健康・レクリエーションに関する学習を行う。 | 市内在住か通勤している65歳以上の成人 | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | 8 | 5月～12月 | 230人 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習や体験活動には関心が高く、意欲的な受講生が多かった。募集定員に満たない状況で、年齢下限を変更するなど考慮すべきである。 | <ul style="list-style-type: none"> ・応募者数が定員に満たないことから、広報活動、周知方法について検討する。 | 成人 | |
| 3 | 市民運営講座「ふれあい塾」 | 一般成人の方が豊かな生活を送る一助となるよう、歴史・文化・社会などの学習をする。グループワークを行いながら、参加者同士の交流を深める。 | 宇都宮市内在住か通勤している20歳以上の人 | ○ | - | ○ | ○ | - | - | 8 | 5月～12月 | 405人 | <ul style="list-style-type: none"> ・講師との打ち合わせをコーディネーターに任せることなく、電話等によりまめに連絡を取り合ったことで円滑な運営ができた。 ・講師謝金額の規定が十分理解されず、支払い時点で行き違いが多少あった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習コーディネーターには、謝金などの相談をするよう伝えるとともに、無理のない講座運営ができるよう連絡を密にする。 | 成人 | |
| 4 | すくすく子育て講座(前期) | 親子のスキンシップを図りながら、子育ての知識を学ぶ。親同士、子ども同士のコミュニケーションを図る。 | 市内在住の1歳～2歳児とその保護者 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 6 | 5月～9月 | 104組・209人 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の改善点として前期講座募集を1～2歳児で行なったが、定員に満たなかったため周知期間を検討したい。 ・幼児向け(親子で行なう)エアロビクスやフィットネス等に内容が重なってしまったため、内容を再検討したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講座の内容を充実するため年齢制限の募集をかけたが、周知期間が短かった。講座内容と講師依頼を検討する。 | 子育て | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

東生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|---------------|--|-------------------|------|----|----|----|----|---|---|--------|-----------|--|--|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 5 | すくすく子育て講座(後期) | 同上 | 市内在住の2歳～3歳児とその保護者 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 6 | 10月～2月 | 208組・416人 | <ul style="list-style-type: none"> ・後期に応募が多い傾向は依然として変わらないが、冬期は体調不良等の理由により受講生の出席率が下がるため、定員を上回る応募があった。すべての応募者を受け入れた。 ・人形劇等、座っている時間が長い講座では、じっとしていられずに走りまわる子供が数人おり(保護者もあまり注意しないこともあり)、他の受講生が落ち着いて観劇できない場面があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・後期(2～3歳児対象)年齢を統一することにより応募の偏り解消ができた。また、開講時や休憩時間に、受講生が楽しく受講できるよう注意事項等のアナウンスをする。 | 子育て | |
| 6 | 親子でDoing | 実験や体験をとおし、親子のスキルシップを図りながら、ものづくりについて学ぶ。 地域人材の協力を得て、地域教育力の向上を目指す。 | 小学校3年生とその保護者 | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | 6 | 5月～8月 | 57組・116人 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たな講師派遣をすることにより、打ち合わせ等にかかる時間が少なかったため、講座内容の検討が必要になった。 ・館内小学校を対象に募集をかけたが、開催日と学校事業・地域事業が重なってしまい、講座開催日と受講募集の検討をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙による参加募集と館内小学校へ募集チラシの配布を検討・実施。 | 子育て | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

西生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------------|---|---------------------|------|----|----|---|---|----|---|-------|------|---|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | W | S | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 子ども映画会inサマー | 夏休みを活用した子供向けの映画を上映し、情操を育むとともに夏休みの思い出づくりに寄与する。 | 主に地域内小学生 | - | - | ○ | - | - | - | - | 1 | 8月 | 15人 | ・事前受付を行い、保護者同伴も可としたが定員よりも参加者が少なかった。 | ・引き続き、夏休み前に地区内小学校の全学年へ周知案内を行なっていくとともに、広報誌掲載等による幅広い周知や上映アニメ作品の選択をより精査しながら開催していく。 | 青少年 |
| 2 | 夏休みチャレンジ教室 | 夏休みを利用して様々な学習や体験を通じて、創造性や思考力を培うとともに、仲間との交流を深める。 | 小学校4年生～6年生(市内小学校在学) | - | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 7月～8月 | 112人 | ・スイーツデコと布ぞうり制作で、講師や補助者の人数不足のため児童への十分なフォローができなかった。 | ・実際の講座では打ち合わせ通りに進行しないことがあるため、工作等は補助者を配置するようにする。 | 青少年 | |
| 3 | ふれあい映画会inサマー | 懐かしく思い出深い洋画を上映し楽しんでいただくことで、若返る気持ちを醸成し、豊かな生活につなげていく。 | 成人(市内在住・通勤) | - | - | ○ | - | - | - | 1 | 8月 | 36人 | ・地区内回覧の他、広報誌にも掲載し幅広い周知を行なったが周知期間が若干短かった。 ・通常使用しているパイプイスを設置したが、上映中にきしむ音がした。 | ・新規事業としては、まずまずの来場者を迎えることができたので、周知期間を早める等してさらなる集客を図りたい。 ・予備用のイス等を優先的に設置し、消耗しているイスは設置しない。 | 成人 | |
| 4 | ふれあい映画会 | 日本映画の名作かつ高倉健さんの追悼も込めた映画を上映し、故人を偲んでいただくとともに日本映画の良さをあらためて感じていただく。 | 成人(市内在住・通勤) | - | - | ○ | - | - | - | 1 | 3月 | 62人 | ・16ミリ映画での上映だったが、機材の取り扱いや上映手法について担当者が事前に学習し指導も受けながら取り組んだので、円滑な上映につながったが、天候の影響もあったためか駐車場の混雑が見受けられた。 | ・事前申し込みの際に、乗り合わせや公共交通機関等での来所を周知徹底したり、当日の活動サークルにも早期に状況説明を行なっていく。 | 成人 | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

西生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-------------------------|---|------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|------|---|---|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 5 | 転ばぬ先のツエ講座 | 振り込み詐欺など、生活の中で様々なリスクを予測し、回避・軽減するために役立つ知識や技術を学習・習得することにより心豊かで充実した生活が送れるよう支援する。 | 市内在住の成人 | ○ | ○ | - | - | - | - | 6 | 6月～12月 | 117人 | <ul style="list-style-type: none"> 全体を通して座学が主となる内容の講座であり、受講生からは毎回ためになったとの感想をもらうことができた。しかし、講座の募集時にはなかなか人が集まらず、周りの協力もあってなんとか十分な数の受講生を募ることはできたが、この点については非常に苦労した。 嶋均三氏を講師に迎えて行った公開講座は非常に盛況で、人を集める講座の組み立て方について考えさせられた。 | <ul style="list-style-type: none"> 講座名からも内容がある程度掴めるように、講座のネーミングについても考慮する。 27年度については当講座は廃止し、同じように座学にて役立つ知識を得ることを目標とした「ナルホド！知っ得！くらしの講座」を新規に立ち上げ、募集方法など当講座での反省点を活かせるようにする。 | 成人 |
| 6 | 市民運営講座(シニアいきいきアンチエイジング) | いつまでも元気で、脳と体と心に若さを保ち、毎日をいきいきと過ごすための学習や受講者同士の交流を深める。 | 50歳以上の方(市内在住・通勤) | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 8 | 5月～12月 | 225人 | <ul style="list-style-type: none"> プログラムの中でも体を動かす内容のものは特に受講生の満足度が高かったが、ダンス(フィットネス)・ストレッチ・体操と似通った内容のものが続いていた。 講話形式のものでは、講師が時間いっぱいまで語ってしまい、受講生同士の交流の時間が十分にもてないことがあった。 館外学習は計画から下見まで事前準備は万全であったが、悪天候のため中止せざるを得ず残念だった。 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習コーディネーターとの打合せでは内容のバランスも考慮し、活動内容のジャンルに富んだ講座の組み立てを目指す。 コーディネーターには講師との打合せの中で時間配分についても十分に通知してもらい、毎回必ず受講生同士の交流の時間をもてるようにする。 館外学習は次年度は県内と市内近郊の2回とし、受講生にも満足してもらえるような内容にする。 | 成人 |
| 7 | 西楽アカデミー | 生きがい学習や健康についてなど現代の生活に必要な知識の向上に関する学習を行うとともに、受講者同士の交流を深める。 | 成人(市内在住・通勤) | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | 10 | 6月～2月 | 208人 | <ul style="list-style-type: none"> 内容が多くて時間が足りなくなってしまった講座があった。 講座の申し込み人数が少なく、研修旅行も参加者が少なかったのは残念だった。 | <ul style="list-style-type: none"> プログラム等を検討する際に、講師と、時間・内容について綿密な打ち合わせをしておく。 参加したいと思えるようなバラエティーに富んだ魅力ある講座の企画に努め、PRの方法もさらに工夫する。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

西生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-------------|--------------------------------------|-------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|------|--|---|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 8 | 俳句で発見！地域の魅力 | 俳句の楽しみを基礎から学び、創作活動を通して四季折々の地域の魅力を探る。 | 成人(市内在住・通勤) | ○ | ○ | - | - | - | - | 8 | 6月～12月 | 152 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が提出した俳句を基に句会を開催し、講師と受講者が直接対話できる形式で講座を進めたが、学習意欲の旺盛な受講者からは、講座の充実度に対する不満が残った。講座日数と時間的なものを考慮すると、1講座に対して担当者として踏み込める限度はあるかもしれないが、受講者の要望を達成させるための講座進行が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、同種の講座を実施する際には受講者が講師から十分な説明が受けられるよう、運営方法や開設時間などを考慮していく。 ・講座修了者にサークルを結成し、活動を続けるよう薦めた結果、当講座講師を招いた自主活動サークルが結成され、活動を続けることになったことにより廃止。平成26年度は、「宇都宮再発見！～故郷ゆかりの文学(詩・歌)から学ぶ宮の魅力」として別の講座を実施。 | 成人 |
| 9 | 明保地区「男塾講座」 | 地域を支える人材の発掘と、育成や意識醸成を狙いとして開催。 | 地区内の成人男性 | ○ | ○ | - | - | - | - | 5 | 5月～9月 | 80人 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講生は、社会経験を積み重ね、人生の道を培ってきた人たちであり、まちづくりへの提案も積極的に発言し、地域に対する愛着心もある。この講座で得た知識を生涯学習活動に生かすとともに、地域まちづくり組織の一員として、ボランティアクラブやイベント実行委員としての活躍が期待できる人材を確保できた。特に課題等はなく、当初の目的を達成できたものと考ええる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍できる人材発掘を目的としたこの講座により、様々な面で特技を持つ人材を見つけ出すことができたので、目的を達成したため廃止。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

西生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------------------------|---|----------------------|------|----|----|----|----|---|---|-------|-----------|---|--|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 10 | 地域で学び地域につながる！「栃木にゆかりある偉人の功績」 | 地域教育や青少年健全育成に係る地域住民の意識醸成を図り、より安心で快活に暮らしているための、地域まちづくりの推進を目的として開催する。 桜地域においては、まちづくり組織や各種団体において文化事業や講座、青少年健全育成に係る事業を展開しているが、郷土にゆかりのある偉人の功績を学ぶことにより、地域の風土・文化・歴史等の見識をより深め地域教育に関する関心を促し、より良い地域まちづくりの推進に繋げていく。 | 桜地域内在住者 | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 1月 | 50人 | <ul style="list-style-type: none"> ・野口英世の恩師である松本順次郎が、宇都宮で教職をとっていたことや、陶器メーカーのノリタケを世間に広めニューヨークで活躍した画家・陶芸デザイナーの古田土雅堂が宇都宮市に在住していたことなど、功績を残した方を身近に感じることで地域の文化・歴史への関心を高めることができ、記者の取材もありテレビや新聞で報道された。 ・講師の講話スタイルとマイクの位置設定が微妙に合わず、後方席の参加者に若干聴きとりにくい時間帯があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域との連携を強化し、地域まちづくりの推進に繋がる内容を企画していきたい。 ・講師の講話スタイル(立席・着席等)を事前に確認し、適切な音響設定を行っていただきたい。 | 成人 | |
| 11 | 富士見地域の健康寿命をのばそう | 地域住民が主体的にまちづくりを推進し、より活気あふれた明るい地域づくりを展開していくために、高齢者を含めた地域住民の健康づくりへの関心を高める必要がある。その具体的な方法を習得していくために、健康づくり講座を西生涯学習センターと富士見地域の共催で開催する。 | | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 2月 | 18人 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり推進委員と連携し、充実した講座内容にするため、推進委員との活動日程調整が重要である。 ・参加者のニーズに対応しながらの講座になり、予定していた講座(資料レジュメ)通り進行しなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い自治会から参加を募るため、チラシ回覧以外に、単位自治会や敬老会などへの直接の呼びかけするなど、周知方法を考える。また、地域推進委員の知識向上や地域の現状把握するうえで、単位自治会からの参加を多く依頼する。講座内容を充実させるため、事前にアンケートをとり、意向を確認しながら地域との打合せを入念にする。 | 成人 | |
| 12 | すくすく子育て講座 | 子育ての学習やレクリエーションを通して親子のふれあいを深めて、仲間づくりや子育ての情報交換の場となるよう子育てを支援する。 | 1歳～3歳の幼児とその保護者(市内在住) | - | - | - | - | ○ | - | 7 | 6月～1月 | 167組・340人 | <ul style="list-style-type: none"> ・リズム体操や共同の創作体験など、年間を通してふれあう機会を増やしたことにより、親子の絆を深めることができた。また、親子同士の情報交換や仲間づくりの交流の場を図れた。 ・年齢幅があるので、講座内容によっては、飽きてしまう場面が見られた。休憩の取り方や、場所の確保など、考慮したプログラムを作成できたらよい。 ・育児に関する講話を取入れて、全体のバランスを企画する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで育児中の悩みや聞いてみたい事項などを情報収集し、保健師や保育士などから助言をもらうプログラムを作成していく。 ・聞く・見る・動く・体験する講座のバランスを図り、参加者のニーズを取入れた企画をしていきたい。 | 子育て | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

西生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-----------|---|--------------------|------|----|----|----|----|---|---|-------|----------|--|---|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 13 | 親子でGO! | 親子で様々な体験をしながら親子の絆を深めるとともに、子どもの心を育むために役立つ知識を学習し、家庭の教育力向上を図る。 | 市内小学校1年生～3年生とその保護者 | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | 5 | 5月～9月 | 64組・143人 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回違った内容に「良かった」との声をアンケートにて多数頂くことができた。しかし、野外活動では雨天に見舞われたこと及びそれに対する対応に受講生からの不満も見られた。 ・調理実習では参加予定人数に対し調理実習室の規模が合わず、止む無く受講生を前半・後半の2組に分けて対応することで乗り切ったが、その対応までに若干の混乱をきたした。また、弟妹の参加の可否やそれによる追加参加費については、受講生側には伝わりにくかったらしく、それに対する不満を指摘する声も見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動については、雨天になる可能性を考慮して時期を工夫するほか、雨天時の対応策も事前にしっかりとたておく。 ・活動内容と部屋の規模、参加人数のバランスを考え講座運営に無理が生じないようにする。 ・弟妹の参加については次年度も可能とするが、未就学児用の託児スペースが無い旨はきちんと周知する。 | 子育て | |
| 14 | 星空わくわく映画会 | 地域の魅力を高め、地域活動や自治会への関心向上と参加意識の醸成を図るための事業等を展開していくための新たなイベントとして、子ども向けのアニメーション等の映画を野外で上映する。 | 桜地域内在住者 | - | - | ○ | - | - | - | 1 | 9月 | 20人 | <ul style="list-style-type: none"> ・企画から開催までの期間が短かったので、機材準備・会場設営・撮影指導等の調整が拙速になり精査に欠けた部分があった。 ・会場を施設内の駐車場に設定したが、駐車場の管理調整に欠けた部分があり、前日の夜間まで一般訪問者の駐車が見受けられ対応に困難が生じた。 ・開催日時を夏休み終了後かつ日曜夜間に設定したことが、定員よりも少ない来場者数になったことの要因として考えられる。 ・企画や映写等の当日運営において、地域共催団体の役割が補助的になった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・準備期間を長くとりながら円滑で適切な調整を行っていく。 ・関係者との打ち合わせを綿密に行い、会場設営に支障が生じないようにしていく。 ・近隣の野外映画開催日と調整しながら、夏休み期間等の子供や保護者が来場しやすい日時を設定していく。 ・地域での主体的な開催に向けて、的確に調整していく。 | 子育て | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

南生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-------------------|---|------------|------|----|----|----|----|---|---|----|--------|----------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 1 | 宮のものづくり達人講座 | 伝統あるものづくりを体験することで、完成までのプロセスやものづくりの達成感の楽しさを学び、子どもたちに宇都宮の伝統文化を継承する。 | 小学校4～6年生 | - | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 8月 | 12人 | ・「ふくべ細工」は小学校高学年を対象にした結果、申込者が定員に達しなかった。 | ・親と子どもと一緒に参加する「親子チャレンジ教室」等に企画を変更する。 | 青少年 |
| 2 | 親子で作るアジア料理講座 | 親子で作る楽しさや大切さを知ってもらおう | 小学生以上の親子 | ○ | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 2月 | 13組, 26人 | ・低学年の親子が多かったため、調理に時間がかかり終了時間を超過した。 | ・調理や会食の時間を多めにとり、終了時間を変更する。 | 青少年 |
| 3 | 市民運営講座:楽しい和装小物づくり | 着物の端切れ等を使い「和装小物」を自作する。物づくりを通して、物への愛着と仲間づくりの交流を深め、生きがいつくりとする。 | 市在住成人者 | - | ○ | - | - | - | - | - | 3 | 6月～8月 | 50人 | ・女性の物づくりへの関心の強さがわかった。趣味として物づくりの内容・選択の必要性を実感した。 | ・講座後、自主的に11名でクラブ「楽しい小物づくり」が立ち上がった。今後拡大するためのPR・助言を適正に行うことが必要である。 | 成人 |
| 4 | 市民運営講座:男の料理講座Ⅶ | 料理を通して、食への関心と生活の向上、仲間づくりを目標とする。 | 市内在住の中老年男性 | - | ○ | - | - | - | - | - | 5 | 10月～2月 | 104人 | ・参加者の多くが高齢者のためか、体調不良等での欠席が目立った。 | ・冬の寒い時期の開催を避けるべきか検討する必要がある。 | 成人 |
| 5 | シニアセミナー「南悠塾」 | シニア世代がこれから生きていくための大事な要素である「家」「家族」をテーマに、今後の人生を自らの家で、豊かな時間を過ごしていけるよう考えるきっかけ作りをする。 | 60歳以上の市民 | ○ | ○ | - | - | ○ | - | - | 7 | 5月～12月 | 323人 | ・高齢者の生きがいつくりとして、連続講座を通してのテーマを決め開催する。 | ・超高齢社会での「健康寿命」アップを図る講座内容を実施する。 | 成人 |
| 6 | 絆再生プロジェクトⅢ | シニア世代がこれから生きていくための大事な要素である「家」「家族」をテーマに、今後の人生を自らの家で、豊かな時間を過ごしていけるよう考えるきっかけ作りをする。 | 20歳以上の市民 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | 6 | 8月～12月 | 88人 | ・事例見学して学んだ「地域の居場所づくり」の様々な創意工夫を、地域で実践するまでに至らなかった。 | ・地域の各団体との連携した講座内容の企画・運営が不可欠。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

南生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------------------|---|-------------------------------|------|----|----|----|----|---|---|--------|---------|--|---|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 7 | すくすく子育て講座(1) | 親子遊びなどでふれあいを深め、一緒に講座に出かける機会を増やすことで、生き生きとした親子関係を育み、父親の子育てへの参加を促しながら、親同士の仲間作りやネットワーク推進を図る。 | 市内在住の1歳6か月以上2歳6ヶ月までの子どもとその保護者 | ○ | - | - | - | ○ | - | 4 | 5月～8月 | 41組・96人 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講対象児を1歳6か月～2歳6か月と年齢の幅を小さくしたため、かえって、対象児が限定されてしまい、募集人数が集まらなかった(17組)。 ・3B体操や影絵は、対象児には難しい内容だった。 ・受講者の出席率が悪かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講対象児を1歳6か月～3歳までとし、募集枠を広げる。 ・リトミックなど、月齢の小さいお子さんでも楽しめる内容にする。 ・夏の講座は受講者が少なくなるので、開催時期を検討する。 | 子育て | |
| 8 | すくすく子育て講座(2) | 親子遊びなどでふれあいを深め、一緒に講座に出かける機会を増やすことで、生き生きとした親子関係を育み、父親の子育てへの参加を促しながら、親同士の仲間作りやネットワーク推進を図る。 | 市内在住の2歳6か月から4歳の子どもとその保護者 | - | - | - | - | ○ | - | 4 | 9月～12月 | 40組・80人 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講対象児を2歳6か月～4歳と年齢の幅を小さくしたが、対象児が限定されてしまい、募集人数が集まらなかった。3歳以上の子は幼稚園や保育園に通園し、申込みはなかった。(15組)。 ・人形劇よりも体を動かす講座が人気があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・受講対象児を1歳6か月～3歳までとし、募集枠を広げる。 ・リトミックやビート体操など、体を動かす講座に人気があり、講座内容を検討する。 | 子育て | |
| 9 | 子育てがちよっと楽になるママのための傾聴講座 | 家庭内でのよりよいコミュニケーションのための「傾聴」の技法を学ぶことで、家庭や子どもとの会話の中での話の聴き方、接し方を改めて見直し、新たな気持ちで子育てに前向きに取り組めるようにする。 | 市内在住の小学生から中学生を持つ母親 | ○ | - | - | ○ | - | - | 3 | 9月 | 19人 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象を小学生と中学生を持つ母親に限定したため、参加者が少なかった。 ・「傾聴」に対する認知度が低く、難しく捉えられる傾向があるので、講座タイトル等の工夫が必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講座名をわかりやすく工夫して募集する。 | 子育て | |
| 10 | 初めて育児応援講座 | 初めて育児をする母親の育児への不安やとまどいを軽減し、同じ立場の母親と思いを共有することで仲間づくりや交流の機会を作る。 | 市在住の初めて子ども(0歳～1歳6か月)を持つ母親 | ○ | ○ | - | ○ | - | - | 4 | 6月～7月 | 54人 | <ul style="list-style-type: none"> ・講座最終回は講座のふりかえりとして座談会をとり入れたが出席率が悪く、子供との触れ合う講座を望んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講座の内容を見直し、子どもと一緒に参加できる内容を考えていきたい。 | 子育て | |

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|----------------------|--|------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|------|--|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 子ども映画鑑賞と昔遊び体験講座 | 生涯学習センターを会場にして映画会を開催、映画教材を上映。また、普段体験できない昔遊びに触れる機会を設け、情操教育を図るとともに生涯学習センター利用促進につなげていく。 | 小学生と保護者 | ○ | ○ | - | - | - | ○ | 1 | 7月 | 43人 | ・受講生の年齢層の絞り込み。受講生を小学生としたが、高学年と低学年では視聴作品の興味関心にばらつきが生じた。 | ・受講生を小学校低学年に絞り込んで教材への興味関心のバランスを図る。 | 青少年 |
| 2 | 青少年リーダー養成講座 | 異学年との交流を通し、思いやりや協調性を養うとともに、豊かな人間性やリーダーとしての資質を養う。 | 小学校4～6年の児童 | - | - | ○ | - | ○ | - | 1 | 8月 | 65人 | ・8月は猛暑のため、参加者の負担が大きい。館外学習先では、なるべく屋外の活動時間を短くするなどの工夫が必要と思われる。 | 館外学習先では、なるべく屋外の活動時間を短くするなど、スケジュールを工夫する。 | 青少年 |
| 3 | 地域を学ぶ ～わがまちを知ろう 自然編～ | 1. 団塊の世代の受講生を取り込む 2. 地域の自然(地域資源)と関わりをもつことで地域(私)が輝き、地域(私)が変わることに気づく 3. 地域の自然(地域資源)の保全活動というまちづくりへのデビュー | 一般成人 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 9月～11月 | 62人 | ・団塊の世代を対象としたが、高齢者の参加者が半数を占め屋外の観察会以降欠席が多くなった。 ・狭い地域を繰り返し取り上げると、参加者の興味が薄らぎ参加者が減少する。 | ・市全体から地域を浮き彫りにして、最後まで参加者の興味を繋げる工夫をする。 屋外での活動はなるべく避ける。 | 成人 |
| 4 | 聴いて読む名作Part4 | 聴覚を通して名作を味わうことで活字だけで読んでいた時とは違った発見があり、知っている作品でもとても新鮮な新たな感動を得る。 同じ作品でも、受講生によって様々な感じ方があることに、気づき、作品の深さを知る。 | 一般成人 | ○ | - | - | - | - | - | 3 | 6月～7月 | 103人 | ・初回の参加だけの受講生が数人出た。全員が最後まで飽きずに受講できるようにする。 | ・隣同士で話し方の練習をしたり、グループで早口言葉に挑戦し、全員に感想を話してもらおう。 | 成人 |
| 5 | 北洲塾 | 現代社会の課題について学びあい、知識を深め、地域社会への参加の輪を広げる。健康でより豊かな人生を送ることを目的とする。 | 一般成人 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | 10 | 5月～11月 | 361人 | ・参加者は高齢のリピーターが大半であることから、参加者のニーズに合わせた講座を開催したことで、おおむね好評を得られた。 | ・引き続き、参加者が興味を持ち積極的に関わられるような内容の講座を企画する。 | 成人 |

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-----------------|--|-----------------------|------|----|----|----|----|---|---|--------|----------|---|--|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 6 | 新・家族応援講座 | 1. 乳幼児期の子どもの発達課題とその発達に必要な生活経験とは何か、また、そのため生活環境はどうあればよいか分かる。 2. 乳幼児に対する父・母の役割を確認し、夫婦が相互に認め合い協力し合って子育てに取り組もうとする意識の高揚と資質の向上を図る。 3. 自我が芽生えた子どもへの接し方・関わり方を理解する。 4. ファザーリングの推進とベビーシッター養成講座修了生の活用を図る。 | 未就学児・乳幼児を抱えた子育て中の家族全員 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 6月～7月 | 56組・173人 | ・講座回数を1回増やし、子育てに関する直接的な内容に重点をおいた講座とした。未就学児に対する家庭教育のあり方や親の関わり方などを学ぶ講座内容を充実させることができた。講師を複数人にしたが、子育て観についてそれぞれの思いや捉え方に微妙な違いがみられた。 | ・同じ講師に複数回講座を依頼し、内容に一貫性や系統性を持たせることも考えられる。引き続き、乳幼児が居ても学べるよう託児の充実を図る。 | 子育て | |
| 7 | 市民運営講座 親子でチャレンジ | 親子で行うゲームや料理を通して主体的に行動する力を育む。また、参加者同士の交流を通して人と人とのふれあい、親子の絆を深める。 | 小学校1～3年生と親 | - | ○ | - | - | ○ | - | 5 | 7月～11月 | 52組・116人 | ・親子がゲームや料理を通して絆を深めることはできたが、月1回の講座のため、参加者同士の交流の促進については工夫の余地がある。 | ・月1回5カ月の長期型から、週1回4回の短期集中型に変更し、参加者同士のふれあいにも配慮し交流の促進を図る。 | 子育て | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

平石生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------------|--|-----------------|------|----|----|----|----|---|---|----|--------|------------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 1 | 少年ふるさと教室 | 様々な体験活動を通して、仲間との関わりを深め、生きる力を育むとともに、地域資源の発見や異世代との交流を通して、リーダーとしての資質向上を図る。 | 地域内の小学生 | ○ | ○ | - | - | - | - | - | 2 | 8月～11月 | 39人 | ・地区内に2つの小学校があるため学校行事と重ならないよう調整が必要。 | ・地区内小学校と連携し日程調整を図ったことや、対象児童の興味が持てる講座内容であったことから好評であった。 | 青少年 |
| 2 | 高齢者指導者研修 | 施設等の見学により、より一層の教養や見聞を深め、地域の指導者として資質を高めることを目的とする。 | 地区内に居住する高齢指導者 | - | - | ○ | - | - | - | - | 1 | 5月 | 34人 | ・地区老人クラブ代表の方々は、計画段階から積極的に参加されるが、高齢者のため無理のない計画を立てなければならない。 | ・地区老人クラブ代表の方と密に連携を図り計画を検討する。 | 成人 |
| 3 | 女性指導者研修 | 他地域の生活文化に触れることにより、教養、見聞を深め、地域内をより活性化させ、また情報交換を通して地域の指導者として質を高めることにより、明るいまちづくりの契機とすることを目的とする。 | 地域内に居住する女性指導者 | ○ | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 6月 | 36人 | ・参加者の情報交換を促進するとともに、教養や見聞を深められるような研修内容を検討する。 | ・早期の内容検討及び協力団体との密な意見交換を行なう。 | 成人 |
| 4 | 高齢者友遊教室 | 高齢者の地域における活動を活性化させ、地域活動への積極的な参加意識を啓発する。プログラムの中で昔遊びなどを取り入れ、異世代間の交流を持つ。 | 地区内に居住する60歳以上の方 | ○ | ○ | - | - | ○ | - | - | 9 | 5月～2月 | 376人 | ・おおむね好評であったが、講座によっては参加者が少ないため、ニーズの把握が必要。 | ・集客方法や事業の内容を検討し、ニーズに合った講座を開催し参加者の増加を図る。 | 成人 |
| 5 | 大人の教養講座 | 趣味や学びを通して人と人との交流を促すとともに、これまで培った知識や経験を生かして、地域の活性化につなげる。 | 成人男女 | ○ | - | - | - | - | - | - | 1 | 3月 | 36人 | ・タイムリーな歴史講座を実施したことで受講者は満足を得られたが、年度末の開催であったため受講者数が伸び悩んだように思われる。 | ・年内早期に開催することで申込者数を確保するとともに、シリーズ化により受講生同士の交流を促す。 | 成人 |
| 6 | 親子のひろば「はぐはぐ」 | 親同士が交流を図ることや、ボランティアが話し相手になることで、親に精神的な安心感をもたらす、問題解決の糸口となる機会を提供し地域の子育て支援機能の充実を図る。 | 乳幼児(0から3歳児)とその親 | ○ | - | ○ | - | - | - | - | 11 | 4月～3月 | 439組・1025人 | ・はぐはぐプラス事業は、親子で参加できる観賞・実技・講話を行い、毎回好評であった。 | ・おおむね好評であったが、参加者のニーズにあった講座の開催を検討する。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

平石生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|----------|---|---------------|------|----|----|----|----|---|---|--------|----------|---|--|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 7 | 親子ふれあい講座 | 幼児期に必要な遊びや体操を親子で体験し、子どもへの関わり方も一緒に学ぶ。 | 2歳から3歳の幼児とその親 | ○ | - | - | - | ○ | - | 3 | 7月～8月 | 50組・100人 | ・親子一緒に体操を行なうことで、親子の関わり方、成長を促す身体作りについて身につけることができ、参加者には好評だった。申し送り | ・平成27年度についても参加者が興味をそそられるような講座を行ないたい。 | 子育て | |
| 8 | 家庭教育セミナー | 子どもとのふれあいと、明るい家庭作りについて学習する。その中で、地域との連携を深め、のびのびと子どもの育つ社会を参加者全体で意見交換などを交えて考察する。 | 一般成人・小学生 | ○ | ○ | - | - | - | - | 3 | 6月～10月 | 35組・69人 | ・参加者のニーズに合わせた講座を開催したことで、おおむね好評を得られた。 | ・平石地区の小学校との共催事業であり、今後も参加者のニーズに合った講座の開催を検討していく。 | 子育て | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

清原生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|---------------|--|--------------|------|----|----|----|----|---|---|-------|-------|--|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 1 | 自然体験遊び塾 | 自然の中での体験や農産物の収穫などを通じて、自然や伝統のすばらしさ、地域への理解を深めるとともに、親子のふれあいや仲間づくりを行う。 | 地域内小学生とその保護者 | - | ○ | ○ | - | - | - | - | 2 | 8月～2月 | 10組・37人 | ・自然や伝統のすばらしさ、地域への理解を深めるために、新たな地元資源を発掘し、活用した講座内容に見直しが必要である。 | ・地域内の栃木県農業大学校をはじめ、地域の各団体と協力のもと、新たに地元の農産物を活用した講座内容に一部見直しを行う。 | 青少年 |
| 2 | 企業体験教室 | 子どもを対象に清原工業団地の企業と連携した工場見学会等を実施し、「日本のものづくり」の偉大さを感じてもらうとともに、日本を代表する企業が地域にあることの「誇り」を持ってもらうことで地域の将来を担う子どもの地域愛を育て地域づくりの推進につなげる。 | 地域内小学生 | - | ○ | ○ | - | - | - | 2 | 7月～3月 | 34人 | ・地域に日本を代表する企業があることの「誇り」を持ってもらうことが目的であることから、新たな企業にも協力を依頼する必要がある。 | ・企業と4月下旬から調整し、夏休み・秋休み等に講座を開催するとともに、協力を得られる企業の誘致に取り組む。 | 青少年 | |
| 3 | 地域体験キャンプ | 青少年育成協議会、地域学校園協議会、センター共催による実行委員会を組織し、地区内の青少年育成に関わる指導の横断的な連携により事業を実施する。 参加者は、キャンプを体験することで、年齢・学区を越えた仲間との出会い、地域の大人との出会い、地域にある資源への気づきなどを通じて、我がまち「清原」を体感し、「郷土愛」、「仲間の大切さ」や「出来る自分」を認識することで、子どもたちのチャレンジ精神や郷土に対する誇りと愛着を育む。 | 地域内小学生とその保護者 | - | ○ | ○ | - | - | - | 2 | 8月 | 48人 | ・キャンプ日程において、プログラムを詰め込みすぎて、時間とおりに進めることができなかった。また、子どもに合わせた時間配分を考える必要がある。 | ・キャンプにおけるプログラムや時間配分の見直しを行う。 | 青少年 | |
| 4 | 青少年教育・育成指導者講座 | 子どもを抱える若年世帯の増加に対応するため、地域で青少年の教育及び育成に携わっている住民を対象に、地域ぐるみで子どもを育てる意識を醸成し、指導者の資質を向上させるとともに、地域を構成する各団体とのより一層の連携・協力を図り、地域づくりを推進する。 | 地域内小学生とその保護者 | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 6月 | 85人 | ・第1回であったことや学習目的にあった講座を開催することができた。今後は、参加者からヒヤリングを行い内容を決定する必要がある。 | ・指導者の資質を向上させるために、保護者等から意見をもらい反映した講座内容とする。 | 青少年 | |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

清原生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-----------|---|----------------|------|----|----|----|----|---|---|----|-------|----------|--|-------------------------------|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 5 | 清原地域学講座 | 近年増加する清原地区内への転入者や若い世代の住民を対象に、地区内の活躍している農業者等を講師に招き、清原地区の魅力を発見してもらうワークショップを開催し、清原地区に居住する市民の気づきとネットワーク形成を促す。 | 地区内在住在勤者 | - | - | - | ○ | - | - | - | 2 | 2月～3月 | 22人 | ・新規講座ではあったが、参加者が積極的に意見を出してくれたので地域のPR課題を抽出できたが、解決策まで進めなかった。 | ・講座の組み換え等を検討し、開催時期・回数等を検討したい。 | 成人 |
| 6 | ふれあい子育て広場 | 子育てに必要な知識を専門講師から学び、保護者の不安を軽減するとともに、親子遊び等で親子のスキンシップを深める。地域の子育てサークルと連携し、先輩ママからのアドバイスや情報交換の場を提供することで、地域ぐるみの子育てを促進する。 | 3ヶ月～未就園児とその保護者 | ○ | ○ | - | - | - | - | - | 6 | 6月～3月 | 87組・182人 | ・実施場所の広さが限られているため、受講希望者が多いにも関わらず、1回の定員を増やすことができない。 | ・実施回数を増やす等、検討している。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

横川生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------|---|------------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|------|--|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 夏休みチャレンジ教室 | ものづくり体験学習を通し仲間づくりや社会性を身につけ、地域内児童の豊かな情緒を育む。 | 地区内の小学生 | - | ○ | - | - | - | - | 2 | 8月 | 50人 | ・館外学習を廃止して、各回当生涯学習センターを会場として開催した。 ・参加人数に合わせて、講師・ボランティア等の人数調整を行い、学習効率の向上を目指す。 | ・講座内容等を含め、講師との連携をより深めて、身近で充実した講座を行っていく。 | 青少年 |
| 2 | ことぶき塾 | 高齢者に向けた、日常生活に関わる社会問題、健康維持法を学ぶほか、災害発生時の備えと防災に関わる講座のほか、地域の魅力を再発見する館外学習講座を行い、高齢者の健康で豊かな生活を支援するほか、防災意識の高揚を図る。 | 横川地区にお住まいの60歳以上の方 | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | 7 | 6月～1月 | 220人 | ・地域のエリアを再認識するための、地区内一円を巡回した。 ・平成26年度より、防災意識の向上を図るため、防災に関する講座を行ったが、より身近な問題や課題、体験できる講座内容の検討。 | ・今後も、高齢者の身近な問題等に対して、より分かりやすい講座内容とするため講師等と連携を図っていく。 | 成人 |
| 3 | まるごと横川 | 地域学講座として地元横川の魅力を紹介しながら、地域に対する理解や愛着を深めることを継続し、地域づくりに対する意識の醸成及び地域課題の発見につなげていく。 | 地域ビジョン検討部会委員及び地区内の一般成人 | ○ | - | ○ | ○ | - | - | 5 | 6月～1月 | 78人 | ・平成26年度は、地域ビジョンの本格的な検討に入り、講座を通じて地域学への理解や地域カルテ策定の意義について理解を得られたが、受講生に高齢者が多く、世代に偏りがみられる。 | ・地域ビジョンを検討していることや地域学の講座について、広く地区に周知し関心をもってもらい、幅広い世代を受講生として受け入れる。 | 成人 |
| 4 | 食育講座 | 「横川地区産の食材の魅力を知らる」をテーマに、地域の魅力に目を向けながら豊かな食生活を送るとともに、健康の維持を図るための食に関する知識を身につける。 | 地域内の一般成人 | - | ○ | - | - | - | - | 3 | 6月～12月 | 65人 | ・横川地区産の旬の食材を抱負に使用し、献立を検討した。本年度は、男性参加者が増え、「料理を楽しむことができ、家で作ると孫に大変喜ばれた」など好評だった。また、保健所健康増進課職員を招いての「健康づくり推進員の加入促進のPR」を行ったことで、健康づくり推進員を希望する人がみられた。 ・数年続いている好評の講座であるが、受講者に変化がないため次年度の新たな講座を検討する。 | ・地域食材の魅力と健康維持を図るための食生活について学ぶことができる講座であるが、受講者に変化が乏しい状況にある。よって、次年度新たに、中高年層のパソコン初心者が、同世代の仲間と楽しく学びながら交流を深め、基礎操作や文書の作成などを習得し、地域活動の担い手として活躍することができるように支援する講座を予定しているため。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

横川生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-------------|---|-------------|------|----|----|--------|--------|---|----|-------|-----------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | W S | レ ク | 他 | | | | | | |
| 5 | 親子で絵本とわらべうた | 乳幼児期に受けた家庭での読み聞かせの経験は、その後子どもの読書習慣に大きく影響する。読み聞かせの手法や本選びを学び、わらべうたによる手遊び・歌遊びで子どもとのスキンシップを図るとともに、親同士の交流も支援する。 | 地区内の乳幼児と保護者 | ○ | ○ | - | - | - | - | 3 | 6月～7月 | 30人 | ・自治会回覧や窓口、乳幼児健診時等にチラシ配布を行ったが参加者数が少なかった。 | ・子育てサークル等にもチラシを配布を行いながら、知人等も誘ってもらえるよう、促して参加者増を目指しながら、親同士の交流も深められる講座としていきたい。 | 子育て |
| 6 | 子育て広場 | 乳幼児期の大切な時期に、親子のスキンシップを図るとともに、ボール遊びやリズム体操、レクリエーションを通して、体力・情緒を豊に育み、親同士の交流の場を深めながら子育てを支援する。 | 地区内の乳幼児と保護者 | - | ○ | - | - | ○ | - | 7 | 6月～9月 | 184組・368人 | ・栃木SC講師と共に、講座対象年齢に見合った内容を検討し開催した。その結果、参加者から「子どものあらたな発見ができた。」「貴重な経験ができた」など、大変好評だった。 ・数年間人気だった「リトミック」が、受講者にとって新鮮味にかけてきていることが分かり、次年度は、講座内容の変更に努める。 | ・次年度は、講座内容の一部を「リトミック」から「3B体操」に替えて開催する予定。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

瑞穂野生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-----------------|---|---------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|----------|---|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 親子チャレンジ教室 | 親子のふれあい、受講生同士の交流を通して、気軽に話し合える場や学習の場を提供し子育ての一助を図る。 | 小学生と保護者 | - | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 7月～12月 | 74組・176人 | ・同日に3小学校にチラシを持参し配布をお願いしているが、学校の配布日がまちまちで、遅く配布した小学校の申込を受けた時には定員を超えてしまった。 | ・受付日を設定する。 | 青少年 |
| 2 | 少年ふるさと教室 | 郷土の伝承、文化、自然に関する学習活動と、地域内他校との連帯感や異年齢との交流及び郷土愛の精神を深める。 | 瑞穂野地区内居住の小学校児童と保護者 | - | ○ | ○ | - | ○ | - | 5 | 5月～1月 | 621人 | ・新しい体験ができるように工夫する。 | ・共催である青少年育成会と事業内容について検討し、多くの参加があった。 | 青少年 |
| 3 | 自分発見講座 | 25年度に引き続き「おくのほそ道」を学び、新しい自分に気づき、自身を磨きながら仲間づくりをし、地域デビューのきっかけをつくる。 | 瑞穂野地区内に居住する一般成人 | ○ | - | ○ | - | - | - | 4 | 7月～10月 | 109人 | ・館外学習はマイクロバスの定員があるため希望者全員が参加できなかった。 | ・定員を超えた場合の申込者には、講義のみの受講としていただく。 | 成人 |
| 4 | 瑞穂野地区各種団体指導者研修会 | 瑞穂野生涯学習センター各種団体(利用団体)の活動を活性化させ、仲間づくりや各種団体相互間の交流と情報交換、そして地域づくりのリーダーとしての資質の向上を図る。 | 瑞穂野地区内に居住する一般成人 | - | - | ○ | - | - | - | 1 | 9月 | 43人 | ・引き続き、地域のリーダーとしての勉強になる研修内容となるようにする。 | ・各種団体の活動をさらに発展し、地域でも活躍できるような学習内容の充実を図る。 ・男性参加者の増加を図る。 | 成人 |
| 5 | なかよし親子のひろば | 音楽に合わせて体を動かし、親子の絆を深めると共に、想像力や協調性を育て、自己表現力を養う。 | 瑞穂野地区居住の2～3歳の幼児と保護者 | - | - | - | - | ○ | - | 4 | 6月～7月 | 86組・176人 | ・子育てサークルの先輩ママのお話が効果的だったが、仲良しママ同士が集まってしまう傾向があった。 | ・地域回覧の日数を十分にとった後に申し込みの受付を開始した。班分けなどを工夫する。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

城山生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------------|--|-------------------------|------|----|----|----|----|---|---|----|--------|-----------|--|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 1 | 親子でにこにこクッキング | ・異世代間交流や体験学習を通して、地域の人たち等とのふれあいを深め、子どもたちが健康で豊かな心を醸成すること。 ・親の子育てに係る意識や技術の高揚、親同士のネットワークの構築、地域づくりへの関心の喚起を目的とする。 | 城山地区内及び城山地区周辺の小学生とその保護者 | - | ○ | - | - | - | - | - | 3 | 7月～11月 | 34組・77人 | ・毎回定員を超える参加者数を確保することが出来ている。引き続き、事業を通して、「食」の大切さを伝えていく必要がある。 | ・参加者が固定化しないように、楽しめる内容の工夫に努めていく。 | 青少年 |
| 2 | ヒト・まちづくり講座 | 地域におけるまちづくりの課題を抽出し、解決の糸口となるようなきっかけづくりを行う。また、実践的な活動を通して、総合的にまちづくり意識の高揚を図る。 | 城山地区内住人 | ○ | - | - | - | - | - | - | 1 | 5月 | 14人 | ・城山地域ビジョンの作成に合わせて講座実施を継続する予定であったが、予定していた地域避難所体験などまでは実施することが出来なかった。新年度は、講座開催の準備を早い時期に整える必要がある。 | ・より多くの方に参加していただけるよう、講座開催の時期や内容をわかりやすく地域の方への募集に努めていく。 | 成人 |
| 3 | 地域学講座 | 地域の歴史や伝統行事などを学ぶことにより、地域の特徴等を知るとともに、郷土愛や住民意識の醸成、人材発掘を図る。 | 成人(城山地区内の住民優先) | - | - | - | - | - | - | - | 0 | - | - | ・講座の日程調整が遅れ、事業を実施することが出来なかった。 | ・年度早い段階での事業の調整を進め、計画的な事業の実施に努める。 | 成人 |
| 4 | ともそだち広場 | 幼児が心身ともに健やかに成長できるよう、子育てに必要な考え方や育て方についての知識や技術を身につけ、親子のふれあいを深めるとともに、親子同士のネットワークを図る。地域住民等の様々な形での参画や青少年の体験学習・社会体験の場としても開設することにより、連携意識の高揚や地域保育力・教育力の向上を目指す。 | 市内に住む0～3歳児程度の乳幼児とその保護者 | - | - | - | - | ○ | ○ | - | 12 | 4月～3月 | 320組・724人 | ・参加者にアンケートを実施し、リミックなどニーズに答えた講座内容に取り組み、1回あたり平均約60名を超える参加者もあり、事業は好評である。引き続き、参加者の確保に努められるように周知啓発に努めていく。 | ・チラシ等の周知啓発の箇所の拡大に努める。また、アンケートなどを実施しながら講座内容の充実にも努める。 | 子育て |
| 5 | ママの生き生きセミナー | 家庭における子どもの教育を行う上で必要な考え方や育て方についての知識や技術を身につける。また、地域のリーダー的人材の育成を目指す。 | 城山地区内小・中学校の保護者 | - | - | ○ | - | - | - | - | 4 | 6月～11月 | 39人 | ・定員に対し、参加者数が5割程度となっている。参加者を増やすための工夫が必要である。 | ・今後もアンケートなどを実施するとともに、地域や学校などの周知箇所を広げながら参加者の確保に努める。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

国本生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------------|--|------------------|------|----|----|----|----|---|---|----|-------|-----------|---|--------------------------------------|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 1 | 生き生き健康教室 | 高齢化社会へ向けて、健康に関する知識の習得や、健康づくりのための実践方法を体得することで、地域住民の健康増進を図る。 | 地区内在住の一般成人 | ○ | ○ | - | - | - | - | - | 5 | 8月～9月 | 65人 | ・関係団体との日程調整で、講座開催が午後になり、若干参加人数が減少した。 | ・講座開催時間帯を午前に戻し、PR等に努める。 | 成人 |
| 2 | びびっと！レディース教室 | 女性が生き生きと輝き、健康で豊かな生活を営むため、自己を磨き新たな行動へと繋げるきっかけとする。 | 地区内在住の一般成人女性 | - | ○ | - | - | - | - | - | 3 | 7月～2月 | 42人 | ・興味のある講座への偏りが見られる。 | ・関係団体や、内容を見直し、継続して参加できる講座の開催に努める。 | 成人 |
| 3 | 10倍楽しむ国本塾 | 地域内の歴史遺産について学び、地元の歴史を探求するきっかけとする。 | 地区内在住の一般成人 | ○ | - | - | - | - | - | - | 1 | 2月 | 50人 | ・講師の助言の下、小学生による調査発表を行い、受講者の年齢層が幅広くなった。次年度も継続した講座の開催を希望する声が多かった。 | ・講師や関係団体と調整を図りながら、継続した講座の開催を行う。 | 成人 |
| 4 | 親子ワクワク教室 | 親子で体を使って楽しく遊びながらスキンシップを高め、子育ての楽しさを知る。また、健康や食育に関する子育ての知識を習得することで、親力の向上に繋げる。 | 地区内在住の未就園児とその保護者 | ○ | ○ | - | - | ○ | - | - | 9 | 5月～1月 | 123組・275人 | ・開催日と悪天候が重なることもなく、講座を開催することができた。 ・開催期間が長くなるため、参加人数の確保が課題。 | ・各講座の終了時に、次回の講座の案内やPRを行い参加人数の確保に努める。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

富屋生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------------|--|------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|------|--|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 少年ふるさと教室 | 子どもたちの自主性を進め、お互いの親睦を図り、団体活動を通して責任と協力の大切さを体得させ、あわせて伝統文化や自然に関する学習機会を提供し、健全育成に資することを目的にする。 | 富屋地区の小学生 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 4 | 7月～1月 | 616人 | ・地域団体や小学校、地域在住の文化財調査員等と連携した講座運営ができた効果的であった。 | ・さらに効果的な講座となるよう、さまざまな地域団体等と連携して実施する。 | 青少年 |
| 2 | 考える力アップ講座 | 子どもたちが自ら考え、新しい面白さを発見できる実験を通して、科学に対する好奇心を高める。 | 富屋地区の小学生 | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 2月 | 19人 | ・集まりやすい日程設定と、児童目線の楽しさを配慮した講座作り。 | ・子どもの家や富屋小放課後子ども教室との連携と、子供が自ら考えてつくりあげる内容の選択。 | 青少年 |
| 3 | 高齢者教室 | 高齢化社会の到来により、真に豊で生きがいのある長寿社会を築くため、新しい知識を学び、趣味や教養をつける。 | 富屋地区内の高齢者 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 3 | 6月～11月 | 76人 | ・老人クラブと連携して企画することで、カリキュラムの見直しを行った。さらにニーズに合った内容にしていく必要がある。 | ・老人クラブと連携して改めて内容を検討し、受講者の確保に努める。 | 成人 |
| 4 | 地域学講座 | 「住民主体のまちづくり」をさらに推進するため、地域住民が専門課の講義等を通して、自分の住む地域の特徴を理解し、地域の魅力や課題に気づくとともに、中長期的なあるべき姿を考える契機とする。 | 富屋地区住民 | ○ | - | - | - | - | - | 2 | 7月～2月 | 111人 | ・地域内の企業役員や学識経験者に講師を依頼し、地域内の歴史や文化等を学ぶことができた。より効果的に講座を実施するため、座学だけでなく、他の手法も検討していく必要がある。 | ・自分たちが住んでいる地域についてさらに理解を深めることができるよう、講座の内容や手法について検討する。 | 成人 |
| 5 | とみや女性学 | 富屋地区の女性への教養、学習の場の提供を通し、地域のネットワークを広げるとともに、富屋地区のブランドを発掘、発信していくリーダー的な人材を養成し、女性の力で地域力アップを図る。 | 富屋地区住民 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | 8 | 4月～2月 | 149人 | ・地域の女性が交流しながらさまざまな地域の資源に気づき、地域の活性化につなげる。 | ・市民活動科の助言やほかの地域の事例などから、地域活性化のノウハウを学ぶ。 | 成人 |
| 6 | 健康づくり推進員組織力アップ講座 | 富屋地区の高齢化率が全市と比較して高い中、地域の健康づくり活動を実践している健康づくり推進員を対象に活動スキルを向上させるとともに、組織力の強化を図る。 | 富屋地区健康づくり推進員及び住民 | - | ○ | - | - | - | - | 2 | 1月～2月 | 62人 | ・2年間実施し、健康づくり推進員の活動スキルに繋がった。今後は健康づくり推進員の事業として実施する。 | | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

富屋生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------|---|--------------------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|-----------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 7 | 健康づくりハイキング | ハイキングを通じて健康増進と地域住民の交流を図る。 | 富屋地区住民 | - | - | ○ | - | - | - | 1 | 5月 | 72人 | ・幅広い年齢層が参加できるようなコースの設定。 | ・共催団体である地区育成会や体協とさらに連携を図り、より適切なコース設定に努める。 | 成人 |
| 8 | 家庭教育学級 | 家庭における子どもの教育を行うために必要な考え方や育て方についての知識や技術を学習する。 | 富屋地区に居住する子どもを持つ両親及び家庭教育に関心のある人 | - | ○ | - | - | - | - | 1 | 6月 | 25人 | ・小学校PTAと企画段階から連携して実施した。 | ・今後も小学校PTAや地域内の各種団体等と連携した講座運営に努める。 | 子育て |
| 9 | 富屋ママたち広場 | 乳幼児とその保護者を対象に、子育ての交流や遊び、学習を通して、親子のスキンシップを深めるとともに、親同士のネットワークを促進し、家庭・地域における子育て環境の支援を図る。 | 富屋地区内の就園前の乳幼児とその保護者 | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | 7 | 6月～12月 | 158組・173人 | ・地域の子育て世代が交流でき、ネットワークが広がった。 | ・きめの細かい講座づくりで、さらに一人一人の親子に目を向けていく。 | 子育て |
| 10 | ゆるりん子育て親育ち | 就学前の子どもを持つ保護者を対象に、子育ての悩み等について話し合いを行い、それぞれの親が自分に合った子育てについて学び、親が自信を持って子育てができるよう支援を行う。また親同士のネットワーク作りを促進し、家庭・地域における子育ての力の向上を図る。 | 富屋地区内の就園前の乳幼児とその保護者 | - | - | - | ○ | - | - | 4 | 5月～6月 | 30人 | ・他センターにおいて実施している保健福祉事業などで子育てに悩む母親に焦点を当て受講を促した。 | ・受講者たちがサークルを結成して講座終了後も活動を行うなど、受講者のネットワーク作りをさらに支援していく。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

豊郷生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-----------|--|------------------|------|----|----|--------|--------|---|----|--------|-----------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | W S | レ ク | 他 | | | | | | |
| 1 | わくわく体験教室 | 体験学習を通して、自ら考え行動できる子どもたちを育成する。また、学年、学校間を超えた仲間づくりを促す。 | 地区内小学校の3～5年生 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 6 | 5月～11月 | 291人 | ・実験や体験など興味を引くプログラムを組んで対応したが、内容によっては、飽きてしまう生徒が見受けられた。 | ・講師との打合せを十分に行うとともに、プログラムの内容を工夫する。 | 青少年 |
| 2 | まほろば探検塾 | 郷土の伝統、歴史などを学ぶことにより郷土への関心や愛着心を高め、地域の魅力や課題に気づききっかけをつくるとともに、まちづくりを推進するリーダーの育成を図る。 | 豊郷地区内の一般成人 | ○ | - | ○ | - | - | - | 5 | 6月～11月 | 215人 | ・郷土についての学習をまちづくりに生かすためのプログラムを設定し意識づけを行った。今後とも各自が地域を知り地域を考えるきっかけとなるようなプログラムを設定する必要がある。 | ・講座を受講することで地域を考えるきっかけづくりになるとともに地域を誇りに感じることができるようなプログラムを実施していく。 | 成人 |
| 3 | とよさと元気塾 | 情報化・国際化・少子高齢化と社会環境の変化の加速が増している中、高齢者が変化に適応し心豊かに生活できるよう生活に役立つ知識や技能を身に着けるとともに健康づくり生きがいづくりを支援する。 | 豊郷地区内に居住の60歳以上の方 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 6 | 5月～11月 | 427人 | ・高齢者に役立つ講座を中心に組み立てたほか、より興味が出るように、体験学習の前段には陶芸作家を講師に招き、焼き物づくりについて深く掘り下げた内容としたことで作品づくりに熱が入ったようであった。 ・生きがいづくり支援のため、受講するだけでなくその成果を発信できる場の提供について検討が必要である。 | ・センターの展示ケースなどを活用した作品展示等により、事業の周知を図るとともに受講生の学習意欲の向上を図る。また、高齢者が社会とのかかわりについて考える機会を持つことを目的に人権をテーマにしたプログラムを検討していく。 | 成人 |
| 4 | 避難所運営体験講座 | 突発的に発生する災害による避難所の開設に対応するため、避難所運営を模擬体験することにより、避難所で起こる様々な問題に対応する方法を学ぶ。 | 豊郷地区内の一般成人 | - | ○ | - | - | - | - | 1 | 11月 | 16人 | ・避難所運営ゲームによる講座は、実際の避難所運営を考えるよい機会となった。真剣に考え話し合う時間を持ったことは有意義であった。今後は学校関係者に参加してもらえよう、平日の実施についても検討する必要がある。 | ・平日の開催を視野に入れ、まちづくり推進協議会等地域団体との共催を検討していく。 | 成人 |
| 5 | 子育て広場 | 乳幼児とその保護者を対象に、親と子のふれあう時間を確保するとともに、親同士、子ども同士の交流を深め、受講者同士の仲間づくりにつなげる。 | 市内在住の乳幼児とその保護者 | - | - | - | - | ○ | - | 7 | 5月～12月 | 155組・346人 | ・ニーズの多かったリトミックを始め体を動かす内容を充実したことや、人形劇にサンタを登場させるなどの工夫により受講者の満足度も高かった。 ・子ども同士の接触があったことから今まで以上に安全面への配慮が必要である。 | ・子どもたちが安全に活動できるよう、年齢で班分けするなどして運動能力に差が生じないように配慮する。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

豊郷生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-------|--|-------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|----------|--|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 6 | 親育ち講座 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭を取り巻く社会情勢が変化するなか、子育てへの自信喪失や不安感を解消することにより、家庭における親の教育力の向上を図る。 ・父親の育児参加を促すとともに、母親がリフレッシュできる機会を提供する。 | 市内在住で1～3歳の子を持つ保護者 | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | 5 | 9月～11月 | 46組・185人 | <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日に加え、新たに日曜日も開催した結果、定員を上回る多くの参加申し込みがあり好評であった。 ・リトミックでは、1歳と3歳では運動能力に差があるため、年齢制限を設ける等の課題が残った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・父親同士の交流が深められる講座内容を検討する。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

篠井生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|---------------------|--|-----------------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|---------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 少年大空教室 | 郷土の伝承、文化、自然に関する学習活動や生活向上に関する実践的活動を通じ、ふるさとを見直し、地域連帯感や郷土愛の精神を深め、豊かな郷土づくりを図る。 | 篠井小学校在籍児童 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 7 | 8月～2月 | 428人 | <ul style="list-style-type: none"> ・育成会の役員会において、各子供会の会長を通じて参加呼びかけをした。また、学校にポスターの掲示、チラシ配付依頼をし、募集方法等を工夫し、多くの児童に参加してもらう事ができた。 ・児童数の減少とともに参加者が減ってきている。子どもの生活体験、自然体験を取り入れた事業が求められている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、育成会と連携しながら魅力ある内容を企画し、親子で参加できる事業や地域の特色を生かした体験等の活動を推進し、豊かな情操と自主性を高めてゆく。 | 青少年 |
| 2 | 輝き人生教室 | 自らが日常生活において自立し、これまでに習得した技能を活用し、地域社会に主体的に社会参加をし、生き甲斐のある豊かな人生を過ごす力を身につける。 | 地域内高齢者 | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | 11 | 6月～1月 | 339人 | <ul style="list-style-type: none"> ・篠井小学校の全学年と世代間交流を実施し、児童も(竹細工の)理解や製作品も完成はしているが、更に今後も交流をはかっていくことから研修を積む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も更に指導者として技術や話術を身につける研修会を開催し、人材育成にも繋げる。 | 成人 |
| 3 | 地域力アップ教室PART5 | 篠井地区を更に元気のある地域とするために、地域と生涯学習センターが共に知恵を出し合いよりよい地域となるよう一緒に考えて行く。 | 地域一般成人 | ○ | ○ | - | ○ | - | ○ | 6 | 7月～1月 | 100人 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロの写真家と地区内を歩きながら新たな魅力を新発見し、成果物をHPにアップした。 ・今後は、地区内でも集中した部分を実施していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地場の「よさ」を理解してもらえるよう関係機関とともに事業を展開する。 | 成人 |
| 4 | ボランティア指導者研修会 | 地域内にあるボランティア4グループが一同に会し、他施設の活動状況を研修すると共に、指導者としての資質を高める。 | 地域一般成人 | ○ | - | ○ | - | - | - | 1 | 11月 | 23人 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化について、渡良瀬遊水地を視察した。 ・地区内にある資源や産物を見出ししながら、様々な手法をとり入れ地区内あつた掘り起しに努力する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区内に栃木県の重心地である(仮称)へそ公園を現在整備しているところから、地域活性化や交流に寄与できるよう研修を積む | 成人 |
| 5 | shinoiスマイルファミリースクール | 家庭教育における子どもの教育をおこなうために、考え方や育て方についての知識や技術を身につける。 | 地域内の小学生を持つ保護者」又は家庭教育に関心を持つ人 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 4 | 6月～10月 | 66人 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前にチラシ等を配布し、その直後各組織の連絡網を通して周知・参加の呼びかけを行ったところ、徹底が図られた。 ・近年、青少年犯罪の件数が多くなってきているところから、家庭教育の必要性が高まっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは地域で育てなければならないところから、親子共に体験等身を持って学習できるプログラムを開催する。 | 子育て |
| 6 | ワクワク子育て仲間づくり | 親子と一緒に様々な内容を行うことにより、親子の絆を深めると共に受講生同士の交流を図りながら友達作りの一助とする。 | 就学前の幼児とその親 | ○ | - | ○ | - | ○ | - | 5 | 6月～10月 | 28組・56人 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も近隣にある保育園に出向き保育士の指導を受けるとともに園児との交流が図られた。 ・引き続き地域の関係機関や人材を活用していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・少子化であるため受講者が少なく内容によっては、受講終了者にも声をかけ参加を促す。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

姿川生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------------------|---|---------------|------|----|----|----|----|---|----|---------|------|---------------------------------|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | ふるさと教室 | 郷土の伝承・文化自然に関する学習活動や生活向上に関する実践的活動を通し、ふるさとを見直し、地域連帯感や郷土愛の精神を深め、子どもたちの健全育成を図る。また、学んだことを地域への情報発信する役目も担えるよう地域ジュニアリーダーとしての養成を図る。 | 地域内の小学4年生 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 7月～10月 | 145人 | ・落ち着きのない児童やゲームをしていた児童がいた。 | ・円滑に事業が進められるように、青少年指導員と協力して行っていく。 | 青少年 |
| 2 | 姿川地区歴史展記念講演会「若き日の野口雨情」 | 地域の歴史に触れることで、地域を大切に想う心を育むと共に、地域住民が学び、つながる機会を提供する。 | | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 2月 | 186人 | ・地域と関わりのある歴史事項には限りがあり、継続開催は難しい。 | ・一巡した時点で廃止とし、要望の多いものについては再度実施する。 | 成人 |
| 3 | 姿川地区史跡めぐり | 当地区ゆかりのある版画家で詩人でもある「川上澄生」については、あまり知られていないことから、当地区市民センターで「版画教室」を開催することにより、この地区が生んだ文化人としてPRするとともに、文化を創造する風土づくりや文化活動への動機づけを行う。 | 姿川地区在住者 | ○ | - | ○ | - | - | - | 1 | 8月 | 23人 | ・若年層の参加が少ない。 | ・育成会などと協力しながら「親子史跡めぐり」のような形で若年層の参加促進を図りたい。 | 成人 |
| 4 | タブレット教室 | 初心者を対象に、タブレットの基本知識を習得し、インターネットの接続などを体験しタブレットの操作になれ、受講生同士のコミュニケーションを図ることを目的とする。 | 姿川地区在住者 | ○ | - | ○ | - | - | - | 4 | 12月 | 62人 | ・特になし。 | ・廃止(子育て世代対象事業と入替え) | 成人 |
| 5 | シニア倶楽部 | 知識の習得、趣味、レクレーションを通じて、年齢にふさわしい社会的能力を高めるとともに、受講生同士のコミュニケーションを図ることを目的とする。 | 姿川地区在住者 60歳以上 | ○ | - | ○ | - | - | - | 5 | 10月～11月 | 165人 | ・男性の参加者がすくない。 | ・地区広報紙や、センター施設内掲示等で男性参加の呼びかけを行う。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

姿川生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------|--|---------|------|----|----|----|----|---|----|--------|------|-----------|-----------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 6 | 男の料理教室 | 健康的でバランスの取れた食事づくりを学び、講座を通し受講生同士のコミュニケーションを図り、食生活の中から地域の健康に関わる事業及び団体に参加できるきっかけづくりとなることを目的とする。 | 姿川地区在住者 | ○ | - | ○ | - | - | - | 3 | 10月～2月 | 59人 | ・開催回数増の要望 | ・開催回数増の検討 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

雀宮生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|---------------------------------|--|-----------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|-----------|--|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 「ものづくりスペシャル」 2014・地域わくわく子ども塾 | 小学4～6年生を対象に、他の地域にはない雀宮地区ならではの施設に協力をいただき、普段できない体験を通して知識・技術を学ぶほか、地域特有の施設を利用することにより、地域を知り、地域に愛着を持つもの。 | 雀宮地域内の小学4～6年生 | ○ | - | ○ | - | - | - | 2 | 11月～3月 | 37人 | ・年度途中から講座内容に即した講座名に変更したほか、小学生が参加しやすい夏休み・春休みに講座を開催するよう、宇工高や自衛隊と調整を行った。 | ・小学校での周知のほか、青少年に係る地域団体への周知依頼も行い、小学生のみならず地域で事業を広く周知させ、参加者を増やす。 | 青少年 |
| 2 | 青少年セミナー | 文化や自然に親しむ活動を通して、参加した児童が、仲間を大切にすることや、物事をやりきる心を持ち、学校や地域のリーダーに育つことを目的とする。 | 雀宮地区内の小学校に通学する4・5・6年生 | - | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 6月～12月 | 56人 | ・土曜日の開催では参加しにくいとの声もあり、参加者も定員に満たなかった。また、講座において統一したテーマが必要と感じた。 | ・比較的参加しやすい夏休み中に講座を開催するほか、青少年育成に係る地域団体とも連携し、参加者を増やす。また、地域に係る内容も講座内に含め、地域を知り、地域に愛着をもつきっかけづくりとする。 | 青少年 |
| 3 | さわやかライフセミナー | 現代社会を生きるための情報を得て、学ぶ楽しさや自己向上を図るとともに、仲間づくりや地域参加の促進を目的とする。 | 雀宮地域内の一般成人 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 6 | 7月～11月 | 230人 | ・講座を通じた地域参加の促進に向けての働きかけを強化したい。また、60歳以上を対象とする「ひまわり学級」と内容や参加者の年層が似通っていることから、差別化を図りたい。 | ・「ひまわり学級」との差別化として、より若い世代が参加したくなる講座内容とするほか、趣味や生きがいをきっかけとした、地域参加を促進する講座を検討する。 | 成人 |
| 4 | ひまわり学級 | 豊かな経験を引き続き社会に活かし、さらに新しい知識や趣味を会得することで、健康で生きがいのある人生を送るために必要な学習をする。 | 雀宮地域内に在住の60歳以上の方 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 5 | 6月～10月 | 203人 | ・館外学習は全員で参加できる内容での検討が必要である。また、座学での講座が中心であったが、ものづくり等の実技を希望する参加者も少なくなかった。そのほか、参加者の男女比率に大きく偏りがあり、男性も参加しやすいよう、講座のPRが必要である。 | ・館外学習は全員が参加可能な内容・研修方法を検討する。また参加者数が多くでも実施可能な実技系の講座を検討する。さらに、男性も興味を持つような講座内容や講座のPRを行う。 | 成人 |
| 5 | 親子ふれあい広場 | 親子のふれあいを通し、絆を深めるとともに、親子同士の交流を深め、よりよい子育ての知識と技能を身につけ、家庭の教育力の向上を図る。 | 雀宮地域内の未就学児とその保護者 | - | ○ | - | - | ○ | - | 6 | 7月～11月 | 120組・255人 | ・一部講座内容において、講師同士の調整に不足を感じる部分があった。 | ・講座に先立ち、講師を交え講座の実施手順や手法等、再度確認を行う。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

雀宮生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-----|---|------------|------|----|----|----|----|---|----|------|------|--|--------------------------------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 6 | 雀宮学 | 雀宮地域の歴史を学ぶことにより、地域文化への理解を深める。栃木の民族・文化を学びながら雀宮地域を改めて考えるきっかけをつくる。 | 雀宮地域内の一般成人 | ○ | - | ○ | - | - | - | 1 | 11月 | 50人 | ・地元の歴史についての学習意欲が高い参加者が多い。参加者がより期待できる内容にしていく。 | ・特に史跡めぐりは参加者が多いため地域を変えて継続していく。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

上河内生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-------------------|---|-----------------------------|------|----|----|----|----|---|----|---------|------|--|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 子どもチャレンジ教室 | 子どもたちが新しいことにチャレンジする機会を持ち、体験することで新たな発見をし、さらに新しい目標につなげられるようにする。 | 市内在住の小学生各回15人(第3回は4～6年生10人) | ○ | ○ | - | - | - | - | 3 | 7月～8月 | 37人 | ・夏休みに各回毎に募集する企画としたところ、応募者が増えた。 ・先着順でなく希望者により広く参加の機会を提供できるようにする。 | ・3回の講座をテーマごとに独立させ、募集の仕方を電話ではなく窓口かハガキにし、応募多数のときは抽選とする。 | 青少年 |
| 2 | 方丈記に学ぶ生き方 | 自ら歩んできた道を、今の社会状況に似た時代に生きた人物を参考例として振り返る。 | 市内に在住か通勤している成人 | ○ | - | - | - | - | - | 5 | 5月～7月 | 81人 | ・激動の時代に生きた鴨長明の生き様を、方丈記の講読を通して、学習することができた。 ・大変親しみやすい講座で、高まった受講者の学習意欲を継続させる。 | ・視点を変え、古典に学ぶ講座を提供する。 | 成人 |
| 3 | ふれあいパソコン教室 | パソコンの基本的な操作を学び、特に文書作成、表計算、写真の取り込みなど、日常生活の中で活用できる技術を習得する。 | 市内在住の成人 | - | ○ | - | - | - | - | 12 | 6月～11月 | 205人 | ・講座内容について打ち合わせをし、事前にレジユメの準備をした。第3回(10月)の講座は金曜日に開催した。 ・1つのテーマについて3日間では短すぎるとの声があり、講師、受講生双方からあった。また、初回の申込みで全コース受講できるように誤解がないようにする。 | ・土曜日でなくても受講申込が多くあったので、金曜日開催にする。申込みに誤解がないようにテーマごとに独立した講座とし、理解が不十分と思うところを質問できる日を設けて1講座4日間開催とする。 | 成人 |
| 4 | メンズクッキング | 男性の料理への興味関心が高まっている中、料理の基本的知識と技術を習得し、調理から後片付けまでを自律的にできるよう学習する。 | 市内在住の成人男性 | - | ○ | - | - | - | - | 6 | 6月～12月 | 92人 | ・6回のうち5回を同じ講師に依頼し、洋食と和食、それぞれ基本と応用と重複のない献立で行った。1回は日項目にできないプロの技を学ぶ機会にした。 ・和気あいあいと料理の手際もよくできているが、受講者が固定化しており、継続について検討する。 | ・受講者には料理の基本や手順はほぼ理解され、家庭でも料理をするなど、当初の目標は達成できたと判断し、廃止する。 | 成人 |
| 5 | ライフアップセミナーinかみかわち | 学習したことを、実生活等に生かし、尚且つ自己の教養を高める。 | 市内に在住か通勤している成人 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 8 | 7月～12月 | 225人 | ・第2回に実技の講座を実施し、第3回の講座後半にも体験学習を取り入れた。 ・受講者が交流や話し合いを通し、より積極的に講座に参加できるようにする。 | ・2～3の講座で、グループ活動や、討論形式を取り入れる。 | 成人 |
| 6 | 心を開くコミュニケーション | コミュニケーションの2本柱である「聴き方」と「伝え方」を学ぶことにより、日常生活でより良い人間関係を築けるようにする。 | 市内に在住か通勤している成人 | ○ | - | - | ○ | - | - | 6 | 10月～11月 | 52人 | ・ロールプレイを毎回取り入れ、受講者どうし話し合いも行った。 ・受講者が定員の半数に過ぎなかったことから、学習ニーズを再検討し、組み替えを行う。 | ・講座の内容を、外国人とのコミュニケーションを主眼とした実技形式に改め、特に若い世代(主として小中学生の保護者)の受講者増を目指す。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

上河内生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|---|---|---------------------------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|----------|---|--|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 7 | 市民運営講座「フレンズ・オブ・ハーモニーふれあいコンサート～心躍るハーモニカの調べ～」 | ハーモニカの演奏を鑑賞し、受講生全員で合唱を楽しむ。 | 市内に在住か通勤している成人 | ○ | ○ | - | - | - | - | 1 | 1月 | 29人 | ・アマチュアの音楽サークルの演奏会という形式で、前年度とは違ったコンサートを開催することができた。 ・実質的にライブアップセミナーinかみかわちの運営委員が中心となって事業を運営しており、実施形態や名称を実態と合致させる。 | ・ライブアップセミナーinかみかわちの公開講座として組み替える。 | 成人 |
| 8 | ほほえみ塾出前講座「五十里洪水にまつわる話」 | 自治会や老人クラブなどの学習ニーズに応え、自治会の公民館等を会場に出前講座を実施し、仲間づくりやまちづくりを図る。 | 上河内地域内在住の一般成人 | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 1月 | 23人 | ・今回の講座は予め講師とテーマを指定され予算の範囲で対応したが、庁内各課が行う出前講座や講師情報の有効活用に努める。 | ・宇都宮市など公的機関が実施している出前講座の紹介及び実施を原則とし、必要に応じ予算の範囲内において対応する。 | 成人 |
| 9 | 子育て広場 | 子育て中の親子が、講座を通して触れ合うことで絆を深めるとともに、受講生同士が情報を交換し交流を図る。 | 市内在住の1歳～就学前の幼児とその保護者(第5回は一般参加可) | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | 5 | 6月～12月 | 71組・151人 | ・リズムカルな音楽に乗って身体を動かすプログラムと、人形劇の観劇を企画した。どちらも親子で集中して楽しむことができた。 ・ボランティア(オビニオンリーダー)の方々に、より積極的に講座運営にかかわっていただく。子育て相談を充実させる。 | ・新たに子育て相談員の派遣依頼をし、オビニオンリーダー会には講座全般にわたってご協力いただく内容を講座開始前、講座中、講座終了後にわけて具体的に伝える。 | 子育て |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

河内生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|--------------|--|-------------------|------|----|----|----|----|---|----|-------|------|---|---|-----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 1 | 少年少女のオモシロ夏休み | 「夢を持って活動できる子どもになろう」を目指し、創造的な創作活動を行う。 ～広げよう 見る目 目指そうものづくり～ | 小学校高学年児童(小学4～6年生) | - | ○ | - | - | - | - | 4 | 8月 | 84人 | ・絵画と工作の2講座(4日間)を設けたが、自己都合で欠席する児童があり、作品を完成できないということが課題。 | ・H27年度募集時に4日間通して出席できるように要請する。 | 青少年 |
| 2 | こども国際理解教室 | 外国人、海外在住経験者の話を聞いたり、ゲームや食事作りなどのふれ合う機会を持ったりして日本と世界の国々の文化や生活の違いを理解すること。さらに、論語の学習を通してこれまで培ってきた生活習慣の見直しをする。 | 小学校高学年(小学5・6年生) | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 6 | 7月 | 79人 | ・H25年度の3日間を、H26年度は4日間としてスムーズな学びできた。 ・ヨルダンの学びの後、中東における国際情勢の悪化などの継続的な学びの補足まで行き届かず、課題となった。 | ・政治・経済における国際情勢の変化と世界の子どもの安全について学び続ける方策を話し合う機会を設けると良い。 | 青少年 |
| 3 | ふれあい学級 | 受講生がお互いに連帯感を深め、励ましあい学びあって生き甲斐のある人生を送れるようになる事を願い、学級活動を進める。計画立案に当たっては、次の点を柱にする。☆視野を広げる。☆親睦を深める。☆趣味・教養を深める。 テーマは「環境と豊かな生活」 | 高齢者60歳以上 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 10 | 5月～2月 | 528人 | ・放射線関連の講話、館外学習で大いに効果が上がった。歴史、健康、伝統生活体験も同様であった。 ・昨年度と同様に今年度事業の実施においても、病气や自らの所用での当日欠席の方があった。 | ・当日欠席の課題は、難しい。同じ班員同士の繋がりが高まるよう改善策を練る。 | 成人 |
| 4 | かがやきセミナー | 健康で心豊かな生活をおくるため社会の一般的な知識を学ぶとともに、郷土の歴史を探究して郷土愛を深め、講座をとおして趣味の拡大を図りながら、仲間づくりとしての場を提供する。 | 一般成人 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 9 | 5月～2月 | 424人 | ・プログラムに工夫をしたが、男性の参加は予想を下回った。 | ・男性を対象に意識調査(アンケート)を実施し、講座に取り組んでみる。 | 成人 |
| 5 | 新春講演会 | 知識・文化人の講演を拝聴し、心豊かで幸せな生活を送る。 | 一般成人 | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 1月 | 113人 | ・今回の内容(泣語)は最近できたジャンルであり、一般にはなじみがうすい。落語と勘違いしている様子が伺えた。 | ・オープン参加の事業で企画してきたが、次年度は事業整理の為に廃止。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

河内生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|-------------------|--|--------------|------|----|----|----|----|---|----|---------|------|--|---|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | |
| 6 | パソコン入門講座 | パソコンの基本操作や文書の作成などを習得し、社会活動や仕事に活用する市民の増加 | 一般成人 | - | ○ | - | - | - | - | 10 | 4月～6月 | 282人 | | ・初期の目的を達成したこと、パソコン機種がXPと旧式であることで現在のパソコン操作にマッチしないため廃止する。 | 成人 |
| 7 | 美と健康きらめき講座講座Ⅰ | 自身の健康・生活・マナーなど、さまざまな分野で女性が素敵に輝ける知識・教養を体験を交えながら習得する。 | 一般成人女性 | ○ | - | ○ | - | - | - | 3 | 5月～7月 | 46人 | ・ピラティスについての簡単な資料を配布し内容の理解は得られたが、講座全体がややマンネリ化してきた。 | ・統一テーマで3回連続講座としていたが、次年度はそれぞれ違った視点から美と健康を目指す内容としたい。 | 成人 |
| 8 | 美と健康きらめき講座講座Ⅱ | 自身の健康・生活・言葉など、さまざまな分野で女性が素敵に輝ける知識・教養を実体験を交えながら習得する。 | 一般成人女性 | ○ | - | ○ | - | - | - | 3 | 10月～12月 | 44人 | ・チラシ・ポスター・ホームページなどでPRしたが、「カフェランチ」という内容が受講生にはイメージしにくかったように思う。また、開催時期も年末になると出席率が低くなる傾向にある。 | ・美と健康につながるわかりやすいテーマを設定し、地域内のみならず他地区にもチラシを配布するなどしてPRしたい。 ・開催時期についてももう少し早い時期に設定する。 | 成人 |
| 9 | 男の料理入門講座 | 健康を維持していくための家庭料理を習得し、料理を通じて家族団らんの持てる料理に関心の持つ男性の増加。 | 一般成人男性 | ○ | - | ○ | - | - | - | 7 | 5月～6月 | 132人 | ・7回と講座の回数を増加したが、期間が長期にわたるため、欠席する受講生がいた。 | ・講座を1期と2期に分けて実施する。 | 成人 |
| 10 | 市民運営講座「こころの体操講座Ⅰ」 | 地球温暖化の実態を学び、日々の生活において自然に優しく、効率的なエネルギー使用に取り組む動機づけを行い、日々の心の達成感を味わえる生活を目指す。 | 市内在住の20歳以上の人 | ○ | ○ | - | - | - | - | 3 | 6月～8月 | 62人 | ・地球温暖化防止について、講義と実技(料理)を組み合わせ実施した。30名定員に対し27名の受講。 ・講義と実技で、受講生の理解度・満足度にばらつきがみられた。実技(料理)は、準備段階から受講生が関わることが必要である。 | ・生涯学習コーディネーターとして何をやるか明確にし、もっと実践に繋がるような講座内容にしていきたい。 | 成人 |
| 11 | 市民運営講座「こころの体操講座Ⅱ」 | こころの和らぎ、前向きな自分づくりを目指す | 市内在住の20歳以上の人 | ○ | - | ○ | - | - | - | 2 | 11月～12月 | 26人 | ・当講座では初めて館外学習を行い、受講生からは好評であった。30名定員に対し19名の受講。 ・白沢宿歴史探訪ウォークと食の知恵の講義の組み合わせだったので、テーマの関連性を明確にする企画が必要である。 | ・生涯学習コーディネーターとして何をやるか明確にし、もっと実践に繋がるような講座内容にしていきたい。 | 成人 |

平成26年度 生涯学習センター事業実施報告

河内生涯学習センター

| 連番 | 事業名 | 学習目標 | 対象 | 学習方法 | | | | | | | 回数 | 実施時期 | 参加者数 | 課題・問題点 | 課題への対応策 | 備考 |
|----|------------|---|-----------------|------|----|----|----|----|---|----|--------|-----------|--|--|---------|----|
| | | | | 講義 | 実習 | 体験 | WS | レク | 他 | | | | | | | |
| 12 | 託児ボランティア研修 | ボランティア活動の意欲向上及び参加者同士の親睦を図る。 | 託児ボランティア登録者 | ○ | - | - | - | - | - | 1 | 3月 | 13人 | ・現在のボランティア登録者の高齢化の解消につながる事業を開催する。 | ・ボランティア協力者の拡大を図るため、広く一般向けの講座を開催する。 | 成人 | |
| 13 | 親子チャレンジ教室Ⅰ | 親子参加型の遊びやスポーツなど様々な体験をとおして、親子の絆を深め、参加者相互の意見交換等により、家庭教育のあり方を学ぶ。 | 小学1年生～6年生とその保護者 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | 4 | 5月～7月 | 47組・136人 | ・講師との事前打ち合わせ時に当日のスケジュール等について共通理解を図った結果、円滑な運営ができた。 ・雨天時の対応を検討しておく必要がある。 | ・事業計画の際に、雨天時の対応を含めて計画を立てる。 | 子育て | |
| 14 | 親子チャレンジ教室Ⅱ | 親子参加型の遊びやスポーツなど様々な体験をとおして、親子の絆を深め、参加者相互の意見交換等により、家庭教育のあり方を学ぶ。 | 小学1年生～6年生とその保護者 | ○ | ○ | - | - | - | - | 2 | 8月 | 26組・55人 | ・講師との事前打ち合わせ時に当日のスケジュール等について共通理解を図った結果、円滑な運営ができた。 ・雨天時の対応を検討しておく必要がある。 | ・事業計画の際に、雨天時の対応を含めて計画を立てる。 | 子育て | |
| 15 | 親子チャレンジ教室Ⅲ | 親子参加型の遊びやスポーツなど様々な体験をとおして、親子の絆を深め、参加者相互の意見交換等により、家庭教育のあり方を学ぶ。 | 小学1年生～6年生とその保護者 | - | ○ | - | - | - | - | 8 | 8月～1月 | 77組・169人 | ・講師との事前打ち合わせ時に学習支援の方法等について共通理解を図った結果、児童の理解を促すことができた。 | ・特に無し | 子育て | |
| 16 | 子育て広場 | 「こころ・からだ・健やか」をテーマに、親が乳幼児期の大切さを認識した子育てができるようにする。子ども同士が関わり合い、子どもの世界を広げ、親と子がよい関係を築けるようにする。 | 市内在住の乳幼児とその保護者 | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 10 | 4月～1月 | 371組・760人 | ・全体の年間スケジュールを立てたことで円滑な運営ができた。 ・定員を大幅に上回る申込みがあった。講座開始の案内をしても活動場所への集まりが悪い。 | ・申込み開始日を開催日の一ヶ月前に設定し、広報誌による周知期間を長くする。当日の運営をより円滑にするため、子育て相談員に講座前の手遊びなどを依頼する。受講生の要望があったため、親子での活動をより充実する。 | 子育て | |
| 17 | ワクワク子育て講座 | 子どもの健全な成長のための子育てについて学ぶとともに、親同士の交流を図り、不安なく楽しく子育てができるよう学習の機会を提供する。 | 就学前の幼児を持つ親 | ○ | ○ | - | - | - | - | 6 | 6月～11月 | 159人 | ・定員を超えた申込みがあり、リピーターが多く新規希望者に受講の機会を充分与えられていない。また、本年度は父親の参加が1人であったが、更に多くの父親に参加してもらえよう工夫が必要である。 | ・出席率の低い受講生には中途でも受講待ちの者と入れ替える。また、夫婦で相互に自由に参加できるような教室にする。 | 子育て | |

平成26年度 学習相談利用状況

◆平成26年度学習相談件数（平成26年4月～平成27年3月）

- ・来館による相談 322件
- ・電話による相談 188件
- ・ファックスによる相談 0件
- ・Eメールによる相談 2件
- ・その他による相談 0件 計512件・・・①
- ・簡易問い合わせ件数 1,697件・・・②
- 総件数(①+②) 2,209件

◆平成25年度学習相談件数（平成25年4月～平成26年3月）

- ・来館による相談 371件
- ・電話による相談 178件
- ・ファックスによる相談 0件
- ・Eメールによる相談 3件
- ・その他による相談 2件 計554件・・・①
- ・簡易問い合わせ件数 1,117件・・・②
- 総件数(①+②) 1,671件

| 相談方法 | 人材 | 中央 | 東 | 西 | 南 | 北 | 上河内 | 河内 | 平石 | 清原 | 横川 | 瑞穂野 | 豊郷 | 国本 | 城山 | 富屋 | 篠井 | 姿川 | 雀宮 | 学文 | 計 |
|--------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 面接(窓口) | 8 | 37 | 47 | 10 | 41 | 53 | 17 | 7 | 6 | 0 | 0 | 30 | 10 | 1 | 22 | 0 | 0 | 1 | 20 | 12 | 322 |
| 電話 | 22 | 23 | 14 | 17 | 3 | 24 | 9 | 7 | 0 | 0 | 0 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 23 | 38 | 188 |
| FAX | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Eメール | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 30 | 60 | 61 | 27 | 45 | 77 | 26 | 14 | 6 | 0 | 0 | 36 | 12 | 1 | 23 | 0 | 0 | 1 | 43 | 50 | 512 |

| 相談種類 | 人材 | 中央 | 東 | 西 | 南 | 北 | 上河内 | 河内 | 平石 | 清原 | 横川 | 瑞穂野 | 豊郷 | 国本 | 城山 | 富屋 | 篠井 | 姿川 | 雀宮 | 学文 | 計 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 施設 | 0 | 2 | 4 | 14 | 1 | 17 | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 3 | 0 | 22 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 89 |
| 講座 | 19 | 0 | 11 | 2 | 7 | 11 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 23 | 42 | 124 |
| 団体 | 14 | 58 | 47 | 14 | 38 | 57 | 7 | 14 | 6 | 0 | 0 | 31 | 8 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 15 | 5 | 317 |
| 講師 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 地域活動 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 8 |
| その他 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 19 |
| 合計 | 40 | 60 | 62 | 32 | 47 | 95 | 30 | 15 | 6 | 0 | 0 | 39 | 15 | 1 | 23 | 0 | 0 | 1 | 48 | 50 | 564 |

| 相談者(性別) | 人材 | 中央 | 東 | 西 | 南 | 北 | 上河内 | 河内 | 平石 | 清原 | 横川 | 瑞穂野 | 豊郷 | 国本 | 城山 | 富屋 | 篠井 | 姿川 | 雀宮 | 学文 | 計 |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 男性 | 6 | 11 | 21 | 9 | 14 | 12 | 11 | 3 | 2 | 0 | 0 | 5 | 3 | 0 | 10 | 0 | 0 | 1 | 9 | 17 | 134 |
| 女性 | 24 | 49 | 40 | 18 | 32 | 67 | 17 | 11 | 4 | 0 | 0 | 31 | 9 | 1 | 13 | 0 | 0 | 0 | 37 | 33 | 386 |
| 合計 | 30 | 60 | 61 | 27 | 46 | 79 | 28 | 14 | 6 | 0 | 0 | 36 | 12 | 1 | 23 | 0 | 0 | 1 | 46 | 50 | 520 |

| 相談者(年代) | 人材 | 中央 | 東 | 西 | 南 | 北 | 上河内 | 河内 | 平石 | 清原 | 横川 | 瑞穂野 | 豊郷 | 国本 | 城山 | 富屋 | 篠井 | 姿川 | 雀宮 | 学文 | 計 |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 70代以上 | 8 | 9 | 8 | 5 | 18 | 19 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 8 | 87 |
| 60代 | 9 | 37 | 25 | 8 | 19 | 32 | 5 | 7 | 5 | 0 | 0 | 15 | 7 | 0 | 9 | 0 | 0 | 1 | 19 | 22 | 220 |
| 50代 | 5 | 9 | 10 | 4 | 5 | 19 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 11 | 2 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 7 | 3 | 92 |
| 30～40代 | 8 | 5 | 13 | 11 | 3 | 7 | 15 | 2 | 1 | 0 | 0 | 9 | 3 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 16 | 100 |
| 20代 | 0 | 0 | 5 | 0 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 1 | 22 |
| 10代以下 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 30 | 60 | 61 | 28 | 46 | 79 | 28 | 14 | 6 | 0 | 0 | 36 | 12 | 1 | 23 | 0 | 0 | 1 | 46 | 50 | 521 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|---|----|----|----|-----|----|----|---|---|----|----|----|-------|-------|
| 簡易問い合わせ | 4 | 0 | 34 | 174 | 108 | 184 | 39 | 274 | 0 | 54 | 70 | 25 | 624 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 44 | 48 | 3 | 1,697 |
| 総件数 | 34 | 60 | 95 | 201 | 153 | 261 | 65 | 288 | 6 | 54 | 70 | 61 | 636 | 13 | 23 | 0 | 0 | 45 | 91 | 53 | 2,209 | |

○ 平成26年度生涯学習センター事業運営の考え方

(1) 基本的な考え方

近年における、少子超高齢・人口減少社会の到来や都市化・核家族化の進行などにより、家庭・地域の教育力の低下や住民のコミュニティ意識や連帯感の希薄化、青少年層の自立意欲の減退など、人づくりやまちづくりにおける課題が顕在化してきている一方、団塊の世代の地域活動が活発化してきており、これからの地域を支える新たな担い手として期待されるなど、本市を取り巻く社会環境は大きく変化している。

また、東日本大震災の経験を通じて、困難に直面しようとも諦めることなく状況を的確に捉えて自ら考え行動する力の重要性や、地域の絆や人と人とのつながりの重要性が再認識される中、地域住民の協働による地域課題の解決や地域の活性化など、地域づくりの取組を促進するためには、「個人の自立」や「絆づくり・地域づくり」につながる事業の充実に取り組んでいく必要がある。

こうしたことから、生涯学習センターにおいては、第2次宇都宮市地域教育推進計画に掲げる基本理念である「学びを通して、豊かな人間性と人と人との絆を育み、地域ぐるみにより、教育活動やまちづくりを支える社会を実現する。」ために、地域を支える市民一人ひとりが自己の自立と社会の一員であることを意識し、社会参加への意欲を高めるような事業や学んだ成果を地域につなぐきっかけとなる事業運営に取り組んでいく。

(2) 重点項目

ア 人間力の向上に資する事業の充実

激しく変化する社会の中で、市民一人ひとりが心豊かに生活できるよう、学ぶことの喜びや仲間づくりにつながる趣味・教養的な講座を引き続き実施するとともに、生活に役に立つ講座や青少年リーダー育成など、個人の自立を促すための講座や、国際交流、男女共同参画、人権、まちづくりなど社会の要請に対応した講座の充実を図る。

イ 家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実

「人づくり」の基本となる家庭と地域の教育力の向上を図るため、家庭や親の役割や責任、子どもとの関わり方などについて保護者の気づきを促す講座や子育ての知識や技術を身につけるための講座などを実施する。実施にあたっては子育て中の親の仲間づくりにつながるよう、参加交流機会の充実に努める。

また、地域ぐるみで子どもを育てる意識の醸成を図るとともに、学校や企業など、地域を構成する各主体とのより一層の連携・協力を図り、家庭と地域が抱える課題の解決に資する事業の充実に努める。

ウ 学習情報拠点としての充実

市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、生涯学習センターは地域の学習情報の拠点として、積極的な情報収集や提供とともに、生涯学習センターの情報共有を行い、学習相談の充実に努める。

エ 地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進

市民の地域に根差した学習活動を推進するため、各種ボランティア等の養成を推進するなど、地域で活躍できる「人づくり」の充実を図るとともに、地域に目を向け、地域のもつ魅力や課題に気づききっかけとする講座の充実に努める。また、学んだ人材が学習成果や経験を活かせるような機会と場の提供に努める。

○ 平成27年度生涯学習センター事業運営の考え方

(1) 基本的な考え方

近年における、少子超高齢・人口減少社会の到来や都市化・核家族化の進行などにより、家庭・地域の教育力の低下や住民のコミュニティ意識や連帯感の希薄化、青少年層の自立意欲の減退など、人づくりやまちづくりにおける課題が顕在化してきている一方、団塊の世代の地域活動が活発化してきており、これからの地域を支える新たな担い手として期待されるなど、本市を取り巻く社会環境は大きく変化している。

また、東日本大震災の経験を通じて再認識された、自ら考え行動する力の重要性や、地域の絆や人と人とのつながりの重要性を踏まえ、個人が積極的に社会に参画し、他者と協働しながら、主体的に「互助・共助」による活力ある地域づくりに貢献していこうとする気運の高まりが見られる。こうした気運を持続的なものとし、地域住民の協働による地域課題の解決や地域の活性化など、地域づくりの取組を促進するためには、個人の自立に向けた学習や、絆づくり・地域づくりにつながる事業の充実に取り組んでいく必要がある。

こうしたことから、生涯学習センターにおいては、第2次宇都宮市地域教育推進計画に掲げる基本理念である「学びを通して、豊かな人間性と人と人との絆を育み、地域ぐるみにより、教育活動やまちづくりを支える社会を実現する。」ために、地域を支える市民一人ひとりが自己の自立と社会の一員であることを意識し、社会参加への意欲を高めるような事業や学んだ成果を地域につなぐきっかけとなる事業運営に取り組んでいく。

(2) 重点項目

ア 人間力の向上に資する事業の充実

激しく変化する社会の中で、市民一人ひとりが心豊かに生活できるよう、学ぶことの喜びや仲間づくりにつながる趣味・教養的な講座を実施するとともに、引き続き地域課題や生活課題に対応する講座の拡充を図る。

また、平成26年10月に、本市の「社会教育委員の会議」から『「社会の要請」と求められる学習について』として提言がなされた、「超高齢社会」や「子育て・子育て環境の変容」、「規範意識・社会性の低下」などの早急に対応すべき課題に対し、関係部局や関係機関等との連携を図りながら、講座として着実に展開していく。

※『「社会の要請」と求められる学習について（平成26年10月）』…3ページ

イ 家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実

「人づくり」の基本となる家庭と地域の教育力の向上を図るため、家庭や親の役割や責任、子どもとの関わり方などについて保護者の気づきを促す講座や子育ての知識や技術を身につけるための講座などを実施する。実施にあたっては子育て中の親の仲間づくりにつながるよう、参加交流機会の充実に努める。

また、地域ぐるみで子どもを育てる意識の醸成を図るとともに、学校や企業など、地域を構成する各主体とのより一層の連携・協力を図り、家庭と地域が抱える課題の解決に資する事業の充実に努める。

ウ 学習情報拠点としての充実

市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、生涯学習センターは地域の学習情報の拠点として、積極的な情報収集や提供とともに生涯学習センターの情報共有を行い、学習相談の充実に努める。

また、平成26年度にリニューアルした「宇都宮市生涯学習情報提供システム」(通称「マナビス」)を有効活用し、より充実した学習情報の提供に努める。

エ 地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進

市民の地域に根差した学習活動を推進するため、各種ボランティア等の養成を推進するなど、地域で活躍できる「人づくり」の充実に図るとともに、地域に目を向け、地域のもつ魅力や課題に気づくきっかけとする「地域学講座」の実施・充実に努める。

また、学んだ人材が学習成果や経験を活かせるような機会と場の提供に努めるとともに、マナビスに新たに搭載する「人材バンク」機能を効果的・有効的に活用し、地域住民同士や関係団体等をつなぐネットワークシステムの構築に努める。

提 言 書

「社会の要請」と 求められる学習について

平成26年10月
宇都宮市社会教育委員の会議

提言にあたり

我々を取り巻く社会環境は、長期にわたる人口減少局面を迎えており、今後、高齢化率の増加や生産年齢人口割合の減少など、少子・超高齢社会への著しい変容が見込まれている。経済環境については、政府は日本経済の持続的な成長を確固たるものにすべく、平成26年6月に『「日本再興戦略」改訂2014』を閣議決定し、企業の収益水準・生産性の向上や女性のさらなる活躍促進などに断固たる決意で取り組んでいるところである。このような中、新興国における産業基盤の蓄積に伴う国内産業の競争力の低下、非正規雇用比率の増加に伴うワーキングプアといわれる若者の増加、消費税率の引き上げに伴う個人消費の反落など、持続的経済成長社会の実現を期待しているにもかかわらず、不安的要素も払拭できない状況である。

宇都宮市においても、総人口は平成29年にピークを迎えた後、人口減少に転ずるものと予測されており、平成42年には、65歳以上の高齢者の割合が29%に達する見通しとなっている。行政では、このような人口減少時代の到来を見据えた上で「第5次宇都宮市総合計画」を策定し、「みんなが幸せに暮らせるまち」「みんなに選ばれるまち」「持続的に発展できるまち」の実現をまちづくりの目標として掲げ、魅力あふれる宇都宮の構築に向けて取り組んでいる。

我々は、宇都宮市の社会教育委員として、こうした社会・経済環境の変化を踏まえながら、一人ひとりが豊かな人生を送れる社会を構築するためには、社会教育・生涯学習の振興を通じた「人づくり」が緊要であると考えている。

社会教育・生涯学習の振興を通じた「人づくり」とは、「社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識や柔軟な思考力、課題を解決する力（自立した個人としての力）」とともに「社会性や公共性、豊かな人間性など、個々人が社会の中で他者と連携・協働しながら様々な課題や問題を乗り越えていく力（社会を構成し、運営する力）」の養成である。

これらの「人づくり」を、迅速かつ的確・着実に推進するためには、多くの市民が解決していかなければならない社会的課題や、それらを解決する上で必要な学習について、教育行政に携わる社会教育委員として、それぞれの立場から議論・検討し、方向性を導くことに、大きな意義があると考えている。

このようなことから、社会教育委員の総意として、本市において可及的速やかに取り組むべき学習課題、いわゆる『「社会の要請」と求められる学習について』ここに提言する。

〔提 言〕

1 「社会の要請」の高まり

近年の社会・経済環境の変化を背景として、特に以下に述べるような課題において早急な対応が必要である。

(1) 「超高齢社会」への対応

急激な高齢化の進展の影響は、医療や介護、年金等の社会保障制度の対応が大きな課題であるだけでなく、高齢世帯の増加や高齢者の一人暮らしによる社会的孤立、活躍場所の不足など、地域社会における身近な課題としてあらわれている。

(2) 「子育て・子育て環境の変容」への対応

少子化や核家族化、また高度情報化などの社会状況が、地域社会などにおける子どもの育ちをめぐる環境や、家庭における子育て環境を変化させている。また、これにより、子ども同士が遊びに集中し、互いに影響しあって活動する機会の減少など、人間関係の希薄化や体験活動の不足により、自立意欲や社会適応力に欠ける青少年の増加が懸念される。

(3) 「格差社会」や「勤労観の変容」への対応

家庭の社会経済的背景が、その後の就労をはじめとした「格差」や「貧困」などにもつながるとの指摘がされており、子どもの将来や老後の生活に不安や孤立を感じ、悩みを抱える家庭が増えている。また、雇用情勢の変化の影響が、若者の勤労意欲や社会の活力低下につながるものが問題となっている。

(4) 「規範意識・社会性の低下」への対応

家族形態の変容や都市化、情報化の急速な進展、価値観やライフスタイルの多様化を背景として、近所づきあいなどの住民同士の交流に対する意識が希薄になっている。また、これにより、地域における歴史・文化の継承の途絶や、地域社会における規範意識の低下が問題となっている。

(5) 「地域コミュニティの変容」への対応

地域における人のつながりや連帯感、支え合いの意識の希薄化は、地域コミュニティにおける互助・共助機能の低下を招くだけでなく、若い世代の地域活動への参加率低下や多様化する地域の課題に関心を持たない、積極的に関わろうとしない大人の増加など、地域コミュニティの自治機能を衰退させる原因となっている。

2 必要とされる学習

これらの課題に対して、必要とされる学習は以下のとおりである。

※（ ）は関係する課題

(1) 子ども・青少年に関わる課題に対する学習

多様な体験活動

(「子育て・子育て環境の変容」, 「規範意識・社会性の低下」)

子ども・青少年においては、様々な学習を積み重ね、多くの人との出会いを通して、成人としての自己を築く時期であり、学校、家庭、地域が相互に連携・協力し、ボランティア活動や体験活動、世代間交流の促進など、子どもたちが社会に関わる多様な体験活動の機会を創出していくことが必要である。

こうした課題に対する学習において最も大切なことは、人間同士の直接の触れ合いである。実社会においては、生活体験・社会体験・自然体験などのあらゆる場面における直接体験こそが重要であるとともに、体験活動を通して「思いやり」や「礼儀正しさ」など、日本人が古来大切にしてきた規範意識や道徳心の醸成も図っていく必要がある。

職業観・勤労観の醸成

(「格差社会」や「勤労観の変容」)

青少年が職業に就き、社会経済的に自立することは、社会を生き抜く上での基盤であるとともに、社会にとっても持続的な発展を続ける上で欠かせないものである。雇用情勢が不安定となる中、行政においては、学校や企業など多様な機関と連携を図りながら、青少年の職業観・勤労観の育成や職業に関する知識・技術等の習得を支援することが必要である。

(2) 成人に関わる課題に対する学習

子育て支援、家庭教育支援

(「子育て・子育て環境の変容」, 「格差社会」や「勤労観の変容」)

格差の進行や貧困など、家庭を巡る状況の変化は、個々の家庭の頑張りや努力だけでは対応が難しい社会的問題となっており、こうした課題にあたっては、行政においては、教育分野と福祉・労働・保健等の各分野が連携・協力し、親子の育ちを一層支援していくことが必要である。

大人の道徳観の醸成

(「規範意識・社会性の低下」, 「地域コミュニティの変容」)

周囲の人や地域とのつながりを持たない大人が増加しており、大人自身の気づきや意識の変容が必要である。地域社会を構成する一員としての責任や役割を自覚し、子どもや他の大人の模範となれるよう、モラルやマナーなど規範意識を高めるとともに、道徳観の醸成を図る取組を一層推進していくことが必要である。

(3) 高齢者に関わる課題に対する学習

豊かな人生に向けた多様な学習の提供

(「超高齢社会」)

高齢者がリタイア後の人生を明るく安心して生活するためには、健康で生きがいのある生活と地域社会との関わりが必要である。こうしたことから、高齢者に対する学習については、生涯学習センターなどの地域の様々な関連施設が、コミュニティビジネスを含めた高齢者の生きがいの創出につながる講座や、近年大きな問題となっている高齢者を狙った特殊詐欺に関する講座など、多様な学習プログラムを企画・提供することが必要である。

高齢者の学習については、身体的事由や意欲の低下など、学習活動の参加が困難な場合もあることから、積極的な学習機会の提供や学習者の興味・関心を引き起こすための啓発活動など、きめ細かい配慮や工夫が必要である。

(4) 地域住民に関わる課題に対する学習

地域コミュニティの強化

(「超高齢社会」、「規範意識・社会性の低下」、「地域コミュニティの変容」)

生活環境の整備や防犯・防災など、個人の力では解決できない様々な地域の課題に対応していくためには、日頃から地域の住民同士がつながりを持ち支え合い、助け合う「互助」・「共助」の関係のある地域コミュニティの構築が必要である。特に、超高齢社会の到来により、地域コミュニティの役割や期待は益々高まってきており、地域における様々な課題の解決を目的としてコミュニティが結びつき、多様性のある地域コミュニティの形成が必要である。

行き過ぎた個人主義の風潮や社会全体のつながりの希薄化等が問題となっている近年においては、郷土愛の醸成や地域学講座など、今一度住民が地域に目を向け、地域と向かい合うことができる取組を通して、地域コミュニティの強化を図ることが必要である。

3 おわりに

この提言は、冒頭でも述べたように、社会教育・生涯学習の振興を通じたこれからの人づくりを推進していく上で解決していかなければならない社会的課題や、必要な学習について議論・検討し、とりまとめたものである。

人づくりにおいては、教育委員会に限らず、市役所の他部局や関係機関などにおいても様々な取組が展開されており、それらの連携・協働は相当に進んでいるものの、急速な社会・経済環境の変化における社会的課題の解決に向けた、多様な主体との連携・協働は、必ずしも十分に進んでいるとは言い難い状況であると考えている。

今後、社会教育行政が、社会教育・生涯学習の役割を各地域において目に見える形で示していくためには、地域住民の絆の構築、地域コミュニティの形成、地域課題の解決といった地域の総合的な課題に対応できるよう、地域の多様な主体との連携・協働によるネットワークの構築を一層推進していくことが必要であり、行政においては、本提言を踏まえ関係部局が連携し、効果的な取組が推進されることを期待し、提言するものである。

宇都宮市社会教育委員

上野 修一, 吉田 治, 宇賀神 貴, 勝田 健一, 刀川 啓一,
伊藤 三千代, 今井 政範, 小池 操子, 福田 治久, 廣瀬 隆人,
櫛淵 澄江, 河田 隆, 坂本 宏夫, 佐々木 一隆, 荻野 久一,
山尾 貴則, 橋本 裕文, 高橋 美幸, 清島 康伸, 小平 美智雄

(順不同)

○ 生涯学習センター（平成27年度基本方針・重点事業・事業計画）

（1）中央生涯学習センター



所在地 宇都宮市中央1丁目1番13号
電話番号 028-632-6331
ファクス 028-639-7579
開設 昭和44年 4月 1日
対象区域 市域全体及び中央・東・西・築
瀬・西原・昭和・錦・宮の原小
学校の各通学区域
構造 RC造6階建
敷地面積 2613.54 m²
延床面積 3521.57 m²
建築年月日 昭和55年8月20日
駐車場台数 24台
(うち身障者用) 6台

ア 平成27年度 中央生涯学習センター基本方針

中央地区における生涯学習および市民活動の拠点として、多様な学習活動やまちづくり活動を支援するとともに、個々人が持つ知識や能力を地域・社会に還元できる機会や場の提供に努める。

(ア) 市民ニーズや社会情勢に対応した魅力ある学習機会の提供に努める。特に、個人に委ねられがちな青年教育の充実と親学の向上に努める。

(イ) コーディネーターへの活動の機会や場の提供を行い、人材活用に努める。

(ウ) 所管する8地域のそれぞれの特性に応じた生涯学習講座の支援を通して、まちづくり活動を担う人材を発掘し、その育成や活用に努める。

イ 平成27年度 中央生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|---------------|--|---------------------------------------|-----|-----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | ◎若者ナイト・セミナー | 青年層を対象に、社会生活や仕事のうえで役立つ知識や教養を身に付ける学習機会を提供し、社会で活躍する青年の増加を目指す。(体験活動の導入) | 市内在住・在学・在勤の青年(18歳～35歳程度) | 9月～ | 6回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | 金曜まなび塾 | 行政各課や市民との連携、協力により、各課、団体が実施する幅広い分野等、市政及び身近な問題への理解を深める学習機会を提供することにより、生涯学習の推進を図る。(時事問題をテーマにした回の設置) | 市内在住・在勤の一般成人 | 7月～ | 11回 | |
| | 市民企画運営講座1 | 中央生涯学習センターに登録している生涯学習コーディネーターが企画から実施まで運営全般を担う機会と場を提供する。(講座回数の増加) | 市内在住・在勤の一般成人 | 未定 | 6回 | |
| | 市民企画運営講座2 | | 市内在住・在勤の一般成人 | 未定 | 6回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | 子育て広場 | 子育ての学習やレクリエーションを通して親子のふれあいを深めるとともに、仲間づくりや情報交換の場として親子同士の交流を育む。また、子育て相談の機会を提供する。(父親も参加しやすい環境の整備) | 乳幼児(0～6歳)とその保護者 | 5月～ | 11回 | |
| | 親と子のワクワク体験講座 | 親が子どもと一緒に体験や活動することを通して、子どもの成長を感じ、理解を深めるとともに、他の親子との交流を図りながら、仲間づくりや情報交換する機会を提供する。(実験学習やアウトドア活動の導入) | 市内在住の小学生とその保護者 | 7月～ | 5回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。また、生涯学習サークルや地域活動団体などの活動成果を発表する場として、無料展示スペースを提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の支援を行う。魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | 地域応援講座 | 地域の実情に沿った講座を地域コミュニティセンターで開催することで、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけづくりとする。(講座回数の増加) | 所管する8地域内の一般成人 | 未定 | 16回 | |
| | 中央生涯学習センター文化祭 | 中央生涯学習センターを利用する文化団体の相互交流を図り、日ごろの学習成果を発表することにより、参加者のみでなく一般市民へ広く周知するとともに、生涯学習を推進する機会とする。また、担当の地域コミュニティセンターで活動する団体へも参加を促し、交流を図る。 | 中央生涯学習センター利用団体、地域コミュニティセンター利用団体及び一般市民 | 10月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域のひととともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようになるとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(2) 東生涯学習センター



所在地 宇都宮市中今泉3丁目5番
1号

電話番号 028-638-5782

ファクス 028-638-1171

開設 昭和53年 4月 1日

移転 平成22年 4月 1日

対象区域 今泉・峰・泉が丘・石井・
御幸・城東・陽東・御幸が
原小学校の各通学区域

構造 RC造3階建

敷地面積 9025.79 m²

延床面積 2822.46 m²

建築年月日 平成4年6月1日

駐車場台数 215台

(うち身障者用) 7台

ア 平成27年度 東生涯学習センター基本方針

生涯にわたり自分にあった学習活動が行えるよう東部地区における生涯学習の拠点として市民の学習活動の支援をするとともに、地域全体の社会教育やまちづくり等市民が学習成果を地域社会に還元できる事業を推進する。

- (ア) 多様な市民ニーズや様々な社会情勢，課題に対応した魅力ある事業の展開を図る。
- (イ) コーディネーターや地域ボランティアへの活動の機会・場の提供を行い，地域の自主的な学習と教育力の向上を目指す。

イ 平成27年度 東生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | |
|--------------------------|-------------------|--|--------------------------------------|-----------------|----------|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | |
| | 子ども国際理解サマースクール | 外国人と身近に接する参加型の学習を通して、「国際理解・協力」の力を養う。宇都宮大学国際学部との連携による事業。 | 市内在住の小学4年生～6年生(30名) | 8月 | 2回 |
| | 成人教育 | | | | |
| | ◎高齢者現代セミナー「東雲塾」 | 1. 高齢者の社会的能力を高め、明るく健康で充実した生活を送ることができるよう歴史や文化を学び、軽体操、レクリエーションなどを体験する。 2. 身近な地域の人材を活用することにより、地域に対する理解を深め、郷土愛の醸成を図る。 | 市内在住・在勤の65歳以上の方 | 通年 | 8回 |
| | ふれあい塾 | 生涯学習コーディネーターが企画・運営する講座。受講生同士の話し合いの場を設け、「聴く、見る学習の場」から話し合う学習の場を目指す。「住み慣れた地域で最期まで自分らしく生活するためには」「二宮尊徳」等のテーマについて、講義や意見交換を行う。 | 市内在住・在勤の20歳以上の方 | 通年 | 8回 |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | |
| | ◎すくすく子育て | 乳幼児の大切な時期に親子のスキンシップを図ると共に、子育ての学習やレクリエーションを通して、受講生同士の交流を深める。(リズム・キッズダンス等) また、子育ての悩み、相談や、子育てに関する知識を身に付ける機会を提供する。(対象を年齢で分けるなど、多数の参加者への対応) | 1～2歳児とその保護者(40組) 2～3歳児とその保護者(40組) | 5月～9月 10月～2月 | 5回 6回 |
| | 親子でDoing(親子チャレンジ) | 親子のスキンシップや会話、工作や体験を通して、ものづくりについて学ぶ。また、参加者相互の情報交換や仲間づくり等の交流の機会をつくる。 | 小学3年生とその保護者(50名) | 5月～8月 | 6回 |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、収集した生涯学習関連情報を市民に提供していく。 | 全市民 | 通年 | 随時 |
| | 学習相談・地域支援 | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | |
| | 東生涯学習センター文化祭 | 東生涯学習センター及び地域コミュニティセンター登録団体に学習成果発表の場を提供することにより、学習者同士の親睦を図り、仲間づくりを進め、さらに質の高い生涯学習活動を推進する。 | 東生涯学習センター登録団体及び一般(地域住民) | 10月 | 1回 |
| | 成人式 | 新成人が地域のひととともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 |

(3) 西生涯学習センター



所在地 宇都宮市西一の沢町 17 番
32 号
電話番号 028-648-7480
ファクス 028-648-8241
開設 昭和 59 年 4 月 1 日
対象区域 富士見・桜小学校の各通学
区域及び明保小学校通学
区域のうち鶴田町の区域
構造 RC 造 2 階建
敷地面積 2821.81 m²
延床面積 758.52 m²
建築年月日 昭和 58 年 12 月 10 日
駐車場台数 32 台
(うち身障者用) 1 台

ア 平成 27 年度 西生涯学習センター基本方針

平成 27 年度生涯学習センター事業運営の考え方にに基づき、市民一人ひとりが自己
野の自立と社会の一員であることを意識し、社会参加への意欲を高め、学んだ成果
を地域につなぐきっかけとなるよう、個人の要望と社会の要請に応える事業のバラ
ンスに配慮しながら、地域特性を踏まえた多様な事業を推進する。

- (ア) 人間力の向上に資するため、社会生活において、市民が心豊かに生活できるよ
うな趣味・教養的講座や個人の自立を促すための生活に役立つ講座・青少年育成講座
を実施する。
- (イ) 家庭と地域の教育力の向上に資するため、地域団体等との連携を図り、子育てへ
の保護者の気づきを促しながら、知識や技術を習得でき、親子の触れ合いや親同士
の交流の機会を充実させた講座を実施する。
- (ウ) 地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進を図るため、地域の人的資源
(講師) と共に、地域に出かけることなどを通し、地域の持つ魅力や課題に気付く
きっかけとする講座を実施する。また、学んだ人材が学習成果や経験を活かせるよ
うな機会と場を提供する。

イ 平成27年度 西生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|--|--|-----------------------------------|---------|-----|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | |
| | 夏休みチャレンジ教室 | 夏休みを利用して様々な学習や体験を通じて、創造性や思考力を培うとともに、仲間との交流を深める。 | 小学校4年生～6年生 (市内小学校在学) | 7月～8月 | 5回 |
| | 成人教育 | | | | |
| | シニアいきいきアンチエイジング (市民運営講座) | いつまでも元気で、脳と体と心に若さを保ち、毎日をいきいきと過ごすための実習・学習を行うとともに受講者同士の交流を深める。 | 50歳以上の方 (市内在住・通勤) | 5月～12月 | 8回 |
| | 西薬アカデミー | 生きがい学習や健康についてなど現代の生活に必要な知識の向上に関する学習を行なうとともに、受講者同士の交流を深める。 | 成人 (市内在住・通勤) | 6月～2月 | 10回 |
| | 宇都宮再発見！ ～故郷ゆかりの文学(詩歌)から学ぶ宮の魅力～ | 宇都宮にゆかりある人物の文学(和歌・短歌・川柳・童謡など)を学習・実習しながら故郷や地域の歴史・文化の魅力にあらためて気づくことに繋げるために実施する。 | 成人 (市内在住・通勤) | 6月～11月 | 6回 |
| ◎ナルホド！知っ得！ くらしの講座 | 急激な高齢化の進展の影響による地域社会における身近な課題に対する解決方法を探り、日常生活全般に役立つ知識や技術を習得することにより、より心豊かで充実した生活を送ることができるために実施する。 | 成人 (市内在住・通勤) | 6月～12月 | 6回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | |
| | すくすく子育て講座 | 子育ての学習やレクリエーションを通して親子のふれあいを深め、仲間づくりや子育ての情報交換の場となるよう子育てを支援する。 | 1歳～3歳の幼児 とその保護者 (市内在住) | 6月～1月 | 7回 |
| | 親子でGO！ | 様々な体験を通し親子の絆を深めながら、子供の心を育てるために役立つ知識や技術を学習・習得することにより家庭の教育力向上を図る。 | 小学校1年生～3年生 とその保護者 (市内在住・通学) | 5月～9月 | 5回 |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、収集した生涯学習関連情報を市民に提供していく。 | 全市民 | 通年 | 随時 |
| | 学習相談・地域支援 | | | | |
| 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | |
| | 西生涯学習センター文化祭 | 西生涯学習センター利用者などの各種団体や地域・学校・企業が一体となって事業を展開することにより、特色ある地域文化の向上ならびに生涯学習の推進、地域住民の連帯意識の高揚を図ることを目的とする。 | 西生涯学習センター利用者及び一般市民 | 10月～11月 | 1回 |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持てるようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 |

(4) 南生涯学習センター



所在地 宇都宮市江曾島2丁目4番23号
電話番号 028-645-0006
ファクス 028-659-9953

開設 昭和46年 4月 1日
対象区域 陽南・陽光・緑が丘小学校の各
通学区域
五代・新田・姿川第一
小学校の各通学区域の一部

構造 RC造2階建
敷地面積 4266.74 m²
延床面積 1013.17 m²
建築年月日 平成9年9月10日
駐車場台数 67台
(うち身障者用) 2台

ア 平成27年度 南生涯学習センター基本方針

「平成27年度生涯学習センター事業運営の考え方」に基づき、地域住民の生涯学習ニーズに応じた学習支援や地域の学習拠点としての充実を図る。

また、自立した個人の養成や高齢者の身近な学習の場として、生きがい創出につながる講座など豊かな人生を送るための多様な学習の提供に努めるとともに、地域の課題解決に向けた活動を支援する事業に取り組む。

また、センター利用者やボランティアの活動を支援し、学習成果や経験を活かせるような機会と場の提供に努める。

イ 平成27年度 南生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|------------------|--|---|-------------------------|--------|----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 母の日・父の日応援講座(新規) | 家族でのイベントのきっかけづくりや親子での実習体験を通して、家族の絆を深めるとともに、両親への感謝の気持ちや家族を大切に思う子どもの心を育む。 | 小学校とその親 | 5・6月 | 2回 | |
| | 夏祭り応援講座(新規) | 日本の文化を再認識し、伝統を大切にすることや季節を楽しむ心を育み、情緒ある心豊かな青少年の育成を図る。 | 小学校5年生～高校生 | 7月 | 1回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | シニアセミナー南悠塾 | 日常生活で役立つ知識を身につけ、生きがいをもった生き方を学び、健康でこころ豊かな生活を送り、人としての尊厳を認め合い自立して生きていく力を養う。 | 60歳以上の市民 60名 | 6～12月 | 7回 | |
| | 女子力アップ応援講座(新規) | 家事や子育てで忙しい女性が自分自身を見直し、心と体のバランスを整え、いざという豊かな生活を送るうえでの情報・知識・体験を提供する。 | 30歳代～50歳代までの女性 15名 | 8月～9月 | 4回 | |
| | 市民運営講座～宇都宮ゆかりの小倉百人一首～(新規) | 百人一首の成立ちとの宇都宮の関わりを学び、知識を深め、かるた取りを体験し、小倉百人一首への理解を深める。 | 20歳以上の市民 30名 | 6月～8月 | 3回 | |
| | 市民運営講座～男の料理教室Ⅷ～ | 男性の料理を通じた、仲間づくりと生涯学習への動機づけを図る。 | 成人男性 25名 | 10月～2月 | 5回 | |
| | ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | |
| すくすく子育て応援講座 | | ふれあいやものづくりを通して親子の絆を深め、生き生きとした親子関係を育み、子育て世代の仲間づくりのきっかけとする。 | 2歳～3歳の子どもの親 15組 | 8月～10月 | 5回 | |
| 初めての育児応援講座 | | 初めての子どもを持つ親を対象に、親子の触れ合いを深めて、同じ立場にいる親同士が育児の悩みや楽しさを分かち合いながら仲間づくりやお互いの交流を図る。 | 2歳までの初めての子どもとその親 15組 | 6月～7月 | 3回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | 全市民 | 通年 | 随時 | | |

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | |
|--------------------------|------------------|---|---------------------|--------------|----|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | |
| | ◎絆再生塾 | 地域のかや絆の大切さに気づくことを目的として、各々の持つ能力や経験を活かし、地域に根ざした活動を行うきっかけ作りや実践力を養う。 | 20歳以上の市民 15名 | 8月～12月 | 5回 |
| | 図書ボランティア養成講座(新規) | 本の読みきかせや図書の整理を学ぶほか、本を通じた子供との交流などを体験し、図書ボランティアとして本の魅力や読書の楽しさを伝えられる人材を育成する。 | 20歳以上の市民 10名 | 11月～12月 | 3回 |
| | 南生涯学習センター文化祭 | 地域住民やセンター利用者が一致協力して、関連事業を展開することにより、特色ある地域文化の発展並びに生涯学習の理解と推進、地域住民の連帯意識の向上を図る。 | 南生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 11月8, 9, 15日 | 1回 |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月10日 | 1日 |

(5) 北生涯学習センター



所在地 宇都宮市若草3丁目12番
25号

電話番号 028-621-7745

ファクス 028-622-7093

開設 昭和57年4月1日

対象区域 戸祭・細谷・宝木・西が岡・
上戸祭小学校の各通学区

構造 RC造2階建

敷地面積 1616.57 m²

延床面積 756.00 m²

建築年月日 昭和56年12月10日

駐車場台数 41台

(うち身障者用) 1台

ア 平成27年度 北生涯学習センター基本方針

急激に社会環境が変化する現代において、学びを通して豊かな人間性を育むとともに、人と人との絆を深め、住みよい地域社会づくりを推進するため、人間力の向上や家庭・地域の教育力の向上に資する事業に取り組んでいく。

(ア) 人間力の向上に資するため、学ぶことの喜びや仲間づくりにつなげるための趣味・教養的な講座や社会の要請に対応した講座を開催し、個人の資質の向上を図る。

(イ) 家庭と地域の教育力の向上に資するため、「人づくり」の基本となる家庭教育の充実を支援する講座を開催するとともに、地域ぐるみで子どもを育てる意識の醸成を図るため、地域を構成する各主体との一層の連携協力を図る。

(ウ) 地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進に資するため、青少年リーダーの育成や地域学等の講座を開催するとともに、学んだ成果や経験を生かせるような場の提供に努め、地域の人的資源の育成を図る。

イ 平成27年度 北生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度新規事業

| 重点項目 | 事業区分 | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|--|---|------------------------------------|---------|-----|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | |
| | 青少年リーダー養成講座 | 企業等の活動を学ぶことを通して職業観を養うとともに、協調性・たくましさ・思いやりのある心豊かな人間性や社会性を育み、次世代を担う地域のリーダーとしての資質を養う。 | 小学4年～6年 | 8月 | 1回 |
| | 子ども映画鑑賞と昔遊び体験講座 | 映像からの学びとともに、普段体験できない昔遊びを体験することで子供たちの情操教育を図る。さらに、センターを地域の身近な施設として感じてもらうきっかけとする。 | 小学1年～3年 | 7月 | 1回 |
| | 成人教育 | | | | |
| | 北洲塾 | 環境・健康・地域・生活等について知識を深め、学んだことを家庭や地域に生かすとともに、地域社会への参加の輪を広げていく。 | 一般成人 | 5月～11月 | 10回 |
| | 市民運営講座「ランチでコミュニケーション」 | 子育て中のママが、簡単でおしゃれな料理を作り、食事や会話を楽しむことでコミュニケーション能力を養うとともに、仲間づくりのきっかけとする。 | 第1回:乳幼児を持つママ 第2回:一般成人 第3回:未定 | 10月～11月 | 3回 |
| | 聴いて読む名作PART5 | 文学作品を講師の朗読で鑑賞し、作品をより深く味わうとともに、心豊かな人生につながるよう新たな感じ方・捉え方を学ぶ。 | 一般成人 | 10月～11月 | 3回 |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | |
| | ◎新・家族応援講座 | 乳幼児の家庭の教育の在り方について、専門的知識を有する講師の指導を受けながら学ぶ。主として子供の発達課題と生活経験、小学校入学前までに家庭で行わなければならない躾や教育について学ぶ。 | 未就学児を持つ親(父母単独参加も可) | 6月～7月 | 5回 |
| | 親子でチャレンジ | 親子で行うゲームや料理を通して主体的に行動する力を育む。また、参加者同士のふれあい・親子の絆を深める。 | 小学1年～3年と親 | 7月～8月 | 3回 |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 |
| | 学習相談・地域支援 | | | | |
| 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | |
| | ◎地域を学ぶ「宝木・細谷・戸祭地区のあゆみを知ろう」 | 生活する最も身近な地域の歴史、地理、自然、文化等の魅力を学び、地域の現状を理解するとともに課題を認識し、その地域課題に対して何らかの一步を踏み出せるきっかけとする。 | 一般成人 | 9月～11月 | 4回 |
| | 北生涯学習センター文化祭 | センター利用団体及び管内地域で活動するグループの学習成果の発表をする。 | 北生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 9月 | 1回 |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 |

(6) 平石生涯学習センター



所在地 宇都宮市下平出町 158 番地 1
電話番号 028-660-1964
ファクス 028-689-2814

開設 昭和 25 年 1 月 26 日
施設複合化 平成 14 年 6 月 24 日
対象区域 平石中央・平石北小学校
の各通学区域

構造 RC 造 2 階建

敷地面積 6984.00 m²

延床面積 1486.42 m²

建築年月日 平成 14 年 6 月 24 日

駐車場台数 130 台

(うち身障者用) 3 台

ア 平成 27 年度 平石生涯学習センター基本方針

まちづくり協議会をはじめとする地域の方々と連携し、様々な体験や子どもから高齢者に至るまでの幅広い世代間の交流を通して、ハード・ソフト両面における地域資源の再発見、地域活動への関心の喚起、リーダーとなるべき地域人材の育成などにつなげていく。

さらに、保健福祉の拠点地区としての利点を活かし、まちづくりと保健福祉の 2 つの側面を融合した地域における子育て支援事業などを、石井・陽東地区までも含めて展開していく。

イ 平成27年度 平石生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|---------------|---|----------------------|--------|-----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 少年ふるさと教室 | 様々な体験活動を通して、仲間との関わりを深め、生きる力を育むとともに、地域資源の発見や異世代との交流を通して、リーダーとしての資質向上を図る。(地区内を対象のため、児童数が少なく参加者の確保が難しいため講座回数を減少) | 地区内の小学生 | 7月～11月 | 2回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | 大人の教養講座 | 地域の人材育成は、重要な課題のひとつである。趣味や教養を学ぶ中から人との交流や、これまで培った知識や経験を生かしながら、地域で生き生きと過ごす地域デビューのきっかけとする。 | 地区内に居住する成人 | 6月～7月 | 3回 | |
| | 高齢者「友遊教室」 | 高齢者にふさわしい講話、趣味や教養を身につけるための学習、異世代間交流などの機会を創出する。(ニーズにあった講座内容の検討) | 地区内に居住する60歳以上の成人 | 5月～2月 | 9回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | ◎親子の広場「はぐはぐ」 | 子育て中の親とその子どもを対象に「つどいの場」を週1回開催、サポーターが話し相手になる。月1回子育て支援事業を実施する。 | 地区内の乳幼児とその親 | 毎週 | 40回 | |
| | ◎親子ふれあい講座 | 連続した講座を開催することにより、母親相互の交流を図るとともに、親子が一緒に遊びや体操を行なうことで幼児期に必要な親子の関わり方を学ぶ。 | 地区内の乳幼児とその親 | 2月～3月 | 3回 | |
| | 家庭教育セミナー | 成長著しい小学生の子を持つ親を対象として、子どもの「生きる力」を育むための知識や技術を身につける。 | 地区内小学生の親、親子 | 6月～10月 | 3回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | 高齢者指導者研修会 | 地域リーダーとしての資質の向上や後進の指導者育成を行う。 | 地区内の高齢者 | 5月 | 1回 | |
| | 女性指導者研修会 | 地域リーダーとしての資質の向上やまちづくり活動の推進を図る。 | 地区内の女性 | 6月 | 1回 | |
| | 平石地区文化祭 | 小学生の作品展示、及び平石生涯学習センター利用団体による学習成果の発表。また、参加することにより、地域住民との連帯意識高揚を図る。 | 平石生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 11月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(7) 清原生涯学習センター



所在地 宇都宮市清原工業団地 15
番地 4
電話番号 028-667-5696
ファクス 028-667-9062

開設 昭和26年 8月 1日
施設複合化 平成 3年 4月 1日
対象区域 清原中央・清原南・清原北・
清原東小学校の各通学区域

構造 RC造2階建
敷地面積 5076.82 m²
延床面積 1488.44 m²
建築年月日 平成3年4月1日
駐車場台数 46台
(うち身障者用) 2台

ア 平成27年度 清原生涯学習センター基本方針

少子高齢化や核家族化の進行などにより、住民のコミュニティ意識や連帯感の希薄化など、人づくりやまちづくりにおける課題が顕在化し、それらに対応した学習機会の提供が求められる。

清原地区においても、ゆいの杜エリアにおいては、テクノポリスの開発が進み、若年層を中心に他都市からの転入者が増加していることから、子育て支援や地域との絆づくりを迅速かつ的確・着実に推進する必要がある。

また一方では、既存団地などの住民の高齢化も進んでいることから、地域の特性や各世代における住民の学習ニーズを的確に把握し、地域団体や地元大学等との連携など地区内の社会資源を活用して、家庭や地域の教育力の向上、地域課題の解決に資する事業の充実を図る。

イ 平成27年度 清原生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|-----------------|--|--|-------|----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 地域体験キャンプ | 青少年育成協議会、地域学校園協議会、センター共催による実行委員会を組織し、地区内の青少年育成に関わる指導の横断的な連携により事業を実施する。 参加者は、キャンプを体験することで、年齢・学区を越えた仲間との出会い、地域の大人との出会い、地域にある資源への気づきなどを通じて、我がまち「清原」を体感し、「郷土愛」、「仲間の大切さ」や「出来る自分」を認識することで、子どもたちのチャレンジ精神や郷土に対する誇りと愛着を育む。 | 地区内小学生 | 8月 | 1回 | |
| | チャレンジ遊び塾 | 子どもを対象に日常生活や学校では体験できない「遊び」を通じて、自然のすばらしさ、学ぶ楽しさを体験してもらうことで、豊かな心やチャレンジ精神を育む。 | 地区内の小学生とその保護者 | 7月～2月 | 4回 | |
| | 企業体験教室 | 小学生を対象に清原工業団地の企業と連携した工場見学会等を実施し、「日本のものづくり」の偉大さを感じてもらうとともに、日本を代表する企業が地域にあることの「誇り」を持つことで地域の将来を担う子どもの地域愛を育て、地域づくりの推進につなげる。 | 地区内小学生 | 8月 | 1回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | 出前講座 | 地域住民の多様な学習ニーズや地域課題解決のための学習機会を提供することにより、地域づくりに対する関心や参加意識の向上を図る。 | 地区内住民 | 随時 | 8回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | ◎ふれあい子育て広場 | 保護者の家庭における教育力の向上を図るため、子育てについての知識や技術を身につけ、親子のスキンシップを深めることにより、生き生きとした親子関係を育み、また、交流する親同士の子育てネットワーク作りの推進を図る。 | 0歳～未就学児と保護者 | 6月～2月 | 8回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどに取り組みながら、相談者のニーズに応じた学習活動を実施する。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | 地域リーダー研修会 | 地域のまちづくり活動を推進するため、地域活動や課題解決のための知識・情報を提供することにより、地域リーダーの資質向上を図る。 | 清原地区内の指導者 自治会長、自治公民館長、地区まちづくり組織の役員等 | 2月 | 1回 | |
| | ◎青少年教育・育成指導者研修会 | 子どもを抱える若年単世帯の増加に対応するため、地域で青少年の教育及び育成に携わっている住民を対象に、地域ぐるみで子どもを育てる意識を醸成し、指導者の資質を向上させるとともに、地域を構成する各団体が、より一層の連携・協力を図り、地域づくりを推進する。 | 地区内青少年育成関係者 | 6月 | 2回 | |
| | 清原地区文化祭 | 清原生涯学習センターの利用団体が、日ごろの成果を発表することにより、文化活動の向上と生涯学習を推進する機会とする。 | 清原生涯学習センター 利用団体 | 10月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域のひとともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(8) 横川生涯学習センター



所在地 宇都宮市屋板町 576 番地 1
電話番号 028-656-6452
ファクス 028-656-7702

開設 昭和 29 年 9 月 25 日
施設複合化 平成 18 年 3 月 20 日
対象区域 横川中央・横川東・横川西
小学校の各通学区域と瑞穂
台小学校通学区域のうち、さ
るやま町及び下栗町の区域

構造 RC 造 2 階建
敷地面積 7980.61 m²
延床面積 1498.69 m²
建築年月日 平成 18 年 3 月 20 日
駐車場台数 111 台
(うち身障者用) 3 台

ア 平成 27 年度 横川生涯学習センター基本方針

横川地区は、地区の中心部が農村地域、周辺部（東部・西部）が住宅地域となっている。また、市中心部にも比較的近いことから、近年は人口の増加が著しく、特に「新住民」といわれる若年層（20～39歳）の割合が本市の平均と比べ高くなっている。このような状況を踏まえ、平成 27 年度においては、以下の考え方にに基づき、事業を展開していく。

(ア) 地域の魅力を発信する事業

「新住民」といわれる若年層が増加している状況を踏まえ、横川地区について学ぶ講座を実施し、住民間の連帯感や郷土愛の醸成に資する。

(イ) 子育て（家庭・地域の教育力の向上）に関する事業

子どもの「健やかな体」や「豊かな心」を育むとともに、併せて親が子育ての知識や技術を見に付けるための講座を実施することにより、地域の教育力の向上を図る。

(ウ) 超高齢化社会に対応した事業

地域の高齢者が、健康で生きがいのある豊かな生活を送ることができるよう、講座を実施する。

(エ) 地域社会を支える人材育成に資する事業

各種地域団体の活動が、自立的に行われるよう、事務処理能力を高める講座を実施し、地域コミュニティ（地域力）の向上に資する。

イ 平成27年度 横川生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|--------------------|--|-------------------------------|-------|----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 夏休みチャレンジ教室 | ものづくり体験学習を通し仲間づくりや社会性を身につけ、地域内児童の豊かな情緒を育む。 | 地区内の小学生 | 8月 | 2回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | パソコン講座 | 地域力向上に向け、高齢者のパソコン初心者を対象に、地域住民の交流を深めながら技術を習得させることで、まちづくりや地域活動の担い手となる人材育成を図る。 (地域課題への対応) | 地区内の高齢者 | 7月～9月 | 3回 | |
| | 高齢者教室(ことぶき塾) | 日常生活に関する社会問題や健康維持法、地域の魅力を再発見する館外学習講座など行うことにより、横川地区の高齢者の健康で豊かな生活を支援する。 | 地区内の高齢者 | 6月～1月 | 6回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | 子育て広場 | 乳幼児期の大切な時期に親子のスキンシップを図るとともに、ボール遊びやリズム体操、レクリエーションを通して、体力・情緒を豊かに育むとともに、地域の同じ子育て時期の仲間ができることで、子育ての支援を図る。(新たに体操教室の開催) | 地区内の幼児と保護者 | 6月～9月 | 6回 | |
| | 親子で絵本とわらべうた | 乳幼児期における家庭内での読み聞かせは、子どもの読書習慣に大きく影響する。読み聞かせの手法や本選びを学び、わらべうたによる手遊び・歌遊びで子どもとのスキンシップを図るとともに、親同士の交流も支援する。 | 地区内の乳幼児と保護者 | 6月～7月 | 3回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | ◎まるごと横川 | 地域学講座として地元横川の魅力を紹介するとともに、地域の課題についても検討することで、地域に対する理解や愛着を深め、地域づくりに対する意識の醸成を図る。(地域カルテ及び地域ビジョンの策定支援) | 地域ビジョン検討部会委員及び地区内の一般成人 | 6月～8月 | 3回 | |
| | 横川ふれあいまつり(文化祭・農業祭) | 横川生涯学習センター利用団体や地区内の小中学校及び各種団体が一体となり、特色ある地域文化の向上、農業の振興、生涯学習の推進、主体的な地域づくりの推進、地域住民の連帯意識の高揚を図る。 | 地区内の小中学生、横川生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 11月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域のひとともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つてるとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(9) 瑞穂野生涯学習センター



| | |
|----------|---|
| 所在地 | 宇都宮市下桑島町 103 番地 1 |
| 電話番号 | 028-656-4250 |
| ファクス | 028-656-7704 |
| 開設 | 昭和 26 年 4 月 1 日 |
| 施設複合化 | 平成 4 年 4 月 13 日 |
| 対象区域 | 瑞穂野北・瑞穂野南小学校の 各通学区域と瑞穂台小学校 通学区域のうちさるやま町 及び下栗町を除く通学区域 |
| 構造 | RC 造 2 階建 |
| 敷地面積 | 6398.36 m ² |
| 延床面積 | 1455.29 m ² |
| 建築年月日 | 平成 4 年 4 月 13 日 |
| 駐車場台数 | 90 台 |
| (うち身障者用) | 3 台 |

ア 平成 27 年度 瑞穂野生涯学習センター基本方針

瑞穂野地区においては、まちづくり協議会を組織する各種団体を中心となり活発な活動が展開されている。また、新たな団地が形成されたことで若い世代の人口増加により、地域の発展が期待される。

しかしながら、少子高齢化社会を反映して従来からの住民の高齢化や地域コミュニティの希薄化なども顕在化し、人間生活の核である家庭の重要性が一層高まってきている。

こうしたことから、幼児から高齢者までの幅広い世代を対象に、地域住民が健康で生き生きとした生活ができるよう、学んだ結果を地域活動に結びつくきっかけになるような事業の充実と地域課題解決に向けた講座を展開する。

イ 平成27年度 瑞穂野生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業の概要 | | | | |
|--------------------------|---|--|------------------|--------|----|
| | 事業区分 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | |
| | 少年ふるさと教室 | 体験学習を通し、地域の連帯感、郷土愛の育み、リーダー養成を図る。 | 小学生 | 5月～2月 | 3回 |
| | 成人教育 | | | | |
| | ◎自分発見講座 | 新しい自分に気づき、自身を磨きながら仲間づくりをし、地域デビューのきっかけをつくる。 | 一般成人及び高齢者 | 7月～10月 | 4回 |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | |
| | ◎なかよし親子の広場 | 幼児期の成長に必要な親子遊びを体験し、子育てに必要な知識の習得と子育ての不安を解消し、地域の子育て支援機能の充実を図る。(募集方法の変更) | 2～3歳児と保護者 | 6月 | 3回 |
| | ◎親子チャレンジ教室 | 家庭で子どものしつけや教育を行うために必要な考え方や育て方について、専門家や地域のボランティアによる指導を受け学習の場とする。 親子でいろいろなことにチャレンジしながら、受講生同士の交流を通して、気軽に話し合える場を設け子育ての一助とする。 (講座周知の強化) | 小学生と保護者 | 7月～12月 | 5回 |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 |
| | 学習相談・地域支援 | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | |
| | 文化団体指導者研修 | 地域の実情に即応した視察を実施し、各種団体の活動を活性化させ、仲間作りや相互交流と情報交換と併せて地域づくりのリーダーとしての向上を図る。 | 地区内各種団体 | 9月 | 1回 |
| | 【みずほのフェスティバル】 瑞穂野生涯学習センター文化祭(同時開催:農業祭・福祉まつり) | センター利用団体の学習成果の発表、小中学生の作品展示及び地域住民の連帯意識の高揚を図る。 | 地区内一般成人・センター利用団体 | 11月 | 1回 |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げるにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 |

(10) 城山生涯学習センター



所在地 宇都宮市大谷町 1059 番地 5
電話番号 028-652-4794
ファクス 028-652-5570

開設 昭和 24 年 10 月 17 日
施設複合化 平成 6 年 4 月 1 日
対象区域 明保・城山中央・城山西・
城山東小学校の各通学区域

構造 RC 造 2 階建
敷地面積 6158.30 m²
延床面積 1649.72 m²
建築年月日 平成 6 年 4 月 1 日
駐車場台数 60 台
(うち身障者用) 2 台

ア 平成 27 年度 城山生涯学習センター基本方針

「うつのみや地域教育プラン」における基本理念の実現のために、個人の興味や関心による学習活動への支援を継続しつつ、平成 27 年度生涯学習センター事業運営の考え方に基つき、人間力の向上、家庭・地域の教育力の向上、地域社会を支える人材育成につながる講座・事業に取り組む。

イ 平成27年度 城山生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 事業名 | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|----------------|---|----------------------|-----------|-----|
| | | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | |
| | 親子でにこにこクッキング | 命の源である食に対する興味や健康への関心を高め、親子の絆を深めるため料理実習を行う。また、地場産の食材を活用することにより、地域への関心を喚起し、季節を感じる豊かな心を育む。(屋外料理体験を設け、異年齢との交流ならびに受講者同士の協力体験を促進する。) | 小学生及び親 | 7月・9月・11月 | 3回 |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | |
| | 子育てママのいきいきセミナー | 子育てする母親が、家庭において必要とする子育て環境や教育に関する知識・技術を学ぶ講座を実施し、講座における受講者同士の交流を設けて、子を持つ親同士のネットワーク作りを促進する。(社会的問題である子どものいじめについての講座を設け、いじめへの認識を深める。) | 小中学生の保護者 | 6月～11月 | 4回 |
| | ◎ともそだち広場 | 子育ての知識や技術を学び、家庭教育力の向上や健全な子育て、親同士のネットワークの構築のため、季節あそびやしつけ、リトミックの講座などを行い、親子の育ちを支援する。(受講者のアンケート結果に基づき、リトミック等のカラダあそびの充実を図る。また、講座を通して感性やリズム感ならびに運動能力の機能を高める。) | 概ね3歳児以下の乳幼児とその保護者 | 月1回 | 12回 |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 |
| | 学習相談・地域支援 | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | |
| | ヒト・マチづくり講座 | 地域におけるまちづくりの課題を抽出し、解決の糸口となるようなきっかけづくりを行う。また、実践的な活動を通して、総体的にまちづくり意識の高揚を図る。 | 地区内の成人 | 6・11月 | 2回 |
| | 地域学講座 | 地域に目を向け、地域のもつ魅力や課題に気づききっかけづくりを行い、郷土愛の醸成、住民意識の醸成を図る。 | 地区内の成人 | 7月～9月 | 3回 |
| | 城山生涯学習センター文化祭 | 地域住民の自主性と創意によるコミュニティ活動を促進し、特色ある地域文化の向上発展と生涯学習の推進、地域住民の連帯意識の高揚を図る。 | 城山生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 11月 | 1回 |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようになるとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 |

(11) 国本生涯学習センター



所在地 宇都宮市宝木本町 1868 番地 1

電話番号 028-665-2942

ファクス 028-665-7225

開設 昭和 25 年 7 月 20 日

施設複合化 平成 12 年 10 月 1 日

対象区域 国本中央・国本西・
晃宝小学校の各通学区域

構造 RC 造 2 階建

敷地面積 6585.03 m²

延床面積 1494.90 m²

建築年月日 平成 12 年 10 月 1 日

駐車場台数 100 台

(うち身障者用) 3 台

ア 平成 27 年度 国本生涯学習センター基本方針

「平成 27 年度生涯学習センター事業運営の考え方」に基づき、主に地域人材と地域資源を活かして、「地域の人材づくり」と「絆づくり」を目的とした事業に取り組む。

- (ア) 社会変化や地域課題に即応できる人間力の向上と、地区づくりに資する事業の充実。
- (イ) 地域の人材と資源を活用し、市民ニーズに対応した事業の実施。
- (ウ) 親子や地域の人同士の絆を深めながら、仲間づくりなど参加交流機会を図る事業の実施。

イ 平成27年度 国本生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|---------------|---|----------------------|--------|----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | くにもとyou遊club | 地域人材が講師を務め、地域の隠れた資源を活用した体験学習(遊び)を通して、親子の絆を深め合い、地域の魅力の再発見につなげるとともに、講師等の人材のまちづくり事業への登用・活用を図る。(地域学に関する内容の充実) | 地区内在住の児童及び保護者 | 8月、12月 | 2回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | びびっと！レディース教室 | 女性として、より生き生きと(ビビッド)輝き、健康で豊かな生活を営むため、自己を磨き、新しい自分を発見し、まちづくり事業への参加、活用など新たな行動に繋げるきっかけを提供する。 | 地区内在住の一般成人女性 | 7月～1月 | 4回 | |
| | 生き生き健康教室 | 「心身の健康」をテーマに、いつまでも元気で若々しく生き生きとした生活を営むために、自分自身の健康を客観的に見つめながら、必要な知識を身につける。また、参加者同士のふれあいの機会を提供することで、地域の交流の輪を広げる。 | 地区内在住の一般成人 | 6月～7月 | 5回 | |
| | ◎10倍楽しむ国本塾 | 地域人材を講師に、地域の貴重な歴史・文化を現地に出かけ、触れることで10倍楽しめるように紹介しながら、地域情報の共有を図り、地域再発見と地域課題を考える機会を提供する。また、まちづくり事業への参画意識の醸成も併せて目指す。 | 地区内在住の一般成人 | 2月頃 | 3回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | 親子ワクワク教室 | 親子で様々な体験活動を通して、子どもとふれあい絆を深めるとともに、親として子どもの心の成長や子育てに役立つ知識や技術を学習することで、家庭内での子どもに対する教育力の向上や人間形成に役立てる。 | 地区内在住の未就園児とその保護者 | 6月～12月 | 7回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | 国本生涯学習センター園化祭 | センター利用団体の学習成果の発表の場を提供することで、文化活動の向上と生涯学習を推進する。 | 国本生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 11月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようになるとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(12) 富屋生涯学習センター



所在地 宇都宮市徳次郎町 80 番地 2
電話番号 028-665-1663
ファクス 028-665-7226

開設 昭和 24 年 12 月 1 日
施設複合化 平成 9 年 4 月 1 日
対象区域 富屋小学校通学区域
構造 RC 造 2 階建
敷地面積 7515.86 m²
延床面積 1498.05 m²
建築年月日 平成 9 年 4 月 1 日
駐車場台数 94 台
(うち身障者用) 2 台

ア 平成 27 年度 富屋生涯学習センター基本方針

富屋地区においては、まちづくり連絡協議会を核とした地域主体の事業展開がなされており、これを継続するため、今後も、「住民主体のまちづくり」を推進していくための人材育成が、一層求められている。

こうしたことから、平成 27 年度においても、住民自らが地域に目を向け、地域の持つ魅力や課題に気づく契機とするための地域学講座への参画を通して、地域社会を支える「人づくり」を推進するため、生涯学習事業の充実に努める。

また、当センターが保健福祉の拠点であるという特徴を活かし、まちづくり支援グループと保健福祉グループが連携を図り、特色ある事業を展開していく。

イ 平成27年度 富屋生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業の概要 | | | | | |
|--------------------------|---------------|--|---|----------------------|--------|----|
| | 事業区分 | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | | 少年ふるさと教室 | 子どもたちの自主活動を促進させるとともに、お互いの親睦を図り、団体活動を通して責任と協力の大切さを体得させ、併せて伝統文化や自然に関する学習機会を提供し、健全育成に資する。 | 富屋小学校児童等 | 7月～1月 | 7回 |
| | | 考える力アップ講座 | 新しい面白さを発見できる実験やものづくりを通して、子どもたちが自ら考え、身の回りにあふれる科学に対する好奇心を高める。(講座回数の見直し) | 富屋小学校児童等 | 6月～11月 | 2回 |
| | 成人教育 | | | | | |
| | | 高齢者教室 | 高齢者相互の親睦とふれあいを広め、様々な課題に取り組むことにより教養を高める。(講座回数の見直し) | 地区内の高齢者 | 6月～2月 | 3回 |
| | 健康づくりハイキング | ハイキングを通じて健康増進と地域住民の交流を図る。 | 地区在住者 | 5月 | 1回 | |
| | ◎地域学講座 | 「住民主体のまちづくり」をさらに推進するため、地域住民が専門家の講義やグループワークを通して、自分の住む地域の特徴を理解し、地域の魅力や課題に気づくとともに、中長期的な地域のあるべき姿を考える契機とする。 | 地区内の成人 | 未定 | 2回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | | 親子ふれあい教室「富屋ママたち広場」 | 乳幼児とその保護者を対象に、遊びや体験を通して、親子のふれあいを深めるとともに、親同士のネットワークを促進し、家庭・地域における子育て環境の支援を図る。 | 地区内の就園前の乳幼児とその保護者 | 6月～12月 | 6回 |
| | | ゆるりん子育て親育ち講座 | 就学前の子どもを持つ保護者が、子育ての悩みに関するグループワークなど子育てに関する情報交換を行なうことを通して、自分に合った子育てを考える機会を持つことを体験するとともに、親同士のネットワーク作りを促進し、家庭や地域における教育力の向上を図るきっかけとする。 | 就学前の子どもを持つ保護者 | 6月～7月 | 3回 |
| | 家庭教育学級 | 家庭における子どもの教育のために必要な考え方や育て方についての知識や技術を学習する。 | 地区内の児童保護者と関心のある成人 | 未定 | 3回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | | とみや女性学 | 富屋地区の女性への教養、学習の場の提供を通し、地域のネットワークを広げるとともに、富屋地区のブランドを発掘、発信していくリーダー的な人材を養成し、女性の力で地域力アップを図る。(講座回数の見直し) | 地区内の女性 | 4月～12月 | 5回 |
| | | とみやふるさとまつり(センター文化祭) | 地域文化の発展向上と地域住民の連帯意識の高揚を図る。 | 富屋生涯学習センター利用団体及び地域住民 | 11月 | 1回 |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持てるようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(13) 豊郷生涯学習センター



所在地 宇都宮市岩曾町 825 番地 1
電話番号 028-660-2340
ファクス 028-660-2270

開設 昭和 25 年 3 月 20 日
施設複合化 平成 8 年 4 月 1 日
対象区域 豊郷中央・豊郷南・豊郷北・
海道小学校の各通学区域
構造 RC 造 2 階建
敷地面積 6011.69 m²
延床面積 1496.77 m²
建築年月日 平成 8 年 4 月 1 日
駐車場台数 110 台
(うち身障者用) 2 台

ア 平成 27 年度 豊郷生涯学習センター基本方針

豊郷地区においては、地域まちづくり協議会の組織である各種団体が主体となり地域活動が活発に展開されている。

しかし、地域住民のコミュニティ意識や連帯感の希薄化、少子高齢や都市化・核家族化の進行による家庭・地域の教育力の低下など、様々な課題も生じている。

このようなことから、地域ぐるみで子どもを育てる意識付けや、絆づくり・地域づくりに繋がる事業を推進するため、幼児から高齢者までの幅広い世代を対象に、学ぶことの喜びや仲間作りに繋がる趣味・教養的な講座を実施し、人間力・地域の教育力の向上など、学んだ成果を地域活動に結びつくきっかけとなるような事業を展開する。

イ 平成27年度 豊郷生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|----------------|--|----------------|--------|----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | わくわく体験教室 | 子どもの頃の体験や多くの人との出会いが、生きる力を育み人間力の向上を培うことから、学校、学年、学級を越えた仲間との交流や、生活体験・社会体験を通して自ら考え行動できる青少年の育成を図る。 | 地区内小学校3～5年生 | 5月～11月 | 6回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | とよさと元気塾 | 情報化・国際化・少子高齢化と社会環境の変化の加速が増している中で、高齢者が変化に適応し、心豊かに生活できるよう生活に役に立つための知識や技能を身につけるとともに、健康づくり生きがいづくりを支援する。 | 地区内在住60歳以上の市民 | 5月～11月 | 6回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | 子育て広場 | 子育ての学習やレクリエーションを通して、親子のふれあいを深め、生き生きとした親子関係を育むとともに、保護者同士の情報交換の場を提供し、子育て中の親の仲間づくりを図る。 | 就学前の幼児と保護者 | 5月～12月 | 7回 | |
| | ◎親育ち講座 | 家庭を取り巻く社会情勢が変化するなか、子育てへの自信喪失や不安感を解消することにより、家庭における親の教育力の向上を図る。 | 1～3歳の子を持つ保護者 | 9月～11月 | 3回 | |
| | ◎イクメン応援講座 | 父親の育児参加を促し、父母共通した子育ての知識や技術を身につけるとともに、家族で参加できる喜びと母親がリフレッシュし心の安定を図れる機会を提供する。 | 1～3歳の子を持つ両親 | 9月～10月 | 2回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | ◎まほろば探検塾 | 地域の歴史や文化を学ぶことにより、地域の持つ魅力や課題に気づき、それを活かした地域の活動や課題解決につなげるとともに、学びを通じた仲間づくりを目指す。 | 地区内在住の市民 | 6月～11月 | 5回 | |
| | 豊郷まつり(センター文化祭) | センター利用団体の学習成果の発表 | 豊郷生涯学習センター利用団体 | 1月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持てるようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(14) 篠井生涯学習センター



所在地 宇都宮市下小池町 466-1
電話番号 028-669-2515
ファクス 028-669-2972

開設 昭和26年 1月26日
施設複合化 平成3年 4月 1日
対象区域 篠井小学校通学区域
構造 RC造2階建
敷地面積 5524.86 m²
延床面積 1367.09 m²
建築年月日 平成3年4月1日
駐車場台数 65台
(うち身障者用) 2台

ア 平成27年度 篠井生涯学習センター基本方針

篠井地区は、豊かな自然に恵まれ古くから世代間の交流を大切にし、歴史と伝統に守られてきた地域です。また、篠井ニュータウンの新たな人も加わり、まちづくりの活動を通じて人と人の輪が広まってきました。

学びを通して豊かな人間性を育み地域教育の向上を図るため、地域再発見など環境や地域素材を学ぶ体験的な事業に取り組むなど一層講座内容を充実させ、一人一人の暮らしの中に活気ある「元気で魅力ある篠井」を目指します。

さらに、学習の成果を地域づくりに活かし結びつけ、地域コミュニティの強化を図ります。

イ 平成27年度 篠井生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|-----------------------------|---|----------------------|--------|-----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | ◎少年大空教室 (ホップ・ステップ・しのいっこ) | 郷土の伝承、文化、自然に関する学習活動や心身の成長を促がし、郷土愛の醸成を図る。 (講座周知の強化) | 篠井小在籍児童 | 8月～2月 | 7回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | 輝き人生教室 (高齢者教室) | 余暇の有効活用、健康の維持増進、世代間交流を通して健康で生き甲斐のある充実感溢れる生活を送る力を身につける。 | 地区内高齢者 | 6月～2月 | 10回 | |
| | ◎地域力アップ教室 | 地域がよりいっそう成長できる元気になるきっかけづくりとして、地域内にある豊かな資源を、地域住民が認識・学習しまちづくりに活かせる人材を育成する。 (地域イベントとの連携) 1. 地域課題の発見と解決 2. リーダーの養成と発掘 3. 地域づくりの意識の醸成等についてより考慮した内容とする。 | 一般成人 | 7月～11月 | 5回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | shinoinスマイルファミリースクール | 家庭において子どもの教育を行うために、考え方や育て方について必要な知識や技術を身に付け、親子ともに参加できる体験学習を通し親子のふれあいの場を提供する。 | 地区内小学生とその保護者 | 7月～11月 | 4回 | |
| | ワクワク子育て仲間づくり | 親子の絆や愛情を深め、心身の健康を育むとともに受講生の交流を促進し、教育機関との連携を図りながら親力の向上に繋げる。 (講座周知の強化) | 0歳～未就学児 | 6月～10月 | 5回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | 篠井生涯学習センター園化祭 | センター利用団体の学習成果の発表と団体間の相互交流を図る。 | 篠井生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 11月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようになるとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(15) 姿川生涯学習センター



所在地 宇都宮市西川田町 805 番地 1
電話番号 028-658-1594
ファクス 028-659-9425
開設 昭和 26 年 12 月 1 日
施設複合化 平成 15 年 12 月 22 日
対象区域 姿川中央・姿川第一・姿川第二小学校の各通学区域と新田小学校の通学区域のうちみどり野町、針ヶ谷町、針ヶ谷 1 丁目及び若松原 3 丁目を除く区域
構造 RC 造 2 階建
敷地面積 8495.42 m²
延床面積 1497.56 m²
建築年月日 平成 15 年 12 月 22 日
駐車場台数 130 台
(うち身障者用) 3 台

ア 平成 27 年度 姿川生涯学習センター基本方針

当地区は、「将来ビジョン」に掲げた将来像（方向性）を実現するため、地域が抱えるさまざまな課題への取り組みを地域と行政が協働して実現する必要がある。

そこで、身近にまちづくりを感じてもらふ内容の講座や地域の人材を多く活用する講座を開講し、地域まちづくりへの関心や参加意識を高めるとともに、地域力の向上も図っていく。

イ 平成27年度 姿川生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|---------------|---|-------------------------|---------|----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 姿川ふるさと教室 | 郷土の伝承・文化自然に関する学習活動や生活向上に関する実践的活動を通し、ふるさとを見直し、地域連帯感や郷土愛の精神を深め、子どもたちの健全育成を図る。また、学んだことを地域へ情報発信する役目も担えるよう地域ジュニアリーダーとしての養成を図る。 | 地区内の小学4年生 | 7月～10月 | 5回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | シニア倶楽部 | 知識の習得、趣味、レクリエーション等を通して、高齢者がその年齢にふさわしい社会的能力を高めるとともに、受講生同士のコミュニケーションを図ることを目的とする。また、地域内の社会資源を活用し、まちづくりの意識醸成を図るための事業展開を図り、それを通し、まちづくり活動のきっかけづくりの場を提供する。 | 地区内60歳以上の男女 | 10月～11月 | 5回 | |
| | 姿川歴史教室 | 地区内の遺跡や文化財マップなどを取り入れた「姿川さんぽ」を活用し、「姿川地区の歴史教室」を開催する。地区内の歴史・文化を知ることにより地域の文化活動をPR、文化を創造する風土づくりや文化活動への動機づけを行う。 | 地区内一般成人 | 8月 | 1回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | 子育て広場 | 子育ての学習やレクリエーションを通じて子ども同士、親同士の交流を深める。保健師・保育士との連携も深め、内容の充実を図る。 | 地区内の未就学児とその保護者 | 5月～7月 | 3回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | ◎男の料理教室 | 身近なところで活躍されている方を講師に招き、「地域活動をはじめたい」「セカンドライフを充実させたい」「自分の住む地域と関りたい」と考えている方々に、“地域デビュー”の契機となる事業とすることを目的とする。 | 地区内一般成人 | 10月～1月 | 3回 | |
| | 姿川地区文化祭 | 特色ある地域文化の向上発展並びに生涯学習の推進、地域による主体的な地域づくりの推進、及び地域住民の連帯意識の高揚を図る。 | 地区内一般市民及び姿川生涯学習センター利用団体 | 11月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(16) 雀宮生涯学習センター



| | |
|-------|---|
| 所在地 | 宇都宮市新富町9番4号 |
| 電話番号 | 028-654-1013 |
| ファクス | 028-653-5646 |
| 開設 | 昭和28年12月1日 |
| 施設複合化 | 平成元年10月16日 |
| 対象区域 | 雀宮中央・雀宮東・雀宮南 新田小通学区域のうち針ヶ谷町 及び針ヶ谷1丁目の区域五代小 通学区域のうち北若松原1丁目、 北若松原2丁目、五代2丁目の一 部、五代3丁目の一部、みどり野 町、若松原1丁目、若松原2丁目 及び若松原3丁目を除く区域 |
| 構造 | RC造2階建 |
| 敷地面積 | 4003.14㎡ |
| 延床面積 | 1552.24㎡ |
| 建築年月日 | 平成元年10月16日 |
| 駐車場台数 | 151台 (うち身障者用) 3台 |

ア 平成27年度 雀宮生涯学習センター基本方針

少子高齢化や都市部での核家族化の進行により、家庭の教育力や、防犯、地域福祉など、地域社会やまちづくりにおいて、新たな課題が生じている。

また、市民が持つ豊富な知識や経験をより良い地域社会の創造につなげていくため、市民一人ひとりの学習成果が生きる生涯学習活動を促進することが重要となっている。

こうしたことから、幅広い市民の学ぶことへの意欲に応え、誰もが自己実現に向けた取り組みができるよう、生涯にわたる学習活動を促進し、学びを通して豊かな人間性を育むとともに、子どもの育ちや地域社会を支える「人づくり」を進めていく。

特に「NCC形成」や「雀宮地域ビジョン」を実現するため、まちづくりや生涯学習活動等へなかなか参加できなかった現役世代(20～50歳代)を対象に、地域を担う人材の育成や継続的なまちづくり活動につなげていけるような学習機会の提供を重点的に実施する。

イ 平成27年度 雀宮生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|---------------|---|--------------------------|---------|----|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 青少年セミナー | 自然に親しむ活動やものづくり活動を通して、なかまづくりや班編成による役割分担を決めることで、連帯感や責任感を養い、次世代を担うリーダーシップ精神を育む。 | 雀宮地区内の小学4～6年生 | 7月～10月 | 3回 | |
| | 地域わくわく子ども塾 | 他の地域にはない雀宮地区ならではの施設(宇都宮工業高等学校・陸上自衛隊宇都宮駐屯地)と連携し、ここでしかできない体験学習やものづくりなどを通し、地域とともに、地域に誇りをもち地域を担う人材の育成を図る。 ・宇都宮工業高等学校 ・自衛隊宇都宮駐屯地 (従来事業「ものづくりスペシャル」を名称変更し、ものづくりだけに留まらず体験活動や地域学に関することなど幅広いメニューで実施する。) | 雀宮地区内の小学4～6年生 | 7月, 12月 | 2回 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | さわやか倶楽部 | 豊かな経験を引き続き社会に活かし、さらに新しい知識や趣味を会得することで、健康で生きがいのある豊かな人生を送るために必要な学習をする。 (従来事業「ひまわり学級」と「さわやかライフセミナー(一般成人対象)」の内容や参加者の年齢層が類似していることから、「さわやかライフセミナー」を廃止統合し、内容充実を図る。) | 雀宮地区内の60歳以上の方 | 6月～10月 | 6回 | |
| | ライフアップセミナー | もっと学びたい、もっと知りたい現役世代(20歳～50歳代)の住民を対象に、現代的な課題などを興味や関心を持ちながら学習できるような場を提供し、新たなライフスタイルを送るきっかけづくりやさらには学習を通じた新たな学びを促す機会とする。 | 雀宮地区内の一般成人(特に20～50歳代) | 7月, 2月 | 2回 | |
| | 雀宮の歴史を学ぶ | 歴史をとおして地域の魅力や課題を発見するとともに、参加者の交流を深めることで、まちづくり推進に向けた取組みのきっかけとする。また、地域のイベント時に併せてフィールドワークを実施することで対象範囲を拡大していく。 | 雀宮地区内の一般成人 | 11月 | 1回 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | 親子ふれあい広場 | 少子化社会に対応し、家庭における子どもの教育を行うために必要な考え方や育て方についての知識や技術を身につけ、「親子の絆」を育むとともに、家庭教育力の向上を図る。(全6回のうち1回、家庭教育支援講座を組込む) | 雀宮地区内の未就学児とその保護者 | 6月～12月 | 6回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに、その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上、学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | ◎まちづくりワークショップ | 「NCC形成」や「雀宮地域ビジョン」の実現に向け、現役世代(20～50歳代)を対象に自分の住む地域の魅力や課題に気づき、学ぶ機会を提供し、人材育成や仲間づくり・絆づくりを促すとともに、まちづくり活動に参加する契機とする。 | 雀宮地区内の一般成人 | 9月 | 1回 | |
| | 雀宮地域文化祭・収穫祭 | 「ふるさと雀宮」の特色ある地域文化の向上発展と豊かな農産物の収穫を祝い、地域の連帯意識の高揚を図ることを目的とする。 | 雀宮地区内一般市民と雀宮生涯学習センター利用団体 | 11月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようになるとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(17) 上河内生涯学習センター



所在地 宇都宮市中里町 182 番地 1

電話番号 028-674-2233

ファクス 028-674-4619

開設 昭和49年 4月 1日

対象区域 上河内東・上河内西・上河内
中央小学校の各通学区域

構造 RC造2階建

敷地面積 10338 m²

延床面積 924.95 m²

建築年月日 昭和49年3月20日

駐車場台数 30台

(うち身障者用) 1台

ア 平成27年度 上河内生涯学習センター基本方針

激しく変化する社会の中で、市民一人ひとりが心豊かに生活できるよう、学ぶことの喜びや仲間づくりにつながる講座を実施するとともに、人づくりの基本となる家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実に努める。

また、高齢社会における課題や健康など身近なテーマを取り上げ、新たな受講者の発掘に努める。

(ア) 子育て世代を中心とした家庭教育事業の充実

(イ) 心豊かに生きるための教養講座の充実

(ウ) 地域住民の学習ニーズに対応した成人教育の充実

イ 平成27年度 上河内生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|---|---|-----------------------|---------|------------|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 子どもチャレンジ教室(新聞塾) | テーマを決めて記事を読みスクラップすることで、新聞を読むきっかけとし、さらに新しい興味関心に繋げる。 | 小学生 | 7月～8月 | 各1回 | |
| | 子どもチャレンジ教室(科学工作) | 「ものづくり」とおとして科学の楽しさを体験し、創造性を養い、新たな発見や興味関心に繋げる。 | | | | |
| | 子どもチャレンジ教室(ダンボールクラフト) | ダンボールクラフトをおとして、もの作りの楽しさを体験することで、創造性を養い、さらに新たな興味、関心に繋げる。 | | | | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | ライフアップセミナーinかみかわち | 「介護」や「異常気象」、「地域の魅力発見、発信」など時宜を得たテーマや生活上の課題について学習することにより、知識・教養を身に付け実生活に役立てる。 | 一般成人 | 7月～12月 | 8回 | |
| | コミュニケーション入門～世界の国からこんにちは！～あなたのまちで国際交流～ | 日本でも行われるようになってきたハロウィンなどの行事や外国料理について宇都宮市在住の外国人による紹介をおとし、その本当の意味や習慣、考え方の違いを学ぶ。 | 一般成人 | 10月～12月 | 3回 | |
| | 古典に学ぶ～「雨月物語」が伝えるメッセージ～ | 「雨月物語」の講読をおとし、現代にも通じる様々な問題について作者上田秋成のメッセージを読み解く。 | 一般成人 | 5月～7月 | 5回 | |
| | ◎人生サポート講座～円熟期を豊かに～ | 仕事や子育てなどの時期を経た世代が、同世代の人々の積極的な活動事例や自身の健康保持について学び、円熟期をより充実させるためのヒントとする。 | 一般成人 | 5月～7月 | 6回 | |
| | スマートフォンって何？ | スマートフォンの初心者やこれから始めようとしている人を対象に、基礎的な使い方や便利な機能などについて学ぶ。 | 一般成人 | 6月 | 1回 | |
| | ふれあいパソコン教室(初めてのパソコン) | パソコンの基本的な操作をWord, Excelを通して学ぶ。 | | 9月～10月 | 4回 ×2講座 | |
| | ふれあいパソコン教室(写真を取り込む) | デジタルカメラの画像をパソコンに取り込み、編集しアルバムを作るまでを学ぶ。 | | 11月 | 4回 | |
| | ほほえみ塾出前講座 | 地域住民の多様な学習ニーズに応え、地域の公民館等を会場に出前講座を実施し、生きがいづくりや仲間づくりを支援する。 | 一般成人 | 未定 | 随時 | |
| 市民運営講座 | 生涯学習コーディネーターが地域の希望や時宜を得たテーマにより講座を企画運営する。 | 一般成人 | 未定 | 未定 | | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | 子育て広場(前期) | 子育て中の親子が、体操やダンス、ヨガなどを通して触れ合うことで絆を深めるとともに、受講生同士が情報を交換し交流を図る。 | 就学前の乳幼児と保護者 | 5月～7月 | 5回 | |
| 子育て広場(後期) | (年度内に就園年齢に達し、最後まで受講できない事例があったことから、より多くの希望者が受講できるよう前期、後期の2回に分けて実施することとした。) | 10月～11月 | | 4回 | | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し、生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため、学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を積極的に収集、提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者の様々なニーズに応じて情報提供や助言をするなど、学習活動を具体的に支援する。 魅力ある学校づくり地域協議会など、地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行う。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | 上河内地域文化祭□ | 地域の幼稚園、保育園、小中学校の児童生徒及び生涯学習センター利用団体の作品を一堂に展示し、またセンター利用団体はじめ地域の方々が日ごろの学習成果をステージ発表することにより、地域文化の向上と生涯学習推進の機会とする。 | 上河内生涯学習センター利用団体及び一般市民 | 10月 | 1回 | |
| | 成人式 | 新成人が地域のひととともに成人式を作り上げることにより、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことに感謝の気持ちを持てるようにするとともに、成人教育の第一歩として、新成人が地域の人から学べる場、地域へ繋がる場として教育的意義のある事業とする。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |

(18) 河内生涯学習センター



所在地 宇都宮市中岡本町 3225 番地
電話番号 028-673-0800
ファクス 028-673-0846
開設 昭和 53 年 4 月 1 日
対象区域 岡本・白沢・田原・岡本西・
岡本北・田原西小学校の各通
学区域
構造 RC 造 2 階建
敷地面積 10674.24 m²
延床面積 2219.00 m²
建築年月日 昭和 53 年 4 月 1 日
駐車場台数 100 台
(うち身障者用) 2 台

ア 平成 27 年度 河内生涯学習センター基本方針

河内地区は農村部と都市部が混在する地域であり、従前からの住民の高齢化や少子化に伴う人口減少社会の到来などにより、家庭や地域の教育力の低下や地域コミュニティ意識の希薄化など社会環境が大きく変化してきている。

このようなことから、身近な生涯学習の拠点として住民の学習活動を支援するとともに地域に目を向け、地域の魅力や課題に気づききっかけとなるような事業や人間力の向上、家庭・地域の教育力の向上に資する講座など、幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした事業に取り組む。

イ 平成27年度 河内生涯学習センター事業計画

事業名に◎が付いているものは平成27年度重点事業

| 重点項目 | 事業区分 | | 事業の概要 | | | |
|--------------------------|------------------|--|---------------------|---------------------------|-------------------------|--|
| | 事業名 | 内容 | 対象 | 時期 | 回数 | |
| ①人間力の向上に資する事業の充実 | 青少年教育 | | | | | |
| | 少年少女のオモシロ夏休み | 小学校高学年の児童を対象に、充実した夏休みを計画的に生活させることを目的に講座を開講する。 | 小学校4～6年生 | 8月 | 4日 | |
| | ◎こども国際理解教室 | 栃木県に在住する外国人(留学生など)と接し、その国の様子(言葉, 服装, 食べ物等)についての話やゲーム, おやつ作り等の体験的活動をとおして, 国際理解・協力の大切さを知るきっかけ作りをする。 | 小学校5・6年生 | 7月 | 4日 | |
| | 成人教育 | | | | | |
| | ふれあい学級 | 高齢者がお互いの連帯感を深め, 学びあい励ましあって生き甲斐のある人生を送ることを目的とする。 | 60歳以上 | 5月～2月 | 10回 | |
| | かがやきセミナー | 健康で豊かな生活をおくるため, 社会の一般的な知識を学ぶとともに郷土の歴史を探求し, 郷土愛を深める。 | 20歳以上 | 5月～2月 | 10回 | |
| | 美と健康きらめき講座 | 自身の健康・生活・言葉・マナーなど, さまざまな分野で女性がステキに輝ける知識, 教養を, 実体験を交えながら習得する。 | 20歳以上の女性 | 6月～7月 10月～12月 | 前:3回 後:3回 | |
| | 男の料理入門講座 | 健康を維持するための家庭料理や家族団らんのもてる料理づくりを目的とする。 | 20歳以上の男性 | 5月～6月 11月～12月 | I:3回 II:3回 | |
| | 市民運営講座「こころの体操講座」 | 生涯学習コーディネーターの企画運営講座 | 20歳以上 | 6月～8月 未定 | 前:3回 後:未定 | |
| ②家庭・地域の教育力の向上に資する事業の充実 | 家庭教育 | | | | | |
| | ◎親子チャレンジ教室 | 親子参加型の遊びやスポーツなど様々な体験をとおして, 親子の絆を深め, 参加者相互の意見交換や子育てに関する講話等を聞くことにより, 家庭教育のあり方を学ぶ。 | 小学校1～6年生とその保護者 | 5月～7月 8月～10月 11月～1月 | I:4回 II:4回 III:4回 | |
| | 子育て広場 | 「こころ・からだ・健やか」をテーマに, 季節の行事やレクリエーション等をとおして, 親子のスキンシップを図り, 親が乳幼児期の大切さを認識した子育てができるようにする。子育て中の親の仲間づくりにつながるよう, 親同士・子同士の交流の場を提供しながら子育ての支援をする。 | 乳幼児とその保護者 | 5月～1月 | 9回 | |
| | ワクワク子育て講座 | 就学前の幼児を持つ親を対象に, 子育てに関する知識と, 親子, 親同士のコミュニケーションを図ることにより, 楽しく子育てができるよう学ぶ。※託児あり(開催期間の見直し) | 就学前の幼児を持つ保護者 | 6月～11月 | 6回 | |
| ③学習情報拠点としての充実 | 情報収集・提供 | | | | | |
| | 情報収集・提供 | 市民の主体的な学習活動を啓発・支援し, 生涯学習に対する市民ニーズに的確に対応するため, 学習施設や学習機会等の生涯学習関連情報を収集するとともに, その情報を市民に提供する。 | 全市民 | 通年 | 随時 | |
| | 学習相談・地域支援 | | | | | |
| | 学習相談・地域支援 | 相談者のニーズに応じた具体的な学習活動への引き上げや相談者の活動の質の向上, 学習活動中の問題や悩みの解決の手助けなどを行う。 魅力ある学校づくり地域協議会など, 地域の教育力向上に取り組む団体の活動支援を行っていく。 | | 通年 | 随時 | |
| ④地域社会を支える人材育成と学習成果の活用の促進 | 地域における学習活動の推進 | | | | | |
| | ◎いきいき河内発見講座 | 河内の自然や文化等を学ぶことによって, 地域の良さを再発見しながら, 地域活動に関心をもてるようにする。 | 小学校1～6年生とその保護者 | 5月～8月 | 5回 | |
| | 託児ボランティア研修 | 乳幼児の接し方について研修するとともに, ボランティア活動の意義, 託児ボランティア同士の相互理解と親睦, 託児業務の共通理解を図っていく。 | 託児ボランティア登録者及び興味のある方 | 2月 | 1回 | |
| | 河内地域文化祭 | 地域の祭典として, 幼稚園・小中学校の児童生徒の作品展, 地区文化協会及び河内生涯学習センター利用団体及び個人の学習成果の発表の場とする。 | 団体及び一般市民 | 11月 | 2日 | |
| | 成人式 | 新成人が地域の人とともに成人式を作り上げることにより, 地域社会の一員としての自覚や, 地域に育てられたことに感謝の気持ちを持つようにするとともに, 成人教育の第一歩として, 新成人が地域の人から学べる場, 地域へ繋がる場として教育的意義のある事業として開催する。 | 新成人 | 1月 | 1日 | |